

博士論文

日本語と延辺朝鮮語における依頼談話の展開について
— 談話構造とストラテジーの考察を中心に —

張 雪梅

広島大学大学院国際協力研究科

2013年9月

日本語と延辺朝鮮語における依頼談話の展開について
— 談話構造とストラテジーの考察を中心に —

D084310

張 雪梅

広島大学大学院国際協力研究科博士論文

2013年9月

広島大学大学院国際協力研究科

論文名： 日本語と延辺朝鮮語における依頼談話の展開について
—談話構造とストラテジーの考察を中心に—

学位の名称： 博士（学術）

学生番号： D084310

氏名： 張 雪梅

2013年 8月 5日

審査委員会

委員長・准教授

深見兼孝

深見兼孝



教授

佐藤暢治

佐藤 暢治



教授

黒田則博

黒田 則博



文学研究科 教授

今田良信

今田 良信



文学研究科 教授

高永茂

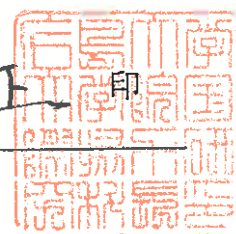
高永茂



2013年 9月 6日

研究科長

藤原章正



目次

第一章 序論

1.1	研究の動機	7
1.2	研究目的と意義	9
1.3	分析対象と研究の視点	10
1.3.1	分析対象	10
1.3.2	研究の視点	11
1.4	論文の構成	12

第二章 先行研究

2.0	はじめに	14
2.1	会話分析	14
2.1.1	エスノメソドロジー	14
2.1.2	「会話分析」と本研究の関連性	18
2.2	語用論	19
2.2.1	Austin の発話行為理論	19
2.2.2	Searle の発話行為論	20
2.2.3	Grice の協調の原理	21
2.2.4	「語用論」と本研究の関連性	21
2.3	依頼談話の構造に関する研究	22
2.3.1	依頼の定義	22
2.3.2	依頼の全体的構造に関する研究	23
2.4	先行研究の課題	26
2.4.1	研究データについて	26
2.4.2	研究方法について	27
2.4.3	分析の枠組みについて	27
2.5	本研究の課題	29

第三章 本研究のデータ

3.0	はじめに	30
3.1	調査目的	30
3.2	調査概要	30
3.3	調査対象者	31

3.4	調査手順	35
3.5	ロールプレイのカードとフェイスシート	35
3.6	会話資料の文字化の方法	36

第四章 研究の枠組み

4.0	はじめに	37
4.1	本研究における依頼談話とは	37
4.2	本研究における【部】	38
4.3	分析の枠組み	38
4.3.1	話段	39
4.3.2	ストラテジー	50
4.4	分析方法	54
4.4.1	【本用件部】における分析方法	54
4.4.2	【再依頼部】における分析方法	55

第五章 〈話段〉レベルからみた依頼談話の全体的構造

5.0	はじめに	57
5.1	【部】と話段による全体的構造	57
5.2	話段の使用について	62
5.2.1	話段の出現頻度	62
5.2.2	依頼談話の構造パターン	63
5.3	五章のまとめ	65

第六章 ストラテジーレベルからみた【本用件部】の談話構造

6.0	はじめに	67
6.1	パターンⅠとパターンⅡを含むデータ	67
6.2	「依頼・承諾」の展開の場合	72
6.2.1	ストラテジーの出現頻度	72
6.2.2	「依頼・承諾」の始まり	74
6.2.3	ストラテジーのパターン	75
6.2.4	「依頼・承諾」の終わり	81
6.2.5	日本語と延辺朝鮮語の比較	81
6.3	「依頼・曖昧」の展開の場合	83
6.3.1	ストラテジーの出現頻度	83

6.3.2	「依頼・曖昧」の始まり	84
6.3.3	ストラテジーのパターン	85
6.3.4	「依頼・曖昧」の終わり	94
6.3.5	日本語と延辺朝鮮語の比較	95
6.4	「依頼・拒絶」の展開の場合	95
6.4.1	ストラテジーの出現頻度	96
6.4.2	「依頼・拒絶」の始まり	96
6.4.3	ストラテジーのパターン	97
6.4.4	「依頼・拒絶」の終わり	106
6.4.5	日本語と延辺朝鮮語の比較	107
6.5	六章のまとめ	108

第七章 ストラテジーレベルからみた【再依頼部】の談話構造

7.0	はじめに	111
7.1	ストラテジーの出現頻度	111
7.2	【再依頼部】の始まり	112
7.2.1	拒絶直後の「受け止め」	112
7.2.2	その他の始まり	114
7.3	発話内行為としての依頼の認定	117
7.4	談話中で依頼を断られない展開	118
7.4.1	隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」	118
7.4.2	承諾を保留する挿入発話連鎖	120
7.4.3	被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合	126
7.4.4	日本語と延辺朝鮮語の比較	128
7.5	談話中で依頼を断られる展開	129
7.5.1	隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」	130
7.5.2	拒絶を保留する挿入発話連鎖	133
7.5.3	被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合	137
7.5.4	拒絶直後のストラテジー	138
7.5.5	隣接応答ペアとしての「依頼」と承諾	140
7.5.6	承諾を保留する挿入発話連鎖	141
7.5.7	実質的な展開に寄与したストラテジー	146
7.5.8	日本語と延辺朝鮮語の比較	150
7.6	七章のまとめ	152

第八章 結論と今後の課題

8.1	結論	155
8.1.1	話段レベルからみた依頼談話の全体的構造	155
8.1.2	【本用件部】	156
8.1.3	【再依頼部】	157
8.2	今後の課題	160

表 一 覧

表 2-1	日本語の先行研究における調査の内訳	23
表 3-1	被調査者の内訳	31
表 3-2	日本人学生のプロフィール	31
表 3-3	延辺朝鮮族学生のプロフィール	33
表 4-1	依頼談話のデータの分析例	39
表 4-2	依頼者ストラテジーの分類項目と分類例	51
表 4-3	被依頼者ストラテジーの分類項目と分類例	53
表 5-1	日本語の依頼談話における全体的構造	57
表 5-2	延辺朝鮮語の依頼談話における全体的構造	59
表 5-3	両言語の話段の出現頻度	63
表 6-1	日本語におけるパターン I とパターン II のデータ	67
表 6-2	延辺朝鮮語におけるパターン I とパターン II のデータ	69
表 6-3	「依頼・承諾」における両言語のストラテジーの出現頻度	72
表 6-4	「依頼・承諾」の始まりにおけるストラテジー	75
表 6-5	「依頼・承諾」：隣接応答ペアの「依頼-承諾」の「依頼」の仕方	76
表 6-6	情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」の談話展開	79
表 6-7	「依頼・曖昧」における両言語のストラテジーの出現頻度	83
表 6-8	「依頼・曖昧」の始まりにおけるストラテジー	84
表 6-9	「依頼・曖昧」における両言語の談話展開	85
表 6-10	「依頼-曖昧」の内訳	87
表 6-11	情報のやり取り+「依頼-曖昧」の内訳	89
表 6-12	「依頼・曖昧」：依頼のストラテジーが現れない展開	91
表 6-13	「依頼・拒絶」における両言語のストラテジーの出現頻度	96
表 6-14	「依頼・拒絶」の始まりにおけるストラテジー	97
表 6-15	隣接応答ペア「依頼-拒絶」におけるストラテジー	98
表 6-16	応答を保留する挿入発話連鎖「依頼」と「拒絶」でのストラテジー	100

表 6-17	情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」	102
表 6-18	「依頼・拒絶」：依頼のストラテジーが現れない展開	105
表 7-1	【再依頼部】における両言語のストラテジーの出現頻度	111
表 7-2	拒絶直後の「受け止め」のタイプと表現例	113
表 7-3	「受け止め」以外の始まりに関するストラテジー使用の内訳	114
表 7-4	談話中で依頼を断られない展開：隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」	119
表 7-5	談話中で依頼を断られない展開「応答を保留する挿入発話連鎖」：依頼	121
表 7-6	談話中で依頼を断られない展開：積極的な態度か配慮が現れた後の依頼	123
表 7-7	談話中で依頼を断られない展開：曖昧な態度が現れた後の依頼の内訳	125
表 7-8	談話中で依頼を断られない展開：被依頼者が【再依頼部】を切り出す内訳	127
表 7-9	談話中で依頼を断られる展開：隣接応答ペア「依頼-拒絶」	131
表 7-10	談話中で依頼を断られる展開：拒絶を保留する挿入発話連鎖（日本語）	133
表 7-11	談話中で依頼を断られる展開：拒絶を保留する挿入発話連鎖（延辺朝鮮語）	134
表 7-12	談話中で依頼を断られる展開：拒絶直後のストラテジー	138
表 7-13	談話中で依頼を断られる展開：隣接応答ペアとしての「依頼-承諾」	141
表 7-14	談話中で依頼を断られる展開：承諾を保留する挿入発話連鎖（日本語）	142
表 7-15	談話中で依頼を断られる展開：承諾を保留する挿入発話連鎖（延辺朝鮮語）	142
表 7-16	談話中で依頼を断られる展開：実質的な展開に寄与したストラテジー	146

図 一 覧

図 3-1	本研究で取り上げる場面	36
図 4-1	【本用件部】における分析手順	55
図 4-2	【再依頼部】における分析手順	56
図 5-1	日本語の【本用件部】における話段展開	64
図 5-2	日本語の【再依頼部】における話段展開	64
図 5-3	延辺朝鮮語の【本用件部】における話段展開	64
図 5-4	延辺朝鮮語の【再依頼部】における話段展開	64
図 5-5	両言語の依頼談話における話段展開の図式化	65
図 6-1	「依頼・承諾」の展開：延辺朝鮮語の「質問-応答」の挿入	78
図 6-2	「依頼・拒絶」の展開：「質問-応答」の挿入	101
図 6-3	【本用件部】「依頼・拒絶」の展開：「相槌」と「質問-答え」の挿入	102
	【参考文献】	162
	【付録】	169
	【注一覧】	172

第一章 序論

1.1 研究の動機

「依頼」は言語行動の中でも、相当重要な位置を占めるものである。外国語としての日本語の学習の中でも、依頼のための表現や行動の仕方は重要な学習内容となる。筆者は延辺朝鮮語^{注1}を母語とする日本語上級学習者である。既に中国で日本語能力試験の1級にも合格し、日常生活での意思疎通に困ることはない。しかし、実際に日本で留学生活を送るようになって、話し言葉で日本人に依頼するとき、特に親しい友人に負担度の高い依頼をして相手に断られた場合、特にその難しさを感じる。延辺朝鮮族は親友同士がお互いに助け合うのは当たり前だと考えているため、親友に依頼するとき、依頼者は依頼内容に決定権がなくても権限を持っているかのように振舞い、日本人から見ると粗暴な印象を与えそうな言語行動を取っている。ここで談話レベルが問題になってくる。それは現実のコミュニケーションで言語表現は談話の形であるためである。中道・土井（1995）は、依頼行動では「相手の反応への対応」の段階が学習者にとって一番習得しにくいと指摘している。日本語でも親友同士の間柄だと直接的な発話と行動が見られるが、事情の説明と依頼の提示、被依頼者の断りに対する受け止め方、相手の反応に対する反応などの言語使用が延辺朝鮮語と異なる点が多い。日本語でより円滑、効果的に物ごとを頼みたい、談話レベルの言語表現がどのような構造を持ち、依頼談話がどのようなメカニズムを持っているかを見極めたい、と考え始めたことが依頼会話を研究する出発点となったのである。

日本語の依頼に関する研究は今まで既にたくさんなされてきたが、その多くは依頼表現に注目し、相手との関係や場面の種類によって、依頼表現がどう変わるのか、丁寧さの観点から分析したものが多かった（浜田 1995、池田他 2000）。浜田（1995）は日中両言語における依頼表現上の違いを検討し、池田他（2000）は、依頼の発話行為にどのような意味構成要素が用いられるのかを検討している。依頼の発話行為のストラテジー（4.3.2を参照）の種類について研究したものとしては、熊谷（1995）、巖（1999、2004）がある。しかし、文レベルの研究だけでは取り扱いきれない依頼表現の存在に気付き、井出（1982）、熊取谷（1995）、柏崎（1995）などは発話行為としての依頼から談話行動としての依頼への視点移動の必然性を指摘している。

そうした流れの中で、依頼を談話レベルで扱うものが増えてきた。話しかけから依頼発話に到るまでの依頼の会話構造や依頼の前置きなどに注目したものに熊井（1992）、柏崎（1993）、謝（2000）、猪崎（2000）、槌田（2003）などがある。柏崎（1993）は談話レベルで話しかけ行動の依頼表現と行動の構造をみている。日本語の依頼談話の特徴を、「前置き表現」や「ポーズ」によって相手を話の場に引き込む働きかけを行った後、「用件内容」に進む点にあるとし

ている。謝(2000)は談話レベルから「依頼発話」の切り出し方をみている。「依頼発話」までの展開は日本人は「注意喚起」→「見込みの確認」→「先行する補助使用」、中国人は「注意喚起」→「依頼発話」になっているとしている。猪崎(2000)は日本語母語話者は「依頼予告」→「先行発話」→「依頼発話」の順に、フランス人は「先行発話」→「依頼発話」の順に〈話段〉(4.3.1を参照)が並ぶとしている。また、「先行発話」で日本人は「情報提供」を、フランス人は「情報要求」を多用すると指摘している。槌田(2003)は、語用論的ポライトネスの側面から日韓の依頼談話戦略の使い分けをみている。日本語は依頼発話の前に「前置き」や「予告」などの情報のやり取りがあり、その情報のやり取りは「情報提供型」が多い。彼らの先行研究の特徴は依頼の段階的な進め方を研究したことにある。これらの先行研究によって日本語に関しては次のことが明らかになった。日本人は直接に依頼を発せず、予め依頼をすることを明示的に示したり、相手の都合を聞き、大まかな目的と関連情報の提示の後「依頼発話」を切り出したりすることで明示的・直接的に依頼をしている。

一方、依頼の全体に目を向けたものもある。日本語学習者の「依頼表現」に関して研究を行ったものに、水野(1996a、1996b)、鮫島(1998)があり、数は少ないが依頼談話の全体的構造をみたものに、徐(2008)、アクドーアン(2008)の研究がある。依頼談話の全体的構造は本研究で取り上げようとする課題でもある。特に【再依頼部】に目を向けたものは更に少ない。徐(2008)は日本語母語場面、台湾人中国語場面、台湾人日本語接触場面の3場面に注目して、意味公式と戦略を分析の枠組みに【先行部】【依頼部】【再依頼部】【終結部】について談話構造を考察し、【再依頼部】に関しては戦略の分析を行った。アクドーアン(2008)は日本語とトルコ語の依頼行動を相手配慮の視点から異同を研究し、繰り返し発話、依頼の表現形式、情報提供の内容、終結部のやり取りについて結果を得ている。

しかし、上述した先行研究は、主に依頼者側を中心に研究がなされ、依頼談話展開のパターンの抽出に留まっている。依頼者と被依頼者がどのように働きかけ合い、依頼の会話展開パターンを作りあげているのかについて触れていない。如何なる会話も話し手と聞き手の相互作用によって成立するものであるので、依頼者側だけに注目して「依頼」の会話展開を見るのは不十分である。

こうした中、顧他(1998)、柳(2006)は依頼談話の全体的構造を会話者間の相互関係の中で考察しようと試みた。柳(2006)は日韓両言語の〈話段〉のレベルでの構造、〈話段〉ごとの依頼者側の戦略の種類と内容、及び言語・文化による特徴を以下のように明らかにしている。場面状況、被依頼者の反応、やりとりの内容の3つの要因の相互作用を受け、〈話段〉が現れ、〈話段〉の現れ(種類、出現数、出現順)で依頼談話の構造が決まると指摘している。しかし、柳(2006)は〈話段〉内部の会話者間の戦略の相互作用には目を向けなかった。一方、顧他(1998)は依頼談話の戦略そのものを研究している。依頼者と被依頼者の態度と対人的配慮の基準から戦略を分類し、日中依頼会話における依頼者戦略

と被依頼者ストラテジー、会話構造的視点からストラテジーの内容形式について結果を得ている。ところが、柳(2006)も顧他(1998)も、会話のやり取りの中で行われる「依頼」を見ていない。つまり、ある発話内行為が直接的あるいは間接的に遂行される場合、またはあるストラテジーが用いられた場合、それがどのような会話の展開を引き起こし、相手はそれにどう反応するのかという問題は分析に含めなかった。実際の会話の中で見られる「依頼」に注目し、全体の談話構造を分析する必要がある。分析内容においては、依頼、返答、依頼談話の構造パターン、ストラテジーの諸方面の分析など「依頼」の一面だけを分析しているが、各々の特徴を明らかにした上で、それらが相互にどのように関連づけられているかまでを分析・解明するといった「依頼」の全体像を究明する研究はまだ行われていない。また、依頼の全体構造に関する先行研究は発話機能による分析(熊井1992)、ストラテジーによる分析(顧他1998)、〈話段〉・ストラテジー・発話機能による分析(柳2006)、ストラテジーと意味公式による分析(徐2008)がある。〈話段〉は談話の全体的構造を把握する有効な方法で、依頼談話の全体的構造と依頼談話の構造そのものが明確に説明し得るのである。そして、〈話段〉内部の展開や他の〈話段〉への移行には、参加者の「ストラテジー」が関与し、機能が果たされる。談話は〈話段〉とストラテジーが密接不可分な関係にあることから、本研究では〈話段〉からみた談話構造とストラテジーからみた談話構造を両方みる方法を取る。

依頼談話構造に関する先行研究の問題点は、(1)談話の全体的構造をみたものが少なく、とりわけ再依頼に関するものが少ない、(2)会話のやり取りの中で行われる「依頼」を見ていない、(3)〈話段〉内部の展開や他の〈話段〉への移行とストラテジーの関連付けをみていない、(4)依頼を拒絶された後、承諾を引き出すポイントとなるストラテジーに関する考察が足りない、の4点が挙げられる。以上を踏まえた上で筆者は本研究における研究目的と意義を1.2で述べる。

1.2 研究目的と意義

筆者の将来的な研究目標は、談話の構造を把握し意識した上で、円滑なコミュニケーション作りの指導に貢献することであるが、そのための基礎研究を行うことが本研究の目的である。

具体的に言うと本研究の目的は、日本語と延辺朝鮮語における「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の談話展開について、依頼者ストラテジーと被依頼者ストラテジーの相互作用(被依頼者側の発話の依頼者側への影響、依頼者側の発話の被依頼者側への影響)の観点から、依頼談話の〈話段〉の展開過程を総合的に捉えて依頼談話の構造を明らかにすることである。

会話の全体的構造である談話展開のメカニズムと会話の局部的仕組みと言える談話のストラテジーを考察することを目的とする本研究で、再依頼を取り上げた理由は頼みにくいこと

をどう頼むか、断られた時にどう対処すればいいかが上級になっても難しいからである。本研究では具体的に以下の3点に焦点を絞り、明らかにすることを試みる。

(1) 〈話段〉レベルの依頼構造の考察

〈話段〉レベル（数、順、種類、組合せ）の依頼談話の全体的構造とパターン

(2) 【本用件部】と【再依頼部】におけるストラテジーレベルの依頼構造の考察

a 応答ペアとしての「依頼-承諾」「依頼-拒絶」の形成過程

b 応答ペアの形成過程における「依頼者ストラテジー」と「被依頼者ストラテジー」の使用

(3) 【再依頼部】で実質的な展開に寄与したストラテジー^{注2}

本研究は依頼者ストラテジーと被依頼者ストラテジーの相互作用の観点から、依頼談話の〈話段〉の展開過程を総合的に捉えており、依頼者側に偏りがちな従来の依頼談話分析における問題を乗り越えようとした点に、本研究の独自性と意義があるのではないかと考える。

延辺朝鮮語と韓国語は実際は1種類の言語であってどちらも朝鮮語の一方言である。本研究は韓国での朝鮮語ではない変種を扱ったもので、言語学の研究の観点からどのような表現と表現意図つまりストラテジーの連鎖が現れるのかを分析する言語学の領域に属する研究である。これまで、延辺朝鮮語と日本語の依頼談話を対照研究したものは著者の修士論文(2008)と拙稿(2010、2013)以外は見当たらない。特に拙稿(2013)は「依頼・拒絶・再依頼・承諾」の展開における依頼談話の構造を研究していて、本稿と密接な関係がある。本研究は延辺朝鮮語と日本語を対照分析した先駆的な研究である。日本語学習者、延辺朝鮮語学習者に参考になればと考える。

本研究では、他の研究者の方法論を消化し、参考にしたうえで本研究独自の分析方法を作ろうと努めた。それが最も体现されているところは【再依頼部】であると言える。被依頼者側の発話の依頼者側への影響と依頼者側の発話の被依頼者側への影響の両方が捉えられている。そして、依頼談話構造とストラテジーの特徴を総合的に捉えるのみならず、それらの特徴が相互にどのように関連しているかまで分析している。研究結果が両言語の円滑なコミュニケーションの理解の一助になるのではないかと考える。もちろん、自分で考えた方法論を実際の自然会話に適用した結果、未解決の問題が存在するものの、依頼会話分析の研究において示唆できることが期待される。以上、本研究の意義について述べた。

1.3 分析対象と研究の視点

1.3.1 分析対象

依頼談話は【先行部】、【本用件部】、【再依頼部】、【終結部】に分けられる。本研究はストラテジーの連鎖や、依頼において事態を好転させるストラテジーといった先行研究に欠けて

いて十分に論じられていない主要部の【本用件部】と【再依頼部】を分析対象にし、【先行部】と【終結部】は分析対象から外す。

本研究のデータは会話の形をとっている。本研究では、依頼談話を記号としての言語使用の面から扱い、非言語行動は分析しない。

依頼談話のストラテジーには「依頼成立の目的達成のためのストラテジー」と「良い人間関係を維持するための相手配慮のためのストラテジー」があると言われている。従来の先行研究は、後者の観点から研究したものが多いが、前者の観点からの研究が足りない。そこで、本研究で主に前者の観点から依頼談話のストラテジーを分析する。

1.3.2 研究の視点

先行研究を踏まえたうえで、1.3.2では本研究における3つの研究視点を提示する。

(1) 談話分析と会話分析

本研究は依頼の談話分析であることを明記しておきたい。談話分析 (discourse analysis) は談話の構造の一貫性を明らかにする研究であるが、実際に会話分析に適用すると一貫性が必ずあるとは限らない。また、特定の発話はどのような意味を伝え、前後の文脈などどのような関係があるのか、というのは会話の具体例を見なければ分からないからである。実際上の会話はどのように連鎖され、何を意味しているのか、会話の構造はどのようにになっているのかという問題を研究しようとする、談話分析は会話分析 (conversational analysis) の方法を取り入れざるをえない。本稿は会話を取り上げるけれども、談話分析であると認識しておく。

(2) 依頼の談話分析

本研究ではエスノメソドロジーの会話分析の分析方法を取って、〈話段〉とストラテジーの順番(turn)とその移行と連鎖をみるとともに相互関係をみる。

また、談話分析の研究範囲は広範に涉っており、様々な角度で研究できる。意味の表現と理解の原理、会話における言語使用のメカニズム、言語形式の機能、言語使用の社会・文化的側面といったものがあるが、本研究は会話における言語使用のメカニズムの角度で研究を行う。

本研究は会話における言語使用のメカニズムを明らかにするために、特に常識的な知識としての会話の構造とコミュニケーションのための表現手段に関わる概念を、それぞれ「談話の構造」と「談話のストラテジー」に分けて考察する。

(3) 相互作用重視の談話分析

依頼談話で被依頼者の反応は談話の展開に大きく影響する。ところが、実際の研究は依頼者側に片寄ることが多く被依頼者の反応を十分に捉えていないため、実際の依頼談話に用い

られるストラテジーの本来の様子が見られない。会話参加者の相互作用を重視し、依頼談話を十分に解明することが必要ではないかと思われる。

実際の談話では、依頼、事情の説明、被依頼者の反応、再依頼などの各要素の出現順にはさまざまな変化がありうる。それゆえに、依頼談話の構造を扱う時、依頼会話の切り出しから事情の説明と依頼を提示する段階と、相手の反応に対する反応の再依頼の段階がなければならない。しかし、依頼談話を扱った従来の研究は依頼会話の一部だけを扱うことが多く、再依頼を含んだ会話全体を視野に入れたものが少ない。本研究では依頼者側だけでなく、相手の反応を含めた会話全体を経験的・帰納的アプローチによって依頼談話の構造を考察する。

(4) 依頼の対照語用論

発話者は発話意図を持っていて、ストラテジーを使用して目的を実現する。談話には構造がある。談話の構造を研究するためには、発話を理解・説明し、データ資料を観察して、それを談話の〈話段〉、発話機能、ストラテジーに分類しなければならない。これらは何れも語用論レベルの問題である。本研究は語用論を理論的背景の1つにして論を進めていく。

本研究は会話の展開の特徴にどのような類似点と相違点があるのかを日本人同士と延辺朝鮮族同士で比較分析する対照会話分析の研究である。本論文では日本人の日本語会話と延辺朝鮮族の延辺朝鮮語会話を分析する時、言語の使い方に重点をおいて考察する。

1.4 論文の構成

本論文は全八章で、第一章では、序論としてまず研究の動機、目的、意義を述べた後、本研究で扱う分析対象と範囲、論文の構成を叙述する。第二章では、主に英語の会話分析の理論を述べ、会話における言語使用のアプローチと依頼に関する先行研究を概略したうえで、本研究の研究視点と課題を提出する。第三章では、本研究で用いるデータについて紹介する。ロールプレイ調査を詳述し、会話資料の文字化の方法を記す。第四章では、本研究における依頼談話を構成する分析単位と依頼談話の分析方法について述べる。まず、本研究における分析単位には大きい単位、中間的単位、小さい単位があるということを述べる。次に、分析の枠組みである〈話段〉、「ストラテジー」、「発話機能」の定義および分類について詳しく説明する。最後に、本研究の論述の重点である【本用件部】と【再依頼部】で用いる分析方法について説明を加える。第五章では、日本語と延辺朝鮮語の依頼談話について、〈話段〉からみた談話構造の分析を行い、全体的構造をみることで全会話における〈話段〉のパターンを抽出する。第六章では、五章での〈話段〉による依頼談話の全体的構造の分析をふまえて、両言語で出現数が圧倒的に多い〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉を取り上げ、【本用件部】における〈話段〉の構成要素としてのストラテジーを分析する。第七章では、【再依頼部】における〈話段〉の構成要素としてのストラテジーの用いられ方、実質的な展開に寄与したス

トラテジーについてみる。第八章では、本研究で得られた結果をまとめ、また今後の課題を述べている。

第二章 先行研究

2.0 はじめに

本研究は、日本語と延辺朝鮮語の依頼の自然談話における言語使用のメカニズムを考察するため、日本人と延辺朝鮮族大学生の依頼の〈話段〉の展開とストラテジーの特徴を考察することを目的とする。したがって、本研究は、語用論と会話分析を理論的背景とする。この2つの理論は主に英語圏の研究を中心としてなされている。

本章では、まず、2.1でエスノメソドロロジーの会話分析の系譜を辿り、2.2で語用論を概観する。次に、2.3で依頼談話の構造とストラテジーを中心に先行研究を概観し、2.4で先行研究をまとめる。最後に、2.5で本研究の位置づけと課題を提示する。

2.1 会話分析 (conversational analysis)

2.1.1 エスノメソドロロジー

この節では、主にエスノメソドロロジー (ethnomethodologists) の会話分析の方法論に関して論じていく。会話を分析するエスノメソドロロジーでは会話の記録や想像ではなく、会話の記録 (transcription) を資料として用いながら、日常の会話の中で相互作用を重視し、経験的、帰納的な分析を行い、研究者の直感的な判断あるいは内省に頼らずデータから会話のルールを探るという会話の動的構造を研究するのに有効な方法論である。

社会学者たちの研究によって、会話の開始 (Schegloff 1968)、会話の終結 (Sacks & Schegloff 1973、Clark & French 1981)、話者交替、隣接ペア (Sacks et al. 1974)、挿入発話連鎖、順序づけられた発話連鎖、優先的な応答構造、修正などが明らかにされている。これらの研究は Levinson (1983)、ザトラウスキー (1993)、林 (2008) などで紹介されている。

話者交替、隣接ペア、挿入発話連鎖、優先的な応答、修正は会話の局所的な仕組みで、会話の開始と会話の終結は会話の全体的構造の仕組みである。全体的仕組みと局所的仕組みは一定の順序があり、各局部を手がかりに他の仕組みを見つけることができ、全ての局部の順序の秩序が明らかになる。エスノメソドロロジーの先行研究の成果は、会話中で起きる話者交替の様子、話者交替のルール、会話の進みの様子を明らかにしたことである。

2.1.1.1 話者交替 (turn-taking)

会話は複数の人が話者交替をすることで進んでいく。通常、前の話と次の話の間は短く、スムーズに交替されているが、Sacks, Schegloff, and Jefferson (1978)はそれを話者交替システム (turn-taking system) と称し、以下のように説明している。

(1) まず、会話には、話者交替適格箇所 (transitional-relevance place 略称: TRP) が存在する。話者交替は会話参加者が話をする番 (turn) の交替であり、このターンは文や節、単語、句、イントネーション、トーン、ピッチなどから構成されている。話者交替適格箇所とは、話者交替が行われる可能性のある場所を指す。

(2) 話者交替には以下のようなルールがある。

最初のターンの、最初のTRPで

- a 現在の話者が次の話者を選ぶ場合、次の話者は話す権利を得て、交替は次の話者を選ばれた後の最初のTRPで起こる。
- b 現在の話者が次の話者を選ばない場合、誰でもターンをとることができる。
- c 現在の話者が次の話者を選ばない、また誰もターンをとらなかった場合、必ずではないが、現在の話者が話し続ける。
- d ルールcが適用されたとしても、aからcのルールセットは次のTRPで繰り返し適用される。

(Sacks, Schegloff, and Jefferson 1978、Levinson 1983:298)

この話者交替ルールは必ずしも万能ではない。話者交替は非言語行動のような他の要因の影響も合わせて考えなければならない。

2.1.1.2 隣接応答ペア (adjacency pair)

Schegloff & Sacks (1973) は、隣接ペアという用語を初めて用いた。隣接ペアは全体的構造 (overall-organization) に関わる基本的な発見の1つである。隣接ペアの種類としては、挨拶-挨拶、質問-答え、申し出-受け入れ/拒否などのようなものがあり、隣接ペアには以下のような特徴があるとしている。(1) 対になった2つのターンから構成され、2つの発話の連続である。(2) 隣接している。(3) それぞれ別の話者が発する。(4) 第1発話と第2発話という順序がある。(5) 型に嵌っている。(6) 第1部分が決まった第2部分を要求する。

例 2-1 ^{注3}

A: 英語 10 頁ぐらい訳してくれない? {笑い} (質問)

B: いや、いや、あたし英語得意じゃないよ。これは多いよー。 (答え)

例2-1のように、第1の発話が申し出なら、第2の発話は別の話者によって受諾や拒否などの発話が続けられなければならない。ただし、第2の発話部分でも優先される (preferred) 応答と優先されない (dispreferred) 応答があるとされている。次の例をみてほしい。

例2-2 注4

A: 明日ちょっと頼みたいことがあるんだけど。 (依頼)

B: いいよ。 (受諾)

例2-3 注5

A: あのさ、1万円貸してもらえないかな。 (依頼)

B: {笑い}、1万円ーはどうーかなー。 (保留)

A: 厳しい//? ちょっと3日間ちょっとどうやって暮らせるか分からないんよ。

B: いや、無理だわ、無理無理無理。 (拒否)

例2-2では、依頼に対して、受諾をしている。このような場合は優先的な応答と呼ばれ、形式も単純な形になっている。しかし、例2-3は依頼を断ろうとしている場合で、依頼があったときにまず「{笑い}、1万円ーはどうーかなー。」と応答の躊躇があり、一時保留するような発話になっている。このように非優先的な応答の場合には、優先的な応答の場合よりも複雑な形式をとることが分かる。

ザトラウスキー (1993) は、第1の発話と第2の発話が必ずしも隣り合っている訳ではないことから、「応答ペア」と呼んでいる。またメイナード (1993) も同じ考え方から、「隣接応答ペア」と呼んでいる。

ザトラウスキー (1991、1993) は、「談話」と「発話」という2つの単位のほかに、「談話」の下位単位として〈話段〉を設定することを提案している。実際の会話で「応答ペア」は2つの発話ではなく、複数の発話がまとまって1つの機能を持つことも多い。そこで、隣接応答ペアの概念を発話の集合体に拡大して〈話段〉と呼んでいる。

2.1.1.3 挿入発話連鎖 (insertion sequences)

ザトラウスキー (1993: 15) は次のようなことを言っている。「(中略) 「隣接」についていえば、厳密な意味での「隣り合う」という条件は厳しすぎる (Schegloff 1972)。(中略) 「挿入発話連鎖」、つまり「隣接ペア」の「第1の発話」と「第2の発話」の間に別の発話の連鎖が生じるためである。」そして、Levinson (1983:304-305) の例で説明をしている。例2-4にそれを挙げておく。

例2-4

A: U:hm () what 's the price now eh with V.A.T do you know eh
(えーと、V. A. T. (税金) はいくら?) (質問)

B: Er I'll just work that out for you=

- (えーと、今計算してみますから) (保留)
- A: =thanks (ありがとう) (受諾)
- B: Three pounds nineteen a tube sir. (一本3ポンド19です) (答え)
- (Levinson 1983:304-305)

上の例では、質問と答えの間に、保留と受諾の発話連鎖が内包されている。実際の会話には、このような発話連鎖が、幾重にも内包されていることがよく観察される。

2.1.1.4 優先応答体系 (preference organization)

「優先的応答体系」とは、隣接応答ペアの各部分は同等ではなく、ある一つの発話に対する応答には好ましいもの（無標）と好ましくないもの（有標）の順位づけがあり、無標の場合は短い表現ですぐ応答が現れるが、有標の場合は応答が遅れ、前置き、遠回し、長い表現などが現れるというものである。ザトラウスキー（1993:17）は例2-5のLevinson（1983:307）を用いて「依頼」－「受諾」を、例2-6のLevinson（1983:308）を用いて「依頼」－「拒否」を説明している。

例 2-5

Child: Could you .hh could you put on the light for my .hh room

私の部屋の電気、つけてくれない？

→ Father: Yep

いいよ。

(Levinson 1983:307)

例 2-6

C: Um I wondered if there's any chance of seeing you tomorrow sometime (0.5)

morning or before the seminar. (1. 0).

あのう、明日、いつか(0.5)、朝かゼミの前にも会えないかと思って。

→ (1. 0)

→ R: Ah um () I doubt it.

うーん () かな。

C : Uhm huh

ええっ。

→ R: The reason is I'm seeing Elizabeth.

エリザベスに会うことになっているんだ。

(Levinson 1983:308)

例 2-5 では「依頼」に対してすぐ「受諾」が得られているが、例 2-6 では「依頼」に対して「沈黙」の後、1.0 秒後「Ah um」というポーズが置かれ、「I doubt it」と言った後、「拒否」する理由を挙げている。

さらに、会話の「優先的な応答構造」の理論によると、「依頼の優先的な連鎖の順位」は以下 (Levinson 1983:361) のようになるとしている。

(1) もっとも優先的な連鎖

位置 1: 依頼の先行発話

位置 4: 暗示された依頼への応答

(2) 次に優先的な連鎖

位置 1: 依頼の先行発話

位置 2: 申し出

位置 3: 申し出の受け入れ

(3) もっとも非優先的な連鎖

位置 1: 依頼の先行発話

位置 2: 先へ進めの合図

位置 3: 依頼

位置 4: 承諾

(1)は依頼者の暗示的な先行発話の後、被依頼者が即座に受諾する連鎖である。(2)は間接的な依頼発話の後で、被依頼者が依頼者に依頼の申し出をして、それを依頼者が受け入れる連鎖である。(3)は依頼の先行発話の後、被依頼者が中立的な態度または消極的な態を取ることが多く、依頼者が明示的に依頼をして、依頼を受け入れるか拒否するかは被依頼者次第になる。この連鎖は、換言すると最初の依頼が断られて、再依頼が続く連鎖ともいえる。

2.1.1.5 修正 (repair)

「修正」とは、聞き手が先行する発話を正しく理解したかどうかについて確信のない場合に行う修正誘発、聞き手が誤解や聞き間違いしたことに気づいて話し手側が補足や訂正を行う修正、明らかな誤りがなくても話し手がする「自己編集」等の様々な現象を指す(Sacks, Schegloff & Jefferson 1974)。自己主導、自己主導の自己修正、他者修正、他者主導の自己修正などの分類がある。

2.1.2 「会話分析」と本研究の関連性

2.1.1 では「会話分析」について述べたが、この節では「会話分析」と本研究との関連性

について述べたい。本研究では方法論として、エスノメソドロジーの会話分析のアプローチを援用して依頼談話のデータを分析する。2.1では、主に会話分析にける英語圏の研究を簡単にまとめたが、本研究では英語を対象とする会話分析に用いた文字化の方法(transcription)に一部修正を加えて用いる。第三章の3.6を参照してほしい。

談話の構造単位として本研究では、ザトラウスキー(2003)に倣い、「ターン」「応答ペア」「先行発話連鎖」等の局部的単位と、「開始部」「話題の連鎖」「終結部」といった上位単位のみならず、その間にある中間的な単位の〈話段〉を設けることにする。会話の展開を効果的に把握するのに〈話段〉の分析は有効である。

本研究で核心的な部分は【本用件部】と【再依頼部】である。この2つの【部】における依頼の連鎖構造を会話分析の手法から説明し、その中に含まれる要素間にやり取りの連鎖には如何なる関連付けがあるのかを説明する。

2.2 語用論

語用論(pragmatics)とは、言語表現とそれをを用いる使用者や文脈との関係を研究する分野である。2.2では主要な語用論の研究を概観する。

2.2.1 Austinの発話行為理論(speech-act theory)

私たちは自分の気持ちを伝えるとき、「発話」を媒介にして何らかの「言語行為」を遂行する。言葉は聞き手に対する働きかけである。発話された言語表現は多くの場合、何らかの目的が込められている。例えば、「君は明日来なくてもいい」と社長が言うのは、この発話をすることによって、雇用を打ち切るという行為を遂行しているのである。話し手は人間関係、会話の場面、自分の意図によって言語形式を選び、聞き手は「話し手の発話の意図」を理解し、話し手の「言外の意味」を読み取る。このように、コミュニケーションは会話参加者間の理解がなければ成立しない。会話の相手との関係や場面、話者の意図から捉えた意味研究は発話行為理論に関わる問題であり、語用論の分野で中心的課題として扱われている。

発話行為理論は、Austin(1962:91-93)によって提唱され、Searle(1969)によって更に発展された。発話行為をAustinは以下のような3つの次元に分類している。

- (1) 発話行為 (locution act)
- (2) 発話内行為 (illocutionary act)
- (3) 発話媒介行為 (perlocutionary act)

(Austin1962:坂本百大訳 1978 : 175)

- (1) ~ (3) までに当たる例をそれぞれ以下のように挙げる^{注6}。

例2-8:「熱いですね」

例 2-9 : 「何か冷たい物があるといいね」

例 2-10 : 「喫茶店に一緒に行きませんか？」

例 2-8 は発話された言葉通りの意味で、例 2-9 は暗に(冷たい飲み物でも飲みましょうか)、(あなたもいかがですか)などの思惑が込められている。例 2-10 と言うと発語媒介行為になる。つまり、発話を聞いた聞き手の反応である。

2.2.2 Searle の発話行為論

Searle (1969) はAustin (1962) の分類を厳密化した。Searle (1969:38) の発話行為は特定の規則によって遂行される。サールは発話行為を構成する規則は「適切性の条件(felicity)」から直接引き出せるものであるとし、それを「予備的条件」「誠実性の条件」「命題内容条件」「本質的条件」の四種類に分けた(田中 1996:219)。Searle (1969) は「依頼」という発話行為の適切性条件を次のようにまとめている。X-speaker (話し手)、Y-hearer (聞き手)、A-action (話し手が聞き手に依頼する行為)とする。

(1) 予備的条件

Y is able to perform an act A. (Y は A を行為する能力がある。)

(2) 誠実性条件

X wants Y to do A. (X は Y に A をしてほしいと思っている。)

(3) 命題内容条件

X predicts a future act of Y. (X は Y がこれから行う行為内容を表す命題をいう。)

(4) 本質的条件

Counts as an attempt by X to get Y to do A.

(Y に A をさせようとする X の「試み」であるとみなす。)

(田中 1996:219)

しかし、熊取谷 (1995) は発話行為理論に基づいて、「依頼」は Searle (1969) の適切性条件を満たすだけではなく、依頼の対象となる行為は発話者の関心事であったり、ある主の利益をもたらすものであったりしなければならないと言っている。

Searle (1975) の発話行為理論の中には、言語表現が間接的に果たす遂行的機能つまり「間接発話行為 (indirect speech act)」という概念がある。例えば、「論文の翻訳を 10 頁お願い」という依頼に対して「ごめんね、できない」と答える代わりに「私も今週課題が沢山あって」という陳述によって、断りの意味を伝えるような発話行為である。

このような間接的な発話のやりとりには、文脈的知識のみならず、推論の原理が働いている。このように、我々は日常のコミュニケーションにおいて気持ちを言葉の字義的意味に縛られることなく、時には無意識のうちに伝え合うことができる。Searle が分析対象とした表現は談話の状況に応じて使われる様々な言語表現ややりとりの連鎖、また、彼が示した適切性条件と間接発話行為との関係づけの項は、慣用表現にとどまらず、会話において使われる一般的表現の分析にも有効である。(林 2008 : 5)

Austin の研究を継承して発話行為の分析を行ったのが Searle である。Searle は、現実の会話において重要なのは真偽ではなくその状況における適切性であるとし、命題内容条件・準備条件・誠実性条件・本質条件の 4 つからなる適切性条件を提案した。

2.2.3 Grice の協調の原理(the Cooperative Principle)

Grice (1975) は言語表現が間接的に果たす機能を説明する協調の原理を提案している。協調の原理には 4 つの範疇の原則がある。

協調の原理

- (1) 量 : 適当な量の情報を提供すること、言いかえれば、
 - a あなたの提供するものが必要な限りの情報を含んでいるようにすること
 - b あなたの提供するものが必要以上の情報を含まないようにすること
- (2) 質 : あなたの提供するものが真実のことであるようにすること、言いかえれば、
 - a 自分で虚偽であると信じているようなことは言わないこと
 - b 自分が十分な証拠を持たないようなことは言わないこと
- (3) 関与性 : 関係のあることを言うこと
- (4) 様態 : 明晰な言い方をすること、言いかえれば
 - a 表現の不明晰さをさけること
 - b 曖昧さを避けること
 - c 関係な言い方をすること
 - d 整然と提示すること

(ジェフリー 1987 : 10 池上嘉彦 河上誓訳)

2.2.4 「語用論」と本研究の関連性

本研究は、Austin (1962) の「発話行為理論」、Searle (1969) の「適切性条件」、Searle (1975) の「間接発話行為」の概念、Brown と Levinson (1987) の「ポライトネス理論」を参考に、依頼談話における分析単位とストラテジーを分類し、説明や解釈を行う。

発話行為理論とポライトネス理論では、単一発話を考察の対象としていて、談話レベルでの考察は不十分である。熊取谷 (1995:18) は、適切性条件と間接発話行為に関わる問題を解

明するためには、対人交流の談話レベルの視点から分析する必要があると主張し、「単一発話で成立する発話内行為としての「依頼」から複数の発話群からも成立する談話行動としての依頼への視点転換が不可欠と考える」と述べている。本研究では、言語使用を状況によった意味の成立と意味の解析を目指し、文脈と関連して談話の意味を分析する。

会話の分析研究は、単一発話の考察だけでは実際の自然談話の本来の様子を十分に探ることができないと考え、会話参加者の言語表現と発話行為の機能を相互作用の中で分析考察し、談話レベルでみる。

談話レベルでの「会話分析」の研究では、会話分析の分析方を用いながらも、話者間の相互作用の中で発話が果たす機能あるいは役割も重視している。そのような機能に関わる言語現象の概念をストラテジーという。会話のストラテジーの機能は会話の構造と深く関わる。本研究では、言語学の語用論でも広く扱われてきた、会話のストラテジーも考察の対象とする。

2.3 依頼談話の構造に関する研究

2.3.1 依頼の定義

これまでの先行研究は、依頼の適切性条件の面から依頼を定義することが多い。「依頼の適切性条件」とは、Searle が議論したもので、表現形式が異なるものが同じ意味内容を持つことになることである。依頼の内容、作用、要素といった機能面から特徴をみるのである。岡本 (1986)、上野 (1983)、国立国語研究所 (1994)、杉戸 (1983)、高木 (2003)、仁田 (1991)、山梨 (1986)、Brown & Levinson(1987)、熊取谷 (1995)、中道・土井 (1995)、などがその例になる。

これらの研究では、「依頼」は「強制力を伴わない聞き手に好意を期待すること」「話し手が聞き手に負担をかける行為である」「被依頼者のネガティブフェイスを脅かす行為である」「依頼の対象となることは依頼者の関心事であったり、ある種の益をもたらすものでなければならない」「聞き手が決定権と選択権を持っていること」「話し手が利益を得る事」「命令文よりも低姿勢で柔らかな感じの表現を使用する」などを前提としていると述べられている。依頼は、言語表現とそれを用いる使用者や文脈との関係を研究する分野である「語用論」からみると、依頼談話における発話の範囲はもっと広いわけで、これらの表現形式を用いなくても、依頼は伝わる。そこで、本研究では依頼の適切性条件によって、先行研究を踏まえたうえで、以下のように「依頼」を定義する。

本研究では「依頼とは、依頼者が利益を受けるために、被依頼者の好意に基づき、強制的ではないが、被依頼者に何かの行為の実行を求めることである。その際に、選択権は被依頼者のほうにあって、被依頼者に負担がかかる。」と定義する。

また、【再依頼部】における依頼の認定に関しては 7.3 で述べることにする。

2.3.2 依頼の全体的構造に関する研究

この節では依頼談話全体を考察し、本研究と関係が密接な先行研究、熊井(1992)、謝(2000)、徐(2008)、顧他(1998)、柳(2006)を取り上げ、重点的に検討する。表2-1は調査方法について示している。

表 2-1 日本語の先行研究における調査の内訳

著者	調査方法	対象言語	場面設定	人間関係、難易度
熊井(1992)	ロールプレイ	留学生と日本人の日本語	本	上、同、疎
顧他(1998)	ロールプレイ	日本語、中国語	伝言、お金、買い物、修理の協力、日程変更、コピー、苦情を言う	同、親
柳(2006)	ロールプレイ	日本語と韓国語	ノート、本、資料を取ってもらう、推薦状	上、同。難、易
徐(2008)	ロールプレイ	日本人と台湾人の日本語、中国語	大学院入試の準備の助け	同、親、疎

この4つの先行研究はロールプレイによるデータを用いて研究を行っている。対象言語はネイティブスピーカーとノンネイティブスピーカー、日本語と中国語、日本語と韓国語、ネイティブスピーカー・ノンネイティブスピーカー・中国語を比較したものがある。人間関係と依頼内容の難易度は、上、同、親、疎、難、易の様々である。これらの先行研究は発話機能による分析(熊井1992)、ストラテジーによる分析(顧他1998)、〈話段〉・ストラテジー・発話機能による分析(柳2006)、ストラテジーと意味公式による分析(徐2008)に分けることができる。

2.3.2.1～2.3.2.4で記述する。

2.3.2.1 発話機能による分析

熊井(1992)は発話機能を「情報提供」、「断られた後の発話」、「情報要求」、「批判」、「代案提示」、「言いさし」に分けて、話し始めの様子、用件内容部での表現、【再依頼部】の構造について留学生が日本人と違う点や生じる問題を考察している。熊井(1992)の分析の結果をまとめると以下のようなものである。

- (1) 「情報提供」：日本人も留学生も初依頼に先立って情報提供をよくする。日本人と留学生は一度断られた後、情報提供の必要性を感じている点で似ているが【再依頼部】では異なる。日本人は新情報を提供するのに対し留学生は貸してもらうのは当然だと主張している。
- (2) 「断られた後の発話」：日本人は一旦受け止め、相手の事情に理解を示しつつ、新情報や、限定をつけた要求表現によって条件を絞り込みながら再依頼を行っている。留学生は行為要求を繰り返したり、新情報を提供したりして依頼の正当性を主張している。
- (3) 「情報要求」：日本人は「継続の注目表示」「承認の注目表示」のみでいきなり断り表現にいくが、留学生は情報要求を行っている。このような情報要求は談話をリードし、積極的

な姿勢の表れとなる。同時に断りを正当化するための言い訳を探しているような印象を与える。

- (4) 「批判」：依頼の内容について批判的な意見を述べたのは留学生のみである。この類の発話機能は相手に不快感を与える。
- (5) 「代案提示」：「代案提示」は日本人には少ない。留学生は理由説明なしに「代案提示」をしているが、この類の積極的な働きかけは却ってマイナスに作用する。
- (6) 「言いさし」：再依頼の文末で日本人はほとんど全て「言いさし」の形である。一方、留学生は質問形や言い切りの例がかなり多く断定的な印象を与える問題がある。

2.3.2.2 ストラテジーによる分析

顧他(1998)は依頼者ストラテジーを〈依頼目的の達成に積極的な発話〉〈依頼目的の達成に中立的な発話〉〈依頼目的の達成に消極的な発話〉〈対人的配慮の発話〉に、被依頼者ストラテジーを〈依頼目的の達成に積極的な発話〉〈依頼目的の達成に中立的な発話〉〈依頼目的の達成に消極的な発話〉〈対人的配慮の発話〉に分け、依頼会話におけるストラテジーの特徴と会話構造的視点からみた依頼ストラテジーを内容形式両面から日中で比べている。顧他(1998)の依頼会話のストラテジーの特徴をまとめると以下のようになる。

(1) 依頼者ストラテジーに対する被依頼者ストラテジーの使用

依頼者が〈依頼目的達成に積極的な発話〉を用いた場合、被依頼者は〈依頼に対して積極的・中立的・消極的な態度を示す発話〉か〈対人的配慮の発話〉を用いる。依頼者が〈依頼目的達成に中立的な発話〉を用いた場合、被依頼者は〈依頼に対して積極的・中立的・消極的な態度を示す発話〉を用いる。依頼者が〈依頼目的達成に消極的な発話〉を用いた場合、被依頼者は〈対人的配慮の発話〉を用いる。依頼者が〈対人的配慮の発話〉を用いた場合、被依頼者は〈対人的配慮の発話〉をよく用いる。

(2) 被依頼者ストラテジーに対する依頼者ストラテジーの使用

依頼者が〈依頼に対して積極的な態度を示す発話〉を用いた場合、被依頼者は〈依頼目的の達成に積極的な発話〉か〈対人的配慮の発話〉をよく用いる。依頼者が〈依頼に対して中立的な態度を示す発話〉を用いた場合、被依頼者は〈依頼目的達成に積極的・中立的な発話〉をよく用いる。依頼者が〈依頼に対して消極的な態度を示す発話〉を用いた場合、被依頼者は〈依頼目的達成に積極的・中立的・消極的な発話〉か〈対人的配慮の発話〉をよく用いる。依頼者が〈対人的配慮の発話〉を用いた場合、被依頼者は〈対人的配慮の発話〉をよく用いる。

(3) ストラテジーの日中対照

中国人は結論に直接的な影響を与える発話を用いる会話を展開する傾向を持っている。中国人の依頼内容の正当性を理論的・明示的に示そうとする意識と、日本人の依頼内容が相

手に心理的負担を与えないように間接的に伝えようとする意識が伺える。

(4) 再依頼におけるストラテジー

両言語とも、被依頼者が〈依頼に対して消極的な態度を示す発話〉を用いた後、依頼者は〈依頼目的達成に積極的な発話〉〈依頼目的達成に中立的な発話〉〈依頼目的達成に消極的な発話〉の何れかを用いる。日中依頼会話主要部で日本人は柔軟型、ごまかし型を、中国人は明確拒絶型と理由口実型で〈依頼に対して消極的な態度を示す発話〉をする。

2.3.2.3 話段・ストラテジー・発話機能による分析

柳(2006)は『依頼の話段』『依頼応答の話段』『交渉』『条件調整』『収束』の5つの〈話段〉を設定した。ストラテジーに関しては「依頼先行発話」「依頼の直接的発話」「依頼の正当化」「負担感の軽減」「負担感の埋め合わせ」「社会的欲求充足」「切り上げ」の7つのカテゴリーの下に26種類のストラテジーを設けた。発話機能に関しては、「情報」「行為」「関係作り・儀礼」「談話管理」の4つのカテゴリーを13種類の発話機能に分類した。柳(2006)は日韓両言語の〈話段〉のレベルでの構造、〈話段〉ごとの依頼者側のストラテジーの種類と内容、依頼談話の構造およびストラテジーの使用に影響を及ぼす要因、言語・文化による特徴を考察している。結果をまとめると、次のようになる。

(1) 〈話段〉による全体的構造の分析

依頼談話の構造に影響を与える要因には場面状況、被依頼者の反応、やりとりの内容の3つの要因の相互作用を受け、〈話段〉が現れる。〈話段〉の現れ方(種類、出現数、出現順)で依頼談話の構造が決まる。日韓を比較した結果、構造パターンは同じだが、好まれる構造パターンは違う。日本語の方が〈話段〉、組合せパターン、『条件調整』の〈話段〉、複数の『依頼』の〈話段〉の出現数が韓国語より多い。

(2) 〈話段〉ごとにみたストラテジー

依頼談話を〈話段〉に分割して分析することによって、日韓の依頼談話の構造において、類似点と相違点があることが明らかになった。また、ストラテジーについては、日韓ともに各〈話段〉の目的に応じてストラテジーを用いることは共通するが、それぞれよく用いられるストラテジーには相違が見られた。これは、同じ目的を持った発話行為においても言語・文化によって、より好まれるストラテジーがあることを意味する。また、それ用いられ方を〈話段〉ごとにみることによって、同じストラテジーでもどの段階で用いられるかによって、働きが異なることも確認できた。このように、依頼目的達成という大きい目標を用いて行う依頼談話を、参加者のやりとりに焦点を置いた〈話段〉によって分析することで、依頼談話の構造とストラテジー使用の特徴、日韓の相違の一端を明らかにした。

(3) 再依頼におけるストラテジー

『拒絶後依頼』の〈話段〉や『交渉』の〈話段〉には、「依頼の直接的な発話」のカテゴリ

ーに属するストラテジーと「負担の埋め合わせ」や「負担感の減少」に入るストラテジーが多く用いられる。

2.3.2.4 ストラテジーと意味公式による分析

徐(2008)はストラテジーを【再依頼部】のみ考察している。ストラテジーを{懇願型}{苦境説明型}{負担感の軽減型}{一時的依頼保留型}{質問型}{承諾強要型}の6つの型に分け、6つの型を更に15種類の「意味公式」のタイプに分けた。「意味公式」は全部で49種類ある。【 】の()の中に部における「意味公式」の種類を示す。【先行部】(12種類)【依頼部】(12種類)【再依頼部】(15種類)【終結部】(10種類)ごとに認定作業を行っている。

徐(2008)は、日台両母語場面の依頼会話を比較分析し、その異同を明らかにしたうえで、上級の台湾人日本語学習者の依頼会話に見られる特徴を究明し、以下のような結果を得ている。

(1) 【部】に現れる意味公式

【先行部】の冒頭で日本人は「相手の状況」を、台湾人は「苦境の説明」を使用していると言っている。【依頼部】で日本人は「配慮発話」、共感の表示や言いさし表現で遠慮の気持ちを表すが、台湾人は「配慮発話」の使用が少なく、文末に言い切りの表現が多いと指摘している。

【終結部】で日本人は短い発話を交わすことで頻繁に話者交代をするのに対し、台湾人は伝えたい情報を一方的に一気に話し、意味公式の使用数と話者交代の回数が少ないと述べている。

(2) 「受け止め」と【再依頼部】におけるストラテジー

【再依頼部】の冒頭で日本人は「同意共感」の「受け止め」を、台湾人は「了解」の「受け止め」と{質問型}ストラテジーを使用すると述べている。

2.4 先行研究の課題

2.4.1 研究データについて

本研究ではロールプレイを用いた分析資料を用いて研究を行う。ロールプレイは自然会話ではないが、より実際の会話スタイルを写し出せるメリットがある(謝2001)。従来の先行研究は談話完成テスト^{注7}やロールプレイによって収集された資料を用いているのがほとんどである。ロールプレイは同じ条件のサンプルを沢山入手しやすい。一方、全くの自然会話では諸条件が統制されず、発話に影響する可能性のある要因をコントロールできなくなる。そこで本研究ではロールプレイにより、条件統制された資料を収集する方法を採用することにした。

先行研究は会話者間の人間関係(親疎、上・同・下)の設定、負担度の軽重、場面設定または依頼内容が統制されていないことが多い。先行研究は「対象言語」については日本語のみのもの、日本語と他の言語を比較したもの、ネイティブスピーカーとノンネイティブスピーカーの日本語を比較したもの、場面設定については物質的な借用、労力的な依頼、金銭的な借用、その他、「人間関

係・難易度」については上、同、下、親、疎、難、易、「分析視点」については異文化間コミュニケーション、会話分析、対照社会言語学、対照語用論、中間的語用論、「分析対象」については会話者両側、依頼者側、談話構造パターン、ストラテジー、言語・文化的側面、談話展開、「分析の枠組み」については〈話段〉、ストラテジー、発話機能等が様々で各研究成果からまとまったことが言いにくい。

2.4.2 研究方法について

先行研究が持つ方法論的限界は、会話のやり取りの中で行われる「依頼」を見ていないことである。分析内容をみると、以下のようなものである。

熊井(1998)は、留学生の依頼行動(情報提供, 要求表現の終わり方, 断られた後の発話)と断り行動(情報要求, 理由説明, 批判, 代案提示)における談話行動及び表現上の不適切さの要因をみた。顧他(1998)は、依頼者の態度に対する被依頼者の態度か、逆に、被依頼者の態度に対する依頼者の態度、对人的配慮、「開始部」「主要部」「終結部」に使用されるストラテジーの型を内容形式面から見ている。柳(2006)は、〈話段〉に基づいた場面A～D^{注8}ごとの構造パターンの種類と図式化、依頼談話の構造に影響を与える要因、〈話段〉の構成要素としての場面A～Dごとのストラテジーの出現例・種類・使用内容をみた。

徐(2008)は、【先行部】【依頼部】【再依頼部】【終結部】における談話展開、「意味公式」の使用・表現形式、【再依頼部】の「受け止め」・再依頼のストラテジーをみた。

これらの先行研究は〈話段〉、発話機能、ストラテジー、パターンといった分析内容の種類、出現頻度、内容を抽出して、「依頼」の一面だけを分析・報告することに留まっているが、実際の会話の中で見られる「依頼」に注目し、進行する依頼談話の動的構造を全体的に目配りよく、精密に分析する必要がある。これらの問題点を乗り越えるためには、進行する動的構造全体の中で依頼者と被依頼者の発話連鎖と反応の流れを検討しなければならない。

また、【再依頼部】を分析対象としている先行研究は主に話し手の言語行動を中心になされてきたもの(熊井 1992、徐 2008)である。しかし、如何なる会話も話し手と聞き手のお互いに影響し合いながら築き上げるものなので、依頼者側だけに注目して、「依頼」の会話展開を見るのは不十分である。顧他(1998)と柳(2006)は被依頼者側を視点に入れている。柳(2006)は被依頼者側の依頼応答も検討したが、その他の被依頼者側の発話は論文で分析に含めなかったもので、主に依頼者側の発話に焦点を置いた研究である。顧他(1998)は会話者間のストラテジーをペアとして絞ったが、それらのペアと談話展開の関係を説明していない。

2.4.3 分析の枠組みについて

2.4.3.1 〈話段〉とストラテジーの分析

先行研究は発話機能による分析(熊井 1992)、ストラテジーによる分析(顧他 1998)、〈話

段)・ストラテジー・発話機能による分析(柳 2006)、ストラテジーと意味公式による分析(徐 2008)に分けている。依頼行動は談話という大きい単位、〈話段〉という中間的単位、「発話機能」という小さい単位があると言われている。これらの先行研究は分析の枠組みがどちらかに偏っている問題点を抱えている。〈話段〉は依頼談話の全体的構造と依頼談話の構造そのものを明確に説明し得、〈話段〉内部の展開や他の〈話段〉への移行には、参加者の「ストラテジー」が関与するため避けて通れない枠組みとなる。〈話段〉の現れ方のみを分析して、ストラテジーを分析しないと、〈話段〉と〈話段〉がどのように関連づけられているかが分からなくなる。ストラテジーの連鎖は結局的に発話機能の連鎖になるが、発話機能の連鎖にパターンがあるとなると構造になる。

そこで、本研究では依頼談話の言語使用のメカニズムを見るに当たり、〈話段〉とストラテジーの両方をみる立場をとる。即ち、〈話段〉レベルでの構造とストラテジーレベルでの構造の2つの大きいユニットに分けて依頼談話の構造を研究する。分析の枠組みである〈話段〉〈ストラテジー〉「発話機能」の出現数、出現順、出現位置のパターンを抽出して依頼談話構造の特徴をまとめ、それらの機能が果たす相互的な関連付けもみる。

2.4.3.2 用語の定義及び分類

本研究では〈話段〉、ストラテジー、発話機能を導入するが、まず、先行研究には発話機能の用語の定義の問題がある。2.3.2.1~2.3.2.4からも分かるように、研究によっては「発話機能」、「意味公式」という用語を使っている。ザトラウスキー(1993: 67-68)は会話には一定の目的があり、それを構成する個々の発話には、目的を達成するためのなんらかの役割が課せられる。それが発話機能と言っている。柳(2006:40)は杉戸(1987)とザトラウスキー(1993)を参考に「発話機能」を設定しているが、「発話の扱うある事柄が、情報のやり取りか、行為の促しや表明か、また参加者相互の関係作り・儀礼のためのものなのか、談話の展開を作り上げるものか、4つの軸を立てることができる。」と言っている。徐(2008)は英語の先行研究に用いられた用語「semantic formula」を用いて「意味公式」という訳語を用いている。そして、「意味公式」とは発話行為を構造する最小の機能単位であり、これ以上意味機能的に分割することはできない談話構成要素と定義している。「意味公式」と「発話機能」の2つの名称が同じ概念を意味するため、本稿では「発話機能」と呼ぶことにする。

次に、ストラテジーの分類基準の問題がある。顧他(1998)は会話参加者の態度と対人的配慮を認定の基準にしているが、柳(2006)は熊谷(1995)が提出した4つのカテゴリー(「依頼の直接的行動」「依頼の正当化」「説得のための条件・材料提示」「対人配慮・関係調整」)と Brown & Levinson(1987)のポライトネス理論、Spencer-Oatey(2000)のラポールマネジメントを参考にしている。徐(2008)は【再依頼部】の談話には15種類の「意味公式」が認められたので、その「意味公式」の発話機能の類似性を基に、15種類を大きく6つの再依頼の

ストラテジーにまとめるという基準で分類している。徐(2008)はストラテジーを【再依頼部】でしか考察していない。本稿は【本用件部】と【再依頼部】において通用するストラテジーを設定するため、徐(2008)の分類基準は考慮に入れないが、「ストラテジーの型」を設定した方法だけは取って、ストラテジーの中身は柳(2006)と今井(2006)に加え、延辺朝鮮語のみに現れたストラテジーを新たに追加して分類する。被依頼者ストラテジーを分析した研究は顧他(1998)以外にない。本研究では顧他(1998)の分類を参考に少し修正を加えて被依頼者ストラテジーを分類することにする。分類は4章で詳述する。

2.5 本研究の課題

本研究では、データ採集はロールプレイという調査方法を用いることにし、依頼の【本用件部】と【再依頼部】を取り上げ、重点的に検討することで進行する会話の動的構造の流れを明らかにする。具体的な課題は以下の3点に絞る。

(1) 〈話段〉レベルの依頼構造の考察：

全会話における〈話段〉の使用を出現数、出現順、組合せを基に見た場合、両言語の全体的構造はどうなっているのか、談話構造にはパターンがあるのか。

(2) 【本用件部】と【再依頼部】におけるストラテジーレベルの依頼構造の考察：

a 応答ペアとしての「依頼-承諾」「依頼-曖昧」「依頼-拒絶」の形成過程はどのように成り立っているのか。

b また、「依頼者ストラテジー」と「被依頼者ストラテジー」は〈話段〉内部と〈話段〉移転にどのように機能しているのか、談話展開とどのように関連づけられているか。

(3) 【再依頼部】におけるストラテジーの使用面で、依頼者がどのように相手に働きかけると、被依頼者はこちらの望むように行動してくれるのか。働きかけられた被依頼者の反応過程を手がかりに、再依頼を分析した際に「実質的な展開に寄与したストラテジー」にはどのようなものがあるのか。

第三章 本研究のデータ

3.0 はじめに

第三章では調査の概要について述べる。3.1では調査目的を述べる。3.2では調査内容について説明する。3.3では調査対象者を紹介する。3.4では調査手順を説明する。3.5ではロールプレイの場面設定、フェイスシート、ロールカードを提示する。3.6では録音データの文字化について記す。

3.1 調査目的

依頼場面において日本人と延辺朝鮮族の大学生に見られる発話を分析し、依頼内容の提示から依頼のやり取りを経て、依頼が終わるまでの依頼談話の流れの実態を明らかにする。

3.2 調査概要

本調査は2008年4月から2011年4月にかけて、広島県内と延辺朝鮮族自治州の中心地域である延吉にある大学で行った。延辺朝鮮語は調査対象者が全て延辺出身者で延辺で生まれ育ったため、話す方言は一定している。日本語のほうは広島県で言語資料を収集しているため、方言が混じるのは避けられないが、あくまでも話す内容重視という立場を取る研究なので、ここで少し説明を加えた。実際の調査は人間関係を「上下関係・同関係」に設定して実施したが、一連のシリーズに分けて連続して試しながら、次第に確認の範囲を広げていかなければならないほどの大規模研究であると考え、本研究では「同関係」のみを扱うことにする。

依頼行動研究も他の言語行動の研究と同様、データの収集法は、談話完成テストと、自然会話あるいはロールプレイによる2種類が広く採用されている。談話完成テストは一度に大量のデータが収集できる利点があるものの、不自然さというものが付き物になることや、普段の話し言葉とは異なった表現などが選ばれやすい弱点がある。それに比べて、自然会話あるいはロールプレイによるデータは、実際の話し言葉に近いということで信頼性が高いが、被調査者の変数をコントロールしにくい、同種のデータが得られにくい弱点がある。そこで、本研究では、同種の依頼会話資料を大量に得るため、自然会話に近いロールプレイによる会話資料収集法を採る。

調査時は被調査者にロールカードを渡し、与えられた状況でどのように依頼を行うかをやってもらい、その談話を録音した。依頼内容の設定は「金銭的な借用、労力的な依頼」を選定し、依頼の「難・易」はできるだけ数字で表現できるものを選んだ。場面設定は付録に示す通りに、大学生が普段よく行われそうな場面を設けた。

3.3 調査対象者

調査対象者は20代から30代までの日本人と延辺朝鮮族の大学生、大学院生62名ずつ、計124名からの協力を得た。日本人学生は男性25名、女性37名で、延辺朝鮮族学生は男性26名、女性36名である。会話の合計時間は日本語が5時間59分31秒、延辺朝鮮語が3時間23分16秒である。表3-1から表3-3に被調査者の内訳を示す。

表3-1 被調査者の内訳

国籍	年齢			性別		合計
	平均年齢	最高	最低	男	女	
日本	22.4歳	39歳	18歳	25名	37名	62名
中国	21.9歳	33歳	20歳	26名	36名	62名

表3-2 日本人学生のプロフィール

依頼者番号	年齢	性別	出身地	学校名	入学年度	学部/研究科
J1	39	男	広島	広島大学	2007年	生物圏科学
J2	23	男	愛媛	広島大学	2007年	生物圏科学
J3	21	女	山口	広島大学	2005年	日本語教育
J4	21	女	大分	広島大学	2005年	第三類日本語
J5	24	女	長崎	広島大学	2007年	国際協力研究科
J6	23	女	山形	広島大学	2008年	国際協力研究科
J7	21	女	岡山	広島大学	2005年	日本語教育
J8	21	女	熊本	広島大学	2005年	日本語教育
J9	24	女	長崎	広島大学	2008年	総合科学部
J10	24	女	広島	広島大学	2008年	総合科学部
J11	23	女	徳島	広島大学	2007年	総合科学部
J12	30	女	山形	広島大学	2001年	総合科学部
J13	22	男	京都	広島大学	2008年	国際協力研究科
J14	22	男	山口	広島大学	2008年	国際協力研究科
J15	22	女	宮崎	広島大学	2008年	国際協力研究科
J16	22	女	広島	広島大学	2008年	国際協力研究科
J17	24	男	埼玉	広島大学	2008年	国際協力研究科
J18	22	男	佐賀	広島大学	2008年	国際協力研究科
J19	21	男	奈良	広島大学	2005年	工学部
J20	23	男	福岡	広島大学	2005年	工学部

J21	22	男	香川	広島大学	2005年	工学部
J22	28	男	神奈川	広島大学	2007年	国際協力研究科
J23	29	男	静岡	広島大学	2006年	国際協力研究科
J24	20	女	広島	広島国際 学院大学	2006年	現代社会学部
J25	21	女	広島		2005年	現代社会学部
J26	20	女	広島		2005年	現代社会学部
J27	26	男	東京	広島大学	2008年	国際協力研究科
J28	25	男	神奈川	広島大学	2007年	国際協力研究科
J29	31	女	香川	広島大学	2008年	国際協力研究科
J30	23	女	広島	広島大学	2007年	国際協力研究科
J31	22	男	広島	広島大学	2007年	国際協力研究科
J32	21	男	山口	広島大学	2007年	国際協力研究科
J33	20	女	岡山	広島大学	2007年	総合科学部
J34	19	女	広島	広島大学	2007年	総合科学部
J35	30	女	広島	広島大学	2007年	総合科学部
J36	26	女	高知	広島大学	2007年	工学部
J37	21	男	香川	広島大学	2007年	工学部
J38	21	男	愛媛	広島大学	2007年	工学部
J39	22	女	長崎	広島大学	2008年	文学部
J40	22	女	山口	広島大学	2008年	文学部
J41	20	女	鳥取	広島大学	2008年	文学部
J42	21	女	島根	広島大学	2008年	文学部
J43	22	女	岡山	広島大学	2008年	文学部
J44	23	女	鳥取	広島大学	2010年	医学部
J45	20	女	兵庫	広島大学	2010年	医学部
J46	19	女	広島	広島大学	2010年	医学部
J47	19	男	兵庫	広島大学	2007年	工学部
J48	20	男	鳥取	広島大学	2007年	工学部
J49	20	女	広島	広島大学	2007年	法学部
J50	19	女	広島	広島大学	2007年	法学部
J51	21	女	和歌山	広島大学	2007年	法学部
J52	22	女	京都	広島大学	2007年	法学部
J53	18	女	兵庫	広島大学	2010年	経済学部
J54	18	女	広島	広島大学	2010年	経済学部

J55	19	女	広島	広島大学	2010年	経済学部
J56	19	女	広島	広島大学	2010年	経済学部
J57	20	男	広島	広島大学	2010年	経済学部
J58	20	男	岡山	広島大学	2010年	経済学部
J59	22	男	大阪	広島大学	2010年	経済学部
J60	23	男	大阪	広島大学	2010年	経済学部
J61	22	男	広島	広島大学	2010年	理学部
J62	22	男	広島	広島大学	2010年	理学部

表 3-3 延辺朝鮮族学生のプロフィール

依頼者番号	年齢	性別	出身地	学校名	入学年度	学類/研究科
K1	22	女	和龍	延辺大学	2006年	師範・心理
K2	22	女	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K3	21	女	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K4	22	女	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K5	22	女	図們	延辺大学	2006年	師範・心理
K6	21	女	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K7	22	男	図們	延辺大学	2006年	師範・心理
K8	22	男	龍井	延辺大学	2006年	師範・心理
K9	21	男	図們	延辺大学	2006年	師範・心理
K10	21	男	龍井	延辺大学	2006年	師範・心理
K11	22	男	琿春	延辺大学	2006年	師範・心理
K12	22	男	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K13	21	男	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K14	22	男	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K15	22	男	安図	延辺大学	2006年	師範・心理
K16	22	男	延吉	延辺大学	2006年	師範・心理
K17	21	男	汪清	延辺大学	2006年	体育教育
K18	22	男	延吉	延辺大学	2004年	体育教育
K19	22	男	延吉	延辺大学	2004年	体育教育
K20	22	男	和龍	延辺大学	2004年	体育教育
K21	20	女	延吉	延辺財経学院	2005年	財経・会計
K22	20	女	延吉	延辺財経学院	2005年	財経・会計
K23	20	女	延吉	延辺財経学院	2005年	財経・会計

K24	22	女	延吉	延辺財経学院	2005年	財経・会計
K25	23	女	延吉	延辺財経学院	2005年	財経・会計
K26	20	女	延吉	延辺財経学院	2005年	財経・会計
K27	22	女	延吉	延辺大学	2005年	漢語文化
K28	22	女	延吉	延辺大学	2005年	漢語文化
K29	23	女	図們	延辺大学	2005年	漢語文化
K30	22	女	延吉	延辺大学	2005年	漢語文化
K31	23	女	延吉	延辺大学	2005年	漢語文化
K32	23	女	汪清	延辺大学	2005年	漢語文化
K33	24	女	延吉	延辺大学	2005年	漢語文化
K34	23	女	延吉	延辺大学	2005年	漢語文化
K35	22	女	図們	延辺大学	2005年	漢語文化
K36	22	女	汪清	延辺大学	2005年	漢語文化
K37	21	男	図們	延辺大学	2006年	師範・数学
K38	22	男	延吉	延辺大学	2006年	師範・数学
K39	21	男	琿春	延辺大学	2006年	師範・数学
K40	22	男	延吉	延辺大学	2006年	師範・数学
K41	21	男	図們	延辺大学	2006年	師範・数学
K42	21	男	琿春	延辺大学	2006年	師範・数学
K43	22	女	汪清	延辺大学	2005年	師範・数学
K44	22	女	延吉	延辺大学	2006年	師範・数学
K45	22	男	延吉	延辺大学	2006年	法学院
K46	22	男	和龍	延辺大学	2006年	法学院
K47	21	女	図們	延辺大学	2006年	日語
K48	21	女	延吉	延辺大学	2006年	日語
K49	21	女	龍井	延辺大学	2006年	日語
K50	21	女	延吉	延辺大学	2006年	日語
K51	33	女	延吉	延辺大学	2006年	日語
K52	26	女	汪清	延辺大学	2006年	日語
K53	21	女	図們	延辺大学	2006年	英語
K54	21	女	延吉	延辺大学	2006年	英語
K55	22	男	汪清	延辺大学	2004年	経済管理
K56	22	男	汪清	延辺大学	2004年	経済管理

K57	22	女	敦化	延辺大学	2006年	経済管理
K58	22	女	和龍	延辺大学	2006年	経済管理
K59	22	女	延吉	延辺大学	2006年	人文社会科学
K60	22	女	汪清	延辺大学	2006年	人文社会科学
K61	22	男	延吉	延辺大学	2006年	政治与公共管理
K62	22	男	延吉	延辺大学	2006年	政治与公共管理

3.4 調査手順

まず、調査者にフェイスシートを配り、ロールプレイの目的とやり方を説明した。次に、研究のために会話を録音させてほしいという旨を伝えて、被調査者の年齢、所属、性別などをフェイスシートに書いてもらった。最後に、ロールプレイをしてもらって全てをボイスレコーダーで録音し、録音したデータを文字化した。

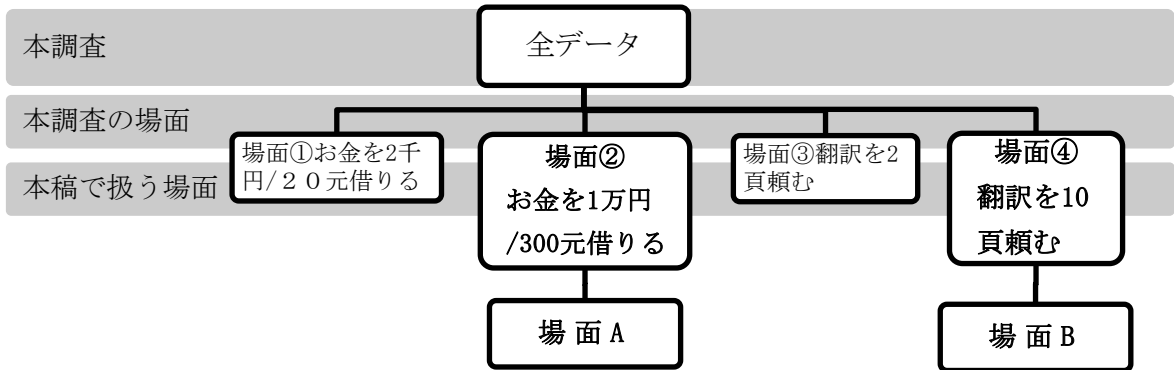
3.5 ロールプレイのカードとフェイスシート

場面設定をする際に、いくつかの候補として人間関係は友人関係、仕事関係、親戚関係を考えた。本論文では論文の冒頭で言及した通り親しい友達間の依頼談話の構造が知りたかったこと、留学生として身の回りでよく出会うのは友人関係である理由から親友同士に設定した。本研究では「典型性、自然さ、求援助を依頼目標とするもの」という基準から依頼場面を決めた。典型性というのは、研究対象となる両言語で差が少ないものを排除して、両文化で典型性が明らかになるものことである。自然さは両文化で無理なく「共通」する場面でどちらの若者にとっても自然であり個人差が出ないものを指す。Cody et al. (1994) は、大学生が日常どのような「影響目標 (Influence goal 即ち受け手の行動を変容させることである)」を持ちやすいかについて検討している。大学生の場合、求援助 (情報提供、金銭提供/貸与、労力提供、物品提供/貸与、上記の4カテゴリーの複合型) のことが半数近くを占めていると述べている。従って、金銭提供と労力提供を依頼する場面内容を設けた。

ロールプレイでは実験の協力者たちに依頼側 A、被依頼側 B という役割を、代わり々にやってもらう方式を採用し、親しい友達関係の同性同士でペアを組んで実験をしてもらった。実験回数は一人当たり1回か2回するよう求めた。その結果、日本語で177会話、延辺朝鮮語で180会話が得られた。延辺朝鮮語の依頼場面は全て日本語と同じだが、場面①と②で金額だけ調整して場面①では20元に、場面②では300元にした。

その結果、両言語は依頼の負担度の高い談話のほうの場面②と場面④でストラテジーの相違点が鮮明に現れた。本研究ではこの2つの場面を取り上げることにする。以下、論述の便利のため、図3-1で示したように場面②を場面Aと、場面④を場面Bと呼ぶ。ロールプレイの詳細は付録のカードAとカードB、フェイスシートに示した通りである。そして、要求通

図 3-1 本研究で取り上げる場面



りに会話を行わなかったもの、最終的に依頼目的が達成できなかったものはデータから外した。例えば、依頼内容を間違えて理解したり、話題が設定した場面から脱線したりしたものはデータから外した。本研究で選んだのは 141 会話（日本語 73 会話、延辺朝鮮語 68 会話）である。場面 A と場面 B は負担の大きさと違いを扱わず一括して考察する。

3.6 会話資料の文字化の方法

文字化した資料を読みやすくするために、本研究は以下のような表記方法を用いた。参加者が交替する箇所で 1 つの発話を区切り、それぞれに発話番号と参加者を示すアルファベット記号を付けて会話例の左側に一列に記した。日本語母語話者と延辺朝鮮語母語話者はそれぞれアルファベット「J」と「K」で記した。また、「依頼者側」は「A」、「被依頼者側」は「B」と記した。{ }の中の行動は非言語的な行動の{笑い}{資料を見せる}等を示す。

「-」は前の音節が長く延ばされていることを示す。「-」の数が多いほど、長く発せられたことを示す。「？」は疑問符ではなく、上昇のイントネーションを示す。「。」は下降のイントネーションで文が終了することを示す。「//」は下の会話者と同時に発話した場所を示す。「、」はごく短い沈黙、あるいはさらに文が続く可能性がある場合の「名詞句、副詞、従属節」等の後に記す。

第四章 研究の枠組み

4.0 はじめに

4章では本研究における分析の枠組みと本研究における分析方法について述べる。4.1では、依頼談話の定義を説明する。4.2では、依頼談話における大きい単位【部】について述べる。4.3では、依頼談話における中間的単位であると〈話段〉と本研究における分析の枠組みである「ストラテジー」について説明する。4.3では、本研究の中心部分である【本用件部】と【再依頼部】における分析方法をそれぞれ述べる。

4.1 本研究における依頼談話とは

南(1972、1981)は、「会話」と「談話」という2つの単位について検討し、次のように述べている。「会話」とは、いくつかの「談話」が集まってできる大きな単位である。「談話」という単位は、書き言葉における段落に当たるものとし、連続した会話の中のある部分が、次のa~fの6つの基準により区分されるとした。

a:その部分の前または後のはっきりしたポーズ。

b:その部分内部の連続性。

c:その部分に現れる各センテンス(にあたる発話)の参加者(話し手および聞き手)が一定していること。一部の参加者の途中からの参加、脱落は許容した。

d:その部分のコミュニケーション上の機能が一定していること。たとえば、あいさつ、用談、雑談、感情の直接表現など。

e:その部分の言葉の調子などが一定していること。たとえば、普通の調子、あらたまつた調子、くだけた調子など途中での多少の変化は許容した。

f:その部分の話題の性格が一定していること。たとえば、日常生活に関する事柄、世間話、他人のうわさなど。途中での多少の変化は許容した。

(南 1981 : 89)

南(1981)の定義に従い、ザトラウスキー(1993)は、談話を話し手と聞き手が相互に相手の話に相槌を打ち、質問をし、話を付け加えながら協力しあつて、作り上げる言語行為によって成り立った、まとまりのあるものとした。本研究でも、ザトラウスキー(1993)の定義を援用し、参加者の一方は依頼という目的のため、もう一方は、それに対する応答という目的を持って、互いに働きかけながら話を進めていく一連の言語行為によって成り立ったまとまりを「依頼談話」と呼び、分析する。

4.2 本研究における【部】

2.4.3.1でも一度言及したように、依頼行動は談話という大きい単位、〈話段〉という中間的単位、「発話機能」という小さい単位があると言われている。本研究では、談話を【部】に分けて、更に【部】に含まれる中間的単位と小さい単位をみる。この節では、まず【部】について述べる。依頼談話は第1段階の事情の説明と依頼を提示する段階、第2段階の相手の反応に対するフィードバックの段階、即ち依頼者の初依頼が相手に拒絶された後、続けて依頼を行う段階の2つの段階がある。それから、第1段階を更に【先行部】【本用件部】に分ける。第2段階は【再依頼部】【終結部】に分けて記述する。以下に4つ【部】を説明しておく。

【先行部】は依頼側が依頼を念頭において相手の注目を引き始めてから、話を切り出し、依頼を匂わせ、本用件に入る前までの依頼を成功させるための準備を行う段階である。柏崎(1993)と槌田(2003)ではこの「話題予告」と「前提確認」の部分を「前置き」、柳(2004)は「本件導入部」、アクドーアン(2008)は「依頼を導入する表現」という用語で説明されている。

【本用件部】は依頼者が本用件を言い、被依頼者が拒絶する部分までの依頼の主要部で、依頼側が依頼の意思を明言する発話から、被依頼側の断りの発話の直前までの依頼をめぐる具体的な展開のやりとりを指す。

【再依頼部】は【本用件部】で被依頼者の曖昧か拒絶の反応が現れた後、続けて依頼を行う部分、相手の反応への反応の段階で、初依頼では依頼目的を達成できなかったが、諦めず依頼目的を達成するために依頼をし続け、被依頼者が承諾するまでの談話の部分指す。被依頼者の断りが複数回ある場合、依頼者の再依頼の頻度は増える。【終結部】は依頼目的の達成後^{注9}、依頼者か被依頼者のどちらかが会話を締めくくる合図をし、会話参加者が終了することに合意し、談話が終わる部分を指す。

4.3 分析の枠組み

本研究は、依頼談話の構造を見ることが目的であって依頼談話がどのように展開し、どのような発話が使われているかを明らかにしなければならない。本研究では、まず、ザトラウスキー(1993)が提案した談話展開の全体的構造を有効的に捉えることができる分析単位の〈話段〉を援用して分析単位の1つとする。次に、局所的な談話構造を明らかにするために、ストラテジーを分析単位に用いる。依頼者と被依頼者はやり取りをする時に、良い人間関係を壊さないように配慮しながら、依頼者は依頼目的を達成するために、被依頼者は依頼に対して自分の判断に基づいた何かの応答をするために様々なストラテジーを使用する。ストラテジーの働きによって依頼談話の構造が変わるわけであって、依頼談話構造の研究では有効な分析単位であるため、本研究では〈話段〉と並ぶもう1つの分析の枠組みとしてストラテジーを設ける。

依頼談話の分割例は表4-1に示す。

表 4-1 依頼談話のデータの分析例

二十八〔依頼者=J23 (29 歳、男性) 被依頼者=J22 (28 歳、男性)〕							
【部】	中間的単位:〈話段〉	発話番号と発話者	小さい単位: ストラテジーの型と発話機能タイプのストラテジー			会 話	
【先行部】	(先行)	1AJ23				なあ、	
		2BJ22				うん。	
【本用件部】	(依頼 1)	3AJ23	A2	情報提供		実は 10 頁ぐらいある。	
		4BJ22			B2	相手の発話を確認	10 頁?ほんま?
		5AJ23	A2	情報提供			ほんま。もうちょっとあるんだやけど、//この倍ぐらいあるんやけど、
		6BJ22			B2	相槌	うん。
		7AJ23	A1	直接依頼			その半分を英語の得意な J22 君に訳してほしい。
	(依応 1)	8BJ22			B3	他の解決策	やれって、やっぱ 10 頁ぐらい自分で読んでくれて、仕様がなかったら、
		9AJ23	A2	情報提供			ちょっと俺時間がないよ。用事があるし。
		10BJ22			B3	他の解決策	寝る時間削って、
		11AJ23	A5	配慮発話			あ、それもあるか。
		12BJ22			B3	他の解決策	うん、それぐらい、
	【再依頼部】	(依頼 2)	13AJ23	A1	直接依頼		じゃ、5 頁ぐらいやってくれへん?
		(依応 2)	14AJ23			B1	承諾
15BJ22							そうか、
【終結部】	(終了)	16AJ23	A5	感謝		ありがとう。	

4.3.1 話段

また、本研究では、【本用件部】【再依頼部】といった上位単位のみでは効率的に談話を分析できないため、ザトラウスキー (1993) に倣い、〈話段〉という中間的単位を設ける。ザトラウスキー (1993) は日本語の勧誘の談話の構造分析をしているが、単位設定などのやり方は参考になる。話段は談話の構造を効率的に捉えることができる特定の目的を持った「談話」の下位単位で、依頼内容のまとまりと発話機能により区分される。〈話段〉は発話がどのように関連付けられるかについて談話の構造を効率的に捉えることができ、ザトラウスキー (1993) と猪崎 (2000)、柳 (2006) 等がこの方法で談話の構造を見ている。

4.3.1.1 話段の定義と認定基準

佐久間 (1987) は話段とは Brown & Yule (1983) の 'Paratones' という 'Paragraph' に相当する音声言語の単位に近い単位で文章の「文段」に当たる話し言葉の単位だとしている。

ザトラウスキー(1993: 72)は、佐久間(1987)の〈話段〉の概念を取って、2つの発話からなる「応答ペア」を発話の発話集合に当てはめようとしたもので、一般に、談話の内部の発話の集合体(もしくは一発話)が内容上のまとまりをもち、それぞれの参加者の「談話」の目的によって相対的に他と区分される部分であると定義している。

本研究では、ザトラウスキー(1993)の〈話段〉に関する定義を援用する。そして、柳(2006)の依頼談話における〈話段〉の定義を援用する。柳(2006: 37)は、「(中略)〈依頼の話段〉は依頼者が依頼という目的のために用いる発話の集合体で、〈依頼応答の話段〉は被依頼者が依頼に対して、「承諾」か「曖昧な応答」か「拒絶」か、などの依頼に対する応答をする発話の集合体である。」と定義している。以上、話段の定義について述べた。続いて、〈話段〉の認定基準について述べることにする。

〈話段〉を区切る認定基準について、佐久間(1987)、能田(1994)(1996)が論拠とした、南(1983)の8基準がある。佐久間(1987:102)が「かなりのものが」〈話段〉の認定基準として「みなすことができる」とする南(1983)の8基準は、以下の通りである。

- (1) 表現された形そのもの：外側の切れ目と内部の連続性
- (2) 参加者：話し手または書き手(addressor)、聞き手または読み手(addressee)、関係者(第三者、referent)
- (3) 話題：内容上の一貫性の段階
- (4) 言語的コミュニケーションの機能：情報伝達、人と人との社会的接触を作る働き、人と人との社会的接触を作る働き、感情・感覚の直接的表現、鑑賞の対象、各種の思考活動など
- (5) 表現態度(フリ)：表現の仕方に関する話し手(書き手)の意向
- (6) 使用言語(または方言)
- (7) 媒体：ゼロの媒体、物理的媒体、社会的(人間的)媒体など
- (8) 全体的構造：まとまった言語表現を構成する諸要素およびその要素間の関係における一種の型あるいは規則型

ザトラウスキー(1993)は、〈話段〉を特徴付けるものとして「メタ言語的発話」と「イニシアティブ」を取り上げている。柳(2006: 37)は〈話段〉は、1つの具体的な目的内容を持っているため、1つの目的に当たる「話題」が基準になると述べている。また、「発話機能」(例えば、話題を予告する「ちょっと頼みたいことがあるが、」や終了を表示する「では、」など)を認定基準にしている。本研究では、以上の先行研究の認定基準を踏まえた上で、本稿の分析対象は自然会話に近い条件調整されたロールプレイの談話であることから、「話題」「イニシアティブ」「全体的構造」この3種を〈話段〉の認定基準にする。例4-1で認定基準を説明

する。

例4-1日本語会話三十：〔依頼者＝J23（29歳、男性） 被依頼者＝J22（28歳、男性）〕

1AJ23：実家の都合で仕送りが//、ちょっと金がなくて、

2BJ22：うん。

3AJ23：だから、生活できん状態なんよ、1万円借りたいんだけど、

4BJ22：最近やなあ。日雇いでもしたらいいじゃないかな。

5AJ23：うん、日雇いか！

6BJ22：うん。

7AJ23：バイトとかはちょっと無理かな。

1AJ23から3AJ23までは〈依頼の話段〉である。この話段で依頼者AJ23はイニシアティブを取って情報を提供し、談話をリードしている。被依頼者のBJ22は相槌を打つことで依頼者の発話を促している。4BJ22から7AJ23までは〈依頼応答の話段〉である。この〈話段〉では被依頼者がイニシアティブを取って会話をリードし、依頼者と「日雇い」と「アルバイト」に関する内容を話題にしている。ひとまとまりのある話題であるため、途中で区切ることなく、4つの発話を束ねて〈依頼応答の話段〉にする。

4.3.1.2 話段の分類項目と分類例

話段はザトラウスキー（1993）と柳（2006）等でも使われている。ザトラウスキー（1993）は勧誘談話に話段を取り入れて研究しているが、依頼談話研究もその影響を受けている。ザトラウスキーは開始の話段、先行発話の話段、先行研究に対する応答の話段、勧誘の話段、勧誘応答の話段、勧誘の正当化の話段、代案の話段、代案応答の話段、次回の勧誘の話段、次回の勧誘応答の話段、持参品の話段、同伴者の話段、勧誘者の結論の話段、被勧誘者の結論の話段、終了の話段を設けている。柳（2006）は依頼談話を依頼の話段、依頼応答の話段、交渉の話段、条件調整の話段、収束の話段の5種類に分類している。ザトラウスキー（1993）と柳（2006）では設定された話段が異なるので、本研究では実際のデータを見て筆者が独自に決めておく。本研究は柳（2006）と同じく、談話構造とストラテジーの観点から日本語と延辺朝鮮語（柳（2006）は韓国語、本稿は延辺朝鮮語）の依頼談話を比較分析するので柳の5種類の分類を参考にする。柳（2006）は【本用件部】に入る前の「先行発話の話段」を設定せず、それを〈依頼の話段〉に含めたりするなど、話段の分類に不明瞭な点があった。そして、実際にデータを分析した限りでは、柳の分類では分類し切れないのがあってザトラウスキー（1993）の勧誘の分類も参考にして、〈依頼者の結論の話段〉、〈被依頼者の結論の話段〉〈代案の話段〉〈代案応答の話段〉を付け加えた。

例 4-2 で依頼者の AK42 は被依頼者の BK41 に借金を頼むために前提となる生活費の額を確認することで、【本用件部】に入る準備をしている。

(2) 依頼の話段（依頼）

依頼談話の核心的な部分である〈依頼の話段（依頼）〉では依頼者が依頼を行う。依頼者はイニシアティブを取って話題をリードし、被依頼者に自分が置かれている状況を間接的に伝えたり頼みたいことを直接的に言ったりして本題を切り出す。例 4-3 と例 4-4 を参照されたい。

例 4-3 場面 B における〈依頼の話段（依頼）〉の日本語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=J7 (21 歳、女性) 被依頼者=J8 (21 歳、女性)]
		中略	
5	AJ7	(依頼)	わたし、論文読まんといけんのよ。
6	BJ8		おー、おー。
7	AJ7		で、英語なんよ。
8	BJ8		英語かー、はいはい。
9	AJ7		英語苦手でー、
10	BJ8		うん、うん。
11	AJ7		J8 ちゃんが英語が得意ってことみんな知ってる//から、
12	BJ8		うん、うん。
13	AJ7		ちょっと申し訳ないんだけど、10 頁ぐらい//和訳してもらえないですか？

例 4-4 場面 B における〈依頼の話段（依頼）〉の延辺朝鮮語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=K29 (23 歳、女性) 被依頼者=K30 (22 歳、女性)]
1	AK29	(依頼)	이-、 그 필수과목 그거 숙제 또 냐단말이다。 この-、あの必修科目のあれまた宿題が出たの。
2	BK30		{笑い}
3	AK29		근데 이번에 량이 되게 많지무。で、今度は量がすごい多いんだけど。
4	BK30		응。 うん。
5	AK29		그래 열페이지 해주개? で、10 頁やってくれる?

例 4-3 の 5AJ7 「わたし、論文読まんといけんのよ。」と「情報提供」を行って【本用件部】

を始めている。続けて「で、英語なんよ。」「英語苦手で一、」と情報を提供し続ける。それから、「J8 ちゃんが英語が得意ってことみんな知ってる//から、」と相手を褒めてから、13AJ7「ちょっと申し訳ないんだけど、10 頁ぐらい//和訳してもらえないですか？」と相手に配慮しながら直接的な依頼を行っている。この（依頼）で、依頼者は談話展開をリードして被依頼者は頻繁に相槌を打つことで話を促している。例 4-4 では、1AK29「이ー, 그 필수과목 그거 숙제 또 냐단말이다。この-, あの必修科目のあれまた宿題が出たの。」と言って情報を提供する。それから、「근데 이번에 량이되게 많지무。で、今度は量がすごい多いんだけど。」と情報を提供し続け、5AK29 でいよいよ「그래 열페이지 해주개? で、10 頁やってくれる?」と直接に依頼を言い出す。依頼者は主導権を取って、談話展開を進めている。被依頼者は非言語行動の{笑い}と相槌の「응. うん。」と答えただけである。このように〈依頼の話段〉で会話参加者は自分の目的に沿ってストラテジーと「発話機能」を使用している。

(3) 依頼応答の話段（依応）

依頼者の依頼に対して被依頼者が応答をする部分を〈依頼応答の話段（依応）〉という。この話段で被依頼者はイニシアティブを取って、話題をリードし、依頼者の依頼に対して反応の応答をする。〈依頼応答の話段（依応）〉には、普通「承諾」「拒絶」「曖昧」の3つの反応があるといわれている。例 4-5～例 4-7 はそれぞれ被依頼者の応答が「承諾」「拒絶」「曖昧」である分類例である。

例 4-5 場面 B : 〈依頼応答の話段（依応）〉が「承諾」である日本語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=J21 (22 歳、男性) 被依頼者=J20 (23 歳、男性)]
1	BJ21	(依応)	生活費だめになるんだけど、1 万円貸して。
2	AJ20		あ、いいよ。じゃ、まあ、返せる日に返してや。

例 4-5 では「あ、いいよ。じゃ、まあ、返せる日に返してや。」と「承諾」を表明する。

例 4-6 場面 B : 〈依頼応答の話段（依応）〉が「拒絶」である日本語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=J38 (21 歳、男性) 被依頼者=J37 (21 歳、男性)]
2	BJ37	(依応)	駄目、何かこの前だけど、何か軽くない? {笑い}
3	AJ38		{笑い} いつも通りだけど、覚えといてくれ。忘れるけん、借りたの教えないと。
4	BJ37		絶対忘れるし {笑い}、お前。

例 4-6 では「駄目、何かこの前だけど、何か軽くない? {笑い} 」と言って「拒絶」を表

明する。

例 4-7 場面 B : 〈依頼応答の話段〉が「曖昧」である延辺朝鮮語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=K8 (22 歳、男性) 被依頼者=K7 (22 歳、男性)]
3	BK7	(依応)	그 많은거? 아-야 내 좀 생각해보구. そんなに多い? あ-あちょっと考えさせて。

例 4-7 では「그 많은거? 아-야 내 좀 생각해보구.そんなに多い? あ-あちょっと考えさせて。」と言って、「曖昧」の態度を示している。

(4) 交渉の話段 (交渉)

本研究では柳 (2006) に倣い、〈交渉の話段 (交渉)〉を設ける。柳 (2006) は以下のように定義している。被依頼者の依頼応答が「不確定」であった場合、それに続く話段では、依頼の成立のための働きかけややり取りが続けられる。この部分を〈交渉の話段 (交渉)〉と呼ぶが、イニシアティブは依頼者側と被依頼者とのどちら側からでも取ることができる。例 4-8 と例 4-9 は〈交渉の話段 (交渉)〉の例である。

例 4-8 場面 B における〈交渉の話段 (交渉)〉の日本語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=J34 (19 歳、女性) 被依頼者=J33 (20 歳、女性)]
			中略
27	AJ34	(交渉)	ええ、だめ? 明日返す。
28	BJ33		明日返せんだろう?
29	AJ34		いやいや、明日じゃない。
30	BJ33		明日は大変だ。
31	AJ34		お金は入ったら返すで、貸してや。
32	BJ33		うん、そうやね-
33	AJ34		貸してや。
34	BJ33		{笑い} いいよ、分かった。

例 4-8 では、依頼者の態度が「曖昧」であった場合、依頼者が「ええ、だめ? 明日返す。」「お金は入ったら返すで、(中略)」とお金を返す件について保障を言うことで続けて被依頼者の「承諾」を得るために働きかけている。

例 4-9 は、被依頼者の態度が「曖昧」であった場合、依頼者が相手に「응, 니 시간 있지?

例 4-9 場面 B における〈交渉の話段（交渉）〉の延辺朝鮮語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=K45 (21 歳、女性) 被依頼者=K46 (21 歳、女性)]
		中略	
17	AK45	(交渉)	응, 니 시간 있지?내용 영 적다. うん、あなた暇ある?内容が少ないよ。
18	BK46		그럼、 じゃ、
19	AK45		인차 된다. すぐできる。
20	BK46		내 시간 모자란데, 다섯페이지 해줄게. 私時間が足りないんだけど、5頁やってあげる。
21	AK45		아니, 열페이지다-、니 어디 가야 되니? いいえ、10頁なんだよ-どこか行かないといけないの?
22	BK46		응. 무스거 해야 된다. うん。何かやらないといけない。
23	AK45		인차 된다. 빨리 하면 된다. でもすぐ終わるよ。速くやればできる。
24	BK46		아-야-? え-え-?
25	AK45		아-야?제발 제발. え-え-?お願い、お願い。
26	BK46		아-, 알았다. 이게 마지막이다응? あ-、分かった。これ最後だよ?
27	AK45		응, 알았다. うん、分かった。
28	BK46		이게 마지막 한번이다응? これが最後だよ?
29	AK45		응, 썬유. うん、ありがとう。

내용 영 적다. うん、あなた暇ある?内容が少ないよ。」、「인차 된다. すぐできる。」などと言って負担が少ないことをアピールしたり、「(中略) 니 어디 가야 되니? どこか行かないといけないの?」と言って相手の都合を聞いたり、「인차 된다. 빨리 하면 된다. でもすぐ終わるよ. 速くやればできる。」と相手の能力だと簡単であると言ったりして被依頼者と交渉を行う〈話段〉である。

(5) 条件調整の話段 (条調)

本研究は柳 (2006) に倣い、〈条件調整の話段〉を設ける。柳 (2006) は依頼に対する被依頼者の依頼応答が「承諾」である場合、依頼談話は終了へと向かって進むが、被依頼者の「承諾」が得られた後、更に話し合いが行われる場合がある。この参加者同士で話し合う部分を〈条件調整の話段〉と呼ぶと定義している。例 4-10 と例 4-11 を見られたい。「(条件調整) は、(依頼応答)の後に行われる発話行為である点と、参加者のどちらもイニシアティブを取

これからどう行動するか判断を下す〈話段〉である。(被結)とは、依頼者の結論を聞いて被依頼者が自分の見方を発表し、判断を下す〈話段〉である。例 4-12 は〈依頼者の結論の話段〉と〈被依頼者の結論の話段〉を示している。例 4-12 で AJ27 の依頼を聞いた BJ28 は否定的な見解を表明し、拒絶する。それから、AJ27 は BJ28 の話に合意し自力でできるところまで一応頑張ってみる意向をみせ結論を出す。依頼者の結論を聞いた被依頼者も自分もある程度協力すると結論を出す。

例 4-12 場面 B: 〈依頼者の結論の話段 (依結)〉「被依頼者の結論の話段 (被結)」の例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=J7 (21 歳、女性) 被依頼者=J8 (21 歳、女性)]
1	AJ27	(先行)	また手伝ってもらいたいんだけど、
2	AJ27	(依頼)	10 頁ぐらいどうかな。
3	BJ28	(依応)	さすがに 10 頁はちょっときついなあ。でも、それ自分でやったほうがいいと思うよ。やっぱり自分のために、手伝ってあげることにはできるけど、自分でやったほうがやっぱね、英語の勉強にもなるし、
4	AJ27	(依結)	じゃ、できるところまでやってみるわ。
5	BJ28	(被結)	自分でやってみて、じゃ、それでチェックぐらいするよ? じゃー。
6	AJ27	(終了)	うん、ちょっと待って。

(8) 代案の話段 (代案) と (9) 代案承諾の話段 (代応)

この 2 つの話段はザトラウスキー(2003)を参照したものである。(代案) の話段は被依頼者が依頼者を断る代わりに、自分なりの解決案を言う〈話段〉で、(代応) は (代案) に対する承諾の話段である。例 4-13 は場面 B における (代案) と代案承諾の話段 (代応) の例である。

例 4-13 場面 B: 〈代案の話段 (代案)〉と〈代案承諾の話段 (代応)〉日本語の例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=J24 (20 歳、男性) 被依頼者=J25 (21 歳、男性)]
1	AJ24	(依頼)	今月さあ、あの一実家からの仕送りが遅れてさ、頼みたいことがあるんだ。明日かあさってかなんでね、あ、ちょっと至急買いたいものがあるんで、1 万円貸してくれない?
2	BJ25	(依応)	なんか奨学金が入ってなくてさ、
3	AJ24		{笑い}、まじで。
4	BJ25		生きてるのに精一杯なんだよ。
5	AJ24		まじで。うらやましいわあ。
6	BJ25	(代案)	うん。声をかけて、そうだ、R さんあたりがいいから、
7	AJ24	(代応)	R さんはそんなに、やっぱ R さんには頼みづらいんだよな。
8	BJ25		大丈夫。俺 R さんから借りてそれで、又貸しするよ。

9	AJ24		OK、OK、分かった。うん、悪いけど、じゃ、頼むわ。助かる。
10	BJ25		うん。

上の例でBJ25はAJ24の依頼を聞いて、Rさんをお願いするように代案を提示する。それを聞いたAJ24は自分からは直接依頼を言い出せないというが、BJ25が出面してRさんに依頼してあげると約束をして、AJ24は最終的に代案に承諾する。

(10) 終了の話段 (終了)

依頼談話で被依頼者が依頼の承諾をした後も、依頼内容を確認したり、依頼者と被依頼者が気になることについて相談をしたり、承認条件の再確認を含んだ発話をしたり、感謝をしたりすることがある。このような談話を締めくくり、お互いに談話を終わらせようとする部分を〈終了の話段 (終了)〉とする。これはほぼ柳 (2006) の「収束の話段」にあたるが、「収束」では何か特別なニュアンスが感じられるので、談話の終わりを示す話段という意味で〈終了の話段 (終了)〉と呼ぶことにする。日本語は(終了)があるのが普通である (5.1 参照)。延辺朝鮮語は(終了)が日本語ほど現れないが、日本語に合わせて(終了)を設ける。例 4-14 と例 4-15 を参照されたい。例 4-14 では、依頼が達成した後、依頼者は被依頼者が気にするだろうと思う借りたお金に対して「また今度は入ったら返すけんさ、絶対ごめんよ。」とお金を返す事を保障する内容である。例 4-15 は依頼が達成した後、依頼者が「응, 이따 보자. 다시. うん, 後で. また。」と言って被依頼者とお別れの挨拶をした後、被依頼者が「든든히 사라. しっかり奢ってね。」と依頼者に物質的に補償してくれるように話す発話である。

例 4-14 場面 B における〈終了の話段 (終了)〉の日本語の分類例

発話番号	発話者	話段	[依頼者=J33 (20 歳、女性) 被依頼者=J34 (19 歳、女性)]
	中略		
31	AJ33	(終了)	まじで。{笑い} ほんとごめんね、ほんとごめんね。
32	BJ34		いえいえ。
33	AJ33		また今度は入ったら返すけんさ、絶対ごめんよ。
34	BJ34		ううん、いいよ。
35	AJ33		ほんとごめん、ありがとう。
36	BJ34		うん、いいよ。
37	AJ33		ありがとう。

例 4-15 場面 B における〈終了の話段 (終了)〉の延辺朝鮮語の分類例

発話	発話者		

番号		話段	〔依頼者=K35 (22歳、女性) 被依頼者=K36 (22歳、女性)〕	
	中略			
15	AK35	(終了)	응, 이따 보자. 다시.	うん、後で。また。
16	BK36		든든히 사라.	しっかり奢ってね。
17	AK35		알았다.	分かった。

4.3.2 ストラテジー

4.3.2.1 ストラテジーの定義

本研究では、ザトラウスキー (1993) の定義を援用して、ストラテジーは、会話のやり取りの中で、「目的 (goal)」を達成するために話者が用いる手段を指すものと定義する。

依頼者は依頼達成を、被依頼者は「承諾」「拒絶」「曖昧」を自分の目的とする。但し、その呼称は、あまり定まっていない。原語とその直訳を挙げれば、以下のようなものがある。

(今井 2005:115)

influence tactics	(影響手段)	compliance-gaining tactics	(応諾獲得手段)
tactics of manipulation	(操作手段)	compliance gaining strategy	(応諾獲得)
power strategy	(影響力)	influence strategy	(影響)

表現は異なっても同じことを意味する。本研究では、上記の総称としてストラテジー (strategy) という表現を用いることにする。ストラテジーの種類は日本語と延辺朝鮮語に見られる発話全体をカバーできる分類法を取らなければならないので、一般的に見られないものも含まれている。

4.3.2.1 本研究におけるストラテジーの分析対象

会話のストラテジーとしての様々な行為や言語表現は、談話分析、社会学、言語学 (特に語用論)、心理 (言語) 学といった研究の分野で取り扱われている。これらの分野では様々な観点から会話のストラテジーを検討し、その機能は話し手や書き手の態度に関わるもの、指示物や命題・概念に関わるもの、発話や文の前後関係に関わるものなど幅広い範囲にまたがる。本研究では、会話のストラテジーの機能を会話の構造と発話の内容に関連付けて言語使用におけるストラテジーを分析することにする。

Watzlawick, Beavin and Jackson (1967) は、すべての言葉には内容的 (content) 側面と人間関係 (relationship) 的側面があると述べている。Brown and Yule (1983) は、言語に2つの機能、すなわち報告的 (あるいは情報伝達的) 機能と相互作用 (interactional) (あるいは社会的関係維持的) 機能があると述べている。本研究では、依頼者が依頼の目的達成のための手段としてどのようなストラテジーを用いるのかを言語行動の観点から内容面で扱うことにする。

4.3.2.2 ストラテジーと発話機能との関係

本研究では、談話という大きい単位を【部】に分け、〈話段〉を中間的単位にすると 4.2 と 4.3.1 で述べたが、最も小さい単位としては「発話機能」を設定する。発話機能は機能という名称がついているが、発話機能をもつ単位(発話の一部)と機能そのものとしての発話機能という両面を持っている。先行研究では「発話機能」を談話の構造単位として認識しているので、本稿でもそのように認識しておく。ストラテジーの分類に先立ってストラテジーと発話機能との関係について簡単に説明する。本研究ではストラテジーと発話機能を似たものとして看做す。〈話段〉内部と他〈話段〉への移行にはストラテジーが機能を果たさないと成り立たない。「ストラテジーの連鎖は結局的に「発話機能」の連鎖になるのである。その連鎖にパターンがあるとしたら、構造になるのである」と 2.4.3.1 で言及した。しかし、「発話機能」には情報のやり取り、行為の促しや表明、関係作り・儀礼、談話管理といった種類が多くあって、「発話機能」を以って話し言葉を分析するには、談話構造の研究としてはまとまらないことが問題になるため、取捨選択をしておく必要がある。本研究では、「発話機能」の中でも、依頼者の依頼目的達成のためのストラテジーと被依頼者の自分の意思に沿った応答のストラテジーのみ取り上げる立場から発話機能タイプのストラテジーを分類する。

4.3.2.3 ストラテジーの分類項目と分類例

本研究のストラテジーの分類は今井(2006)と柳(2006)の分類を参考した上で修正を加えたものである。今井(2006)は依頼・要請時に用いられる影響手段を単純依頼、理由提示、資源提供、正当要求、情動操作の5つにまとめた。柳(2006)はストラテジーを依頼先行発話、依頼の直接的発話、依頼の正当化、負担感の軽減、負担感の埋め合わせ、社会的欲求充足、切り上げの7つの大きいカテゴリーに分類した。本研究では、今井(2006)の{主張型}、{論理型}、{正当型}、正当要求と、柳(2006)の負担感の軽減、負担感の埋め合わせ、顧他(1998)の対人的配慮に加え、延辺朝鮮語に現れた〈非難〉を新たに追加した。被依頼者ストラテジー、依頼者及び被依頼者ストラテジーの下位分類は筆者による。本文では依頼者と被依頼者ストラテジーの分類において「ストラテジーの型」を大きいカテゴリーにし、その下に下位分類の「発話機能タイプのストラテジー」を設ける。本研究で用いるストラテジーの分類項目と分類例は表 4-2 と表 4-3 に示す。以下からは論述の便利のために部は【 】、話段の略語は()、ストラテジーの型は{ }、発話機能タイプのストラテジーは「 」で囲んで区別する。

表 4-2 依頼者ストラテジーの分類項目と分類例

ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー		分類例
A1: 主張型	1	直接依頼 :	英語 10 頁訳して

依頼者に行ってほしい依頼事項を単に伝える		被依頼者に直接的に頼む	
	2	間接依頼:被依頼者に間接的に頼む 懇願 不受容 提案 提案要求	一生のお願い。 どうしても無理? 이럴가? 울돌이. こうしたら どう?私達。 10頁を何頁だったらできる?
A2:論理型 自分の置かれている状況や依頼行為の正当性を理解してもらうために様々な情報を言う	3	情報提供:自分の状況、様々な情報を言う	英語下手だから。
	4	情報要求/確認要求:被依頼者に情報や確認を求めたりする	まじで?
A3:正当型 人が持っている個人的・社会的価値を尊重、することを指摘・強要する	5	親密・依存:極めて仲のよいこと、被依頼者に頼らなければならないと言う	칭구길래. 友達だから
	6	称賛:被依頼者を褒め称える	英語得意だから
A4:負担感関連型 相手が感じる負担を少しでも減らそうとする働き、被依頼者にも利益があることを示したり、負担をかけたことについて埋め合わせる意思を伝えたりする	7	負担感の軽減:被依頼者の感じる負担感を少しでも減らそうとする働きである 限定・譲歩 保障 共同行為要求 低コスト表明	ちょっと手伝うだけでいい。 すぐ返すから、 ちょっと、一緒に考えよう? 10頁はたぶん楽ちんだよ。
	8	負担感の埋め合わせ:被依頼者の感じる負担感を償おうとする様々な働きである 補償 相手利益 謝罪	うーん、何か奢るよ 論文の練習になると思うよ。 ほんとうに申し訳ないけど、
A5:対人的配慮型 相手の立場を考えた り、よい人間関係作りをする	9	配慮発話か受け止め:被依頼者の否定的な情報を一旦受け止め、理解を示す類	確かに多いね
	10	感謝:お礼を言う	ありがとう。
A6:圧力型 依頼を強制したり、	11	強要:依頼を承諾するように押し付ける	うん、3日徹夜したら?

不満、批判、罵り、非難、皮肉をすることで圧力をかける	12	加圧:被依頼者への不満、批判、非難、皮肉。自己非難と自己皮肉	넌 300 원두 없니? お前は 300 元もないのか?
----------------------------	----	--------------------------------	---------------------------------

表 4-3 被依頼者ストラテジーの分類項目と分類例

ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー		分類例
B1:積極型 依頼に対して積極的な態度を示す発話で、依頼者の依頼に対して肯定的な評価を含む型	1	承諾:依頼を受け入れる	それなら一万円貸してやるよ。
	2	承諾に有利な情報を含む発話:被依頼者が依頼を受け入れる態度を示す情報を言う発話	まあ、やったらできそうやけど、
	3	新情報を要求する発話:「依頼」に必要な情報を収集する発話で、依頼に対する肯定的な態度を示すもの	3 日後には絶対返せる?
B2:中立型 依頼に対して中立的な態度を示す発話で、肯定的でもなく、否定的な評価でもないどちらも含まない型	4	相手の発話を確認・復唱:依頼者の発話を確認めたりして、ただ繰り返して読む	1 万円か。
	5	詳しい情報を要求/提供:依頼者に詳細な情報を求めたり、差し出したりする発話	ああー、どのぐらい?
	6	相槌・継続・共感:肯定的でも否定的でもなく、ただ単に話を継続させたり共感を示したりする	うん。
B3:消極型 依頼に対して消極的な態度を示す発話で、依頼者の依頼に対して否定的	7	思案・曖昧:依頼応答に思い煩ったり、不確定な発話をしたりする	1000 円分、10 頁かー、どうしょ?へえ?
	8	直接的な断り:相手の依頼に対して断りの意向を直接的に述べること	いいえ、多い、多い。
	9	不利・否定的な内容を含む発話:承諾するのに障害になる	

な評価を含む型		事情を伝えたり、相手の依頼に否定的な態度を示す発話をする 理由説明 不利な情報を含む発話 否定的な見解の表明	何か十分に訳せるか分からないし、何でそんな計画できなかった？でも自分でやったほうがいいよ、
	10	他の解決策：依頼を断る代わりに自分なりの他の解決案を出す 代案提示 条件提示 提案	ぱつとKにお願いできないの？もうちょっと減らしてくれたらできるかもしれん。 だから、10頁頑張ってみたら？
	11	非難：相手の依頼に対して不満、批判、罵り、非難、皮肉をすることで依頼者が自ら依頼を退けるように仕向ける	무슨 일이 많기는? 何의用事が沢山あるというのか?
B4: 对人的配慮型 思いやり発話や依頼者の気持ちに心を配る型	12	对人的配慮の発話：依頼者の立場を配慮する発話、謝罪や残念な気持ちを表明	1万円か、大変だね。 お金があるんだったら、どれぐらいでもね、

4.4 分析方法

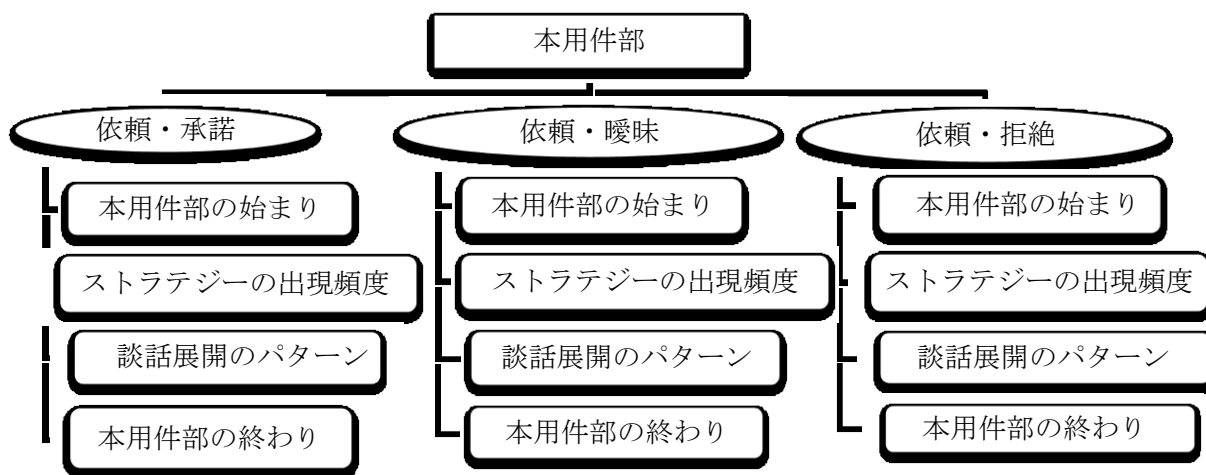
本研究で収集した会話資料は最終的に依頼が成功したデータと、依頼が失敗したデータの2つの結果があるが、本研究では依頼目的が達成したもののみ扱う。依頼が成功したデータは大きく「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の3種類に分けられる。第五章ではこの3種類の大きな談話展開を話段を単位に全体的構造をみた。第六章では、依頼談話の基本的な構造となっている〈依頼の話段〉〈依頼応答の話段〉〈交渉の話段〉を抽出し、これらの話段が【本用件部】と【再依頼部】においてどのようなストラテジーを使用しているかを総合的に捉える。

4.4.1 【本用件部】における分析方法

【本用件部】で依頼者と被依頼者が使用する、ストラテジーのパターンは種類も数も少なく、特定の種類に集中している。そこで、【本用件部】では2発話連続におけるストラテジー

をみる。2 発話連続におけるストラテジーとは、依頼者ストラテジーと被依頼者ストラテジーが隣接応答ペアとなっているものを指す。図 4-1 に【本用件部】での分析手順を示している。

図 4-1 【本用件部】における分析手順



本研究の依頼談話は「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の3つの展開に分けることができる。この3種の展開には何れも【本用件部】がある。本研究に該当する段階はそれぞれ「依頼・承諾」、「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」と呼ぶことにする。「依頼・承諾」の場合は依頼者が本題を切り始める発話から、被依頼者が承諾をする発話まで、「依頼・曖昧」の場合は依頼者が本題を切り始める発話から、被依頼者が曖昧な態度を示す発話まで、「依頼・拒絶」は依頼者が依頼をする発話から被依頼者が拒絶する発話までを指す。

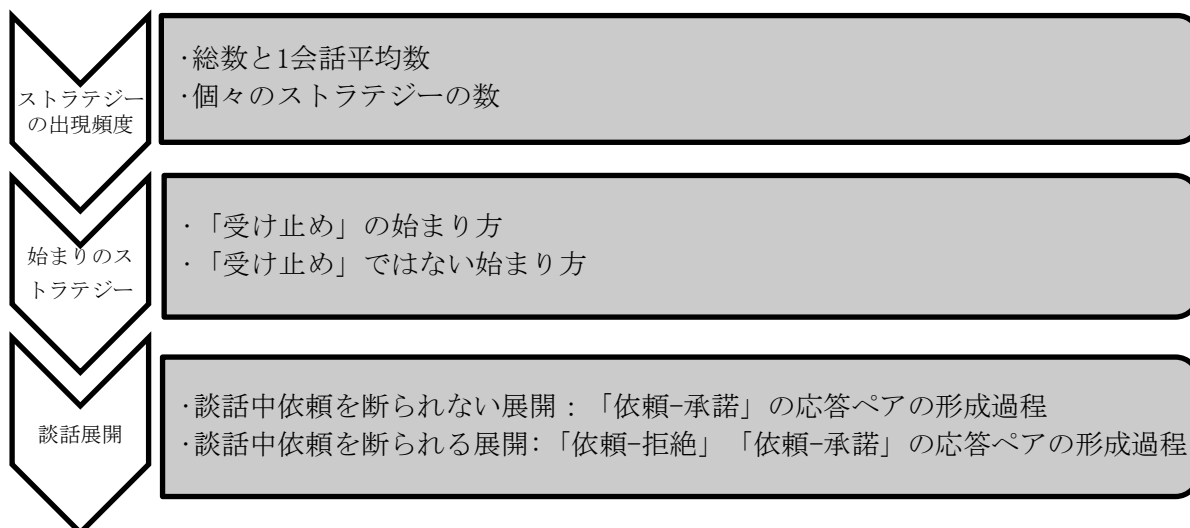
まず、【本用件部】の各展開においてストラテジーの総数を日本語と延辺朝鮮語で比べることで、全体的な傾向を述べる。次に、【本用件部】がどのようなストラテジーによって始められているかを見る。そして、3種類の展開でストラテジーの使用にはパターンがあるのか、あるとしたら内容別にどのように構造されているかを考察する。最後に、3種類の展開の【本用件部】の終わりで使用されたストラテジーはどのようなものかを見る。特に、「依頼・承諾」「依頼・拒絶」の展開では、「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」の応答ペアの形成過程をみることで両言語のパターンを比較する。

4.4.2 【再依頼部】における分析方法

【再依頼部】では【本用件部】と異なった分析方法を用いる。この【部】で談話展開は被依頼者の影響を多く受ける。会話参加者の用いるストラテジーは種類と数が【本用件部】より遥かに多く、パターンも複雑で、依頼の展開に与える影響も大きい。【再依頼部】では【本用件部】で依頼者が被依頼者に曖昧な態度と拒絶の態度を取られて依頼目的が達成できな

った「依頼・曖昧」と「依頼・拒絶」の2つの展開の続きとなる段階が繰り返される。分析手順は図4-2に示したとおりである。

図4-2 【再依頼部】における分析手順



【再依頼部】に該当する段階を本研究では「曖昧・承諾」「拒絶・承諾」と呼ぶことにする。考察してみた結果、「曖昧・承諾」「拒絶・承諾」の展開のやり方に差異がなかったため、一括して取り扱うことにする。応答ペアとしての「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」を手がかりに、会話参加者の態度と会話展開に焦点を当て、それぞれ期待する会話展開を実現するために日本語と延辺朝鮮語で用いられるストラテジーの特徴を具体的に検討する。まず、【再依頼部】全体に見られたストラテジーの総数を両言語で比較分析することで全体的な傾向を捉える。次に、【再依頼部】の始まりには如何なるストラテジーが使用されているかについて分析を行う。それから、【再依頼部】を「談話中で依頼を断られない展開」と「談話中で依頼を断られる展開」の2つに分けて、「談話中で依頼を断られない展開」では「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程を、「談話中で依頼を断られる展開」では「依頼」と「拒絶」、「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程を論じる。分析・記述の際に、【本用件部】と【再依頼部】では1つの会話にAもBも同じ項目が何度か現れるので、AまたはBの下位分類が現れた会話数と、パターンの現れた会話数の合計は一致しないことがある。次章から七章までは四章で述べた研究の枠組みに従って、依頼談話を分析する。

第五章 話段レベルからみた依頼談話の全体的構造

5.0 はじめに

第五章では、【部】と〈話段〉からみた依頼談話の構造を分析することで規則性や依頼談話の全体的構造をみる。そして、全会話における話段のパターンを記すことで、日本語と延辺朝鮮語の依頼構造の全体的な傾向を比べる。

5.1 【部】と話段による全体的構造

表 5-1 と表 5-2 はそれぞれ日本語と延辺朝鮮語の全体的構造における【部】と話段の分布を示したものである。2つの表は話段展開の連鎖を左側から右側へと出現順序通りに示している。例えば、(依頼+依応) 3 は () の中の〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉が「隣接応答ペア」であることを示し、右の 3 は当ペアが現れた出現数を示す。

表 5-1 日本語の依頼談話における全体的構造

会話番号	【先行部】	【本用件部】	【再依頼部】	【終結部】
「依頼・承諾」の展開 (6 会話)				
十六		(依頼+依応) 1		(終了)
十九	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
二十六		(依頼+依応) 1		(終了)
五十	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
六十七		(依頼+依応) 1		(終了)
七十二	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		(終了)
「依頼・曖昧・承諾」の展開 (29 会話)				
二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	(終了)
八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十二		(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
十四		(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)

二十二		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
二十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
二十九		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
三十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)+(条調)	
三十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
四十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
四十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	(終了)
四十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五十九		(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十二		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
六十四		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
六十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
七十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
「依頼・拒絶・承諾」の展開 (38 会話)				
一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 4	
十	(先行)	(依頼+依応) 1	(代案)+(代応)	(終了)
十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
十八		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
二十	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
二十四		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
二十七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
二十八		(依頼)	(交渉)	(終了)

三十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十二		(依頼+依応) 1	(代案)+(代応)	
三十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依結)+(被結)	(終了)
三十六		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
三十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(依頼)3+(代案)+(代応)	
四十二		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
五十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
五十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
五十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
五十六		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼 2)+(代案)+(代応)	
六十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
六十六		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
七十	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
七十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
部の合計	45 (61.64%)	73 (100%)	67 (91.78%)	61 (83.56%)

表 5-2 延辺朝鮮語の依頼談話における全体的構造

会話番号	【先行部】	【本用件部】	【再依頼部】	【終結部】
「依頼・承諾」の展開 (20 会話)				
一		(依頼+依応) 1		(終了)
九		(依頼+依応) 1		(終了)
十二		(依頼+依応) 1		
十四		(依頼+依応) 1		

十五		(依頼+依応) 1		(終了)
十六		(依頼+依応) 1		
十八		(依頼+依応) 1		
二十一	(先行)	(依頼+依応) 1		
二十四		(依頼+依応) 1		
二十六	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		
三十二		(依頼+依応) 1		
三十七		(依頼+依応) 2		
四十八	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		(終了)
五十一	(先行)	(依頼+依応) 1		
五十二		(依頼+依応) 1		
五十三		(依頼+依応) 1		(終了)
五十五	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		(終了)
五十九	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
六十四	(先行)	(依頼+依応) 1		
六十六		(依頼+依応) 1		
「依頼・曖昧・承諾」の展開 (22 会話)				
三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(交渉)	
四		(依頼+依応) 1	(交渉)	
五		(依頼+依応) 1	(交渉)	
六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	
十一		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
三十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	
三十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	
三十三		(依頼+依応) 1	(交渉)	
四十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
五十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
五十八		(依頼+依応) 1	(交渉)	
六十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)

六十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(代案)+(代応)	(終了)
六十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	
「依頼・拒絶・承諾」の展開 (26 会話)				
二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十九		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	
二十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
二十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
二十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
二十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十四		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
三十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
三十六	(先行)	(依頼+依応) 1	(代案)+(代応)	
三十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(代案)+(代応)	(終了)
三十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
四十一		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(交渉)	
四十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
四十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	(終了)
五十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五十六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
六十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
部の合計	39(57.35%)	68(100%)	48(70.59%)	28(41.18%)

表 5-1 と表 5-2 をみると、両言語の談話展開の流れは 3 種類あることが分かる。1 つは、「依頼・承諾」の展開（日本語 6 会話、延辺朝鮮語 20 会話）で、2 つは、「依頼・曖昧・承諾」の展開（日本語 29 会話、延辺朝鮮語 22 会話）、3 つは、「依頼・拒絶・承諾」の展開（日本語が 38 会話、延辺朝鮮語 26 会話）である。そのうち、【先行部】が日本語 45 会話(61.64%)、延辺朝鮮語 39 会話(57.35%)、【本用件部】は両言語とも全会話、【再依頼部】が日本語 67 会話(91.78%)、延辺朝鮮語 48 会話(70.59%)、【終結部】が日本語 61 会話(83.56%)、延辺朝鮮語 28 会話(41.18%)現れている。両言語は【本用件部】が全会話に現れた点で共通している。そして、何れの【部】においても日本語は延辺朝鮮語より割合が高い。「依頼・承諾」の展開は日本語は 6 会話しか現れていないが、延辺朝鮮語は 20 会話も現れている。そのため、日本語は【本用件部】で承諾してもらえなかった数が少ない分【再依頼部】が 91.78%と増えるが、延辺朝鮮語は【本用件部】で承諾をもらった数が多い分【再依頼部】の出現数が日本語より少なく、70.59%現れたものと推測される。

各【部】に現れた話段の種類をみてみよう。両言語で【先行部】には（先行）の 1 種類の話段しか使われていない。（先行）は日本語 45 会話(61.64%)、延辺朝鮮語 39 会話(57.35%)に用いられ、両言語共に全会話の半数以上を占めている。【本用件部】において日本語は、（依頼+依応）がペアとなっているのが 72 会話（98.63%）であるが、延辺朝鮮語は全会話に現れた。【再依頼部】に現れた話段は以下のようなものである。（依頼+依応）は日本語 51 会話(69.86%)、延辺朝鮮語 33 会話（48.53%）、（交渉）は日本語 12（16.44%）、延辺朝鮮語 12（17.65%）、（代案+代応）は日本語 4 会話（5.48%）、延辺朝鮮語 3（4.41%）、（条調）は日本語 3 会話（4.11%）、延辺朝鮮語 2 会話(2.94%)に現れている。（依結+被結）は日本語に 1 会話のみ（1.37%）に現れている。【終結部】には（終了）の 1 種類の話段しか現れておらず、日本語 61 会話(83.56%)、延辺朝鮮語 28 会話（41.18%）の使用となっている。これらのことから明らかのように、（先行）は両言語共半数以上の人が使っていること、および（依頼+依応）は本題の部分で最も主要な話段であることが分かる。【再依頼部】の話段の種類は【本用件部】よりずっと多い点で両言語は似ている。【再依頼部】で（依結+被結）の使用は日本語のみに現れた。（終了）の使用は日本語が延辺朝鮮語の 2 倍以上となっている。5.1 の分析から依頼談話の展開で【本用件部】と【再依頼部】は最も重要な【部】であり、〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉がその基本的な構造を成していることが明らかになった。

5.2 話段の使用について

5.2.1 話段の出現頻度

表 5-3 は、両言語に現れた各〈話段〉別の出現頻度を示したものである。全会話中に現れた話段の総数は日本語が 380、延辺朝鮮語が 294、1 会話あたりの話段数は日本語が 5.21、延辺朝鮮語が 4.32 となっている。両言語では（依頼）と（依応）の話段数(日本語 125 と 123、

延辺朝鮮語各 101)が最も多く、次に(先行)と(終了)の数(日本語 45 と 61、延辺朝鮮語 39 と 28)が多い。それに次いで多いのは(交渉)の数(日本語 12、延辺朝鮮語 14)、(条調)の数(日本語 4、延辺朝鮮語 5)の順となっている。(代案)と(代応)は日本語で各 4、延辺朝鮮語で各 3 会話に使用されている。(依結)と(被結)は日本語のみに現れ、数は僅か 1 会話にすぎない。

表 5-3 両言語の話段の出現頻度

	先行	依頼	依応	交渉	依結	被結	代案	代応	条調	終了	合計
日本語の話段数	45	125	123	12	1	1	4	4	4	61	380
1 会話平均	0.62	1.71	1.68	0.16	0.01	0.01	0.05	0.05	0.05	0.84	5.21
延辺朝鮮語 の話段数	39	101	101	14	—	—	3	3	5	28	294
1 会話平均	0.57	1.49	1.49	0.21	—	—	0.04	0.04	0.07	0.41	4.32

このことから以下のことが言える。まず、(依頼)と(依応)は依頼談話で最も基本的な構造をなしている。(先行)と(終了)も使用数が多い。多くの先行研究でも指摘しているように、この2つの話段は依頼談話の表現をソフトにさせ、相手にかかる負担感を緩和したり軽減したり、相手の気持ちを配慮したりする役割を果たしている。依頼を切り出す時、(先行)なしにいきなり依頼を切り出すと、被依頼者は違和感を持ち、急な印象を受けるので依頼をスムーズに始めることができない。また、依頼が成功した後、すぐ会話を終わらせるのではなく(終了)を設けておくと、よい人間関係を作ることができる。次に(交渉)が多いが、これは「依頼・曖昧・承諾」の展開の談話で重要な話段になっている。その他の話段の出現数は多くはないが、談話が展開する上で一定の役割を果たしている。5.2.2では【先行部】と【終結部】を分析対象から外して【本用件部】と【再依頼部】を取り上げ、話段の組合せを考察することで両言語の依頼談話における構造のパターンを抽出する。

5.2.2 依頼談話の構造パターン

この節では両言語における依頼談話の構造のパターンを考察する。図 5-1 と図 5-2 に日本語の全会話における話段展開のパターンを示す。図 5-1 と図 5-2 を比べてみると、【再依頼部】(8 パターン)が【本用件部】(3 パターン)よりパターンが多く、話段の組合せが複雑になっている。(条調)は被依頼者の承諾が得られたあと、気になる事項や、実行方法などについてやりとりする場合に使用される。したがって、【本用件部】ではパターン 2 をパターン 1 に統合し、【再依頼部】ではパターン 3 をパターン 1 に、またパターン 2 つの図をみると、延辺朝鮮語は日本語ほどパターンが多くないのが分かる。【本用件部】では(依頼+依応) n と(依頼+依応) n+(条調)が主要な展開となっている。【再依頼部】ではパターン 1、2 が【再

図 5-1 日本語の【本用件部】における話段展開

パターン 1: (依頼+依応) n	97.26%	(71)
パターン 2: (依頼+依応) n+(条調)	1.37%	(1)
パターン 3: (依頼)	1.37%	(1)

(nは話段の数を示す、n:1~5まで) (括弧内は当該パターンが表れた会話数を示す)
 (%は当該パターンが現れた数を【本用件部】が現れた会話数で割ったものである。)

図 5-2 日本語の【再依頼部】における話段展開

パターン 1: (依頼+依応) n	71.64%	(48)
パターン 2: (交渉)	16.42%	(11)
パターン 3: (依頼+依応) n+(条調)	2.99%	(2)
パターン 4: (代案)+(代応)	2.99%	(2)
パターン 5: (交渉)+(条調)	1.49%	(1)
パターン 6: (依頼+依応) +(依頼)+(代案)+(代応)	1.49%	(1)
パターン 7: (依頼)+(代案)+(代応)	1.49%	(1)
パターン 8: (依結)+(被結)	1.49%	(1)

(nは話段の数を示す、n:1~5まで) (括弧内は当該パターンが表れた会話数を示す)
 (%は当該パターンが現れた数を【再依頼部】が現れた会話数で割ったものである。)

ン5をパターン2に統合して同じ性質の展開と看做してみた結果、【本用件部】では(依頼+依応)nが主要な展開となっていることが分かった。【再依頼部】でも同じことが言える。

【再依頼部】の話段の展開でパターン1と2が【再依頼部】の主要な展開になる。

図 5-3 と図 5-4 は延辺朝鮮語全会話における話段展開のパターンを示している。

図 5-3 延辺朝鮮語の【本用件部】における話段展開

パターン 1: (依頼+依応) n	97.26%	(65)
パターン 2: (依頼+依応) n+(条調)	1.37%	(3)

(nは話段の数を示す、n:1~5まで) (括弧内は当該パターンが表れた会話数を示す)
 (%は当該パターンが現れた数を【本用件部】が現れた会話数で割ったものである。)

図 5-4 延辺朝鮮語の【再依頼部】における話段展開

パターン 1: (依頼+依応) n	60.42 %	(29)
パターン 2: (交渉)	25.00%	(12)
パターン 3: (代案)+(代応)	6.25%	(3)
パターン 4: (依頼+依応) n+(条調)	4.17%	(2)
パターン 5: (依頼+依応) +(交渉)+(条調)	4.17%	(2)

(nは話段の数を示す、n:1~5まで) (括弧内は当該パターンが表れた会話数を示す)
 (%は当該パターンが現れた数を【再依頼部】が現れた会話数で割ったものである。)

依頼部】の主要な展開になっている。図 5-1～図 5-4 から、日本語のほうが話段の組合せが複雑であると言える。上の議論を踏まえた上で、図 5-5 では【本用件部】と【再依頼部】における話段の展開をパターン化している。日本語はパターン I：76.71% (56)、パターン II は

図 5-5 両言語の依頼談話における話段展開の図式化

	日本語	延辺朝鮮語
パターン I (依頼+依応) n	76.71% (56)	75.00% (51)
パターン II (依頼+依応) n+ (交渉)	15.07% (11)	20.59% (14)
その他	8.22% (6)	4.41% (3)

(nは話段の数を示す、n:1～5まで) (括弧内は%当該パターンが現れた会話数を示す)

(%は当該パターンが現れた数を各言語の全会話数で割ったものである)

15.07%(12)、その他: 8.22% (6) となっている。延辺朝鮮語はパターン I：75.00%(51)、パターン II：20.59%(14)、その他: 4.41% (3) となっている。(依頼+依応) n は両言語において圧倒的に多く、依頼談話における談話構造は〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉に展開されるのが最も一般的になっている。パターン I とパターン II が全会話で占める割合は 9 割余りとなっているため、この 2 つのパターンを考察することで、依頼談話の構造が分かってくるのではないと思われる。

5.3 五章のまとめ

以上のように、本章では日本語と延辺朝鮮語の【部】と話段の組合せから両言語における特徴について述べてきた。この節では、両言語の依頼談話の全体的構造における共通点と相違点を以下のようにまとめる。

(1) 日本語と延辺朝鮮語の談話構造における共通点

両言語で談話展開の流れは 3 種類「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」に分けることができる。依頼談話の展開で【本用件部】と【再依頼部】は最も重要な【部】であり、この 2 つの【部】の中でも〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉が依頼談話の基本的な構造を成している。それに次いで〈交渉の話段〉が「依頼・曖昧・承諾」にはほぼ必ず現れている。そして、【再依頼部】の話段は【本用件部】よりずっと多く、組合せも複雑である。全会話で占める割合が 9 割以上である依頼談話の構造パターンは パターン I : (依頼+依応) n、パターン II : (依頼+依応) n+ (交渉) である点で日本語と延辺朝鮮語は共通している。

(2) 日本語と延辺朝鮮語の談話構造における相違点

「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の出現数から分かるように日本語は初依頼で承諾する 경우가少なく、曖昧か拒絶で反応する 경우가多いが、延辺朝鮮語はど

ちらの展開でもほぼ同数となっている。日本語は延辺朝鮮語より話段の総数が多く、組合せも複雑である。日本語は〈交渉の話段〉以外の全ての話段の使用頻度において数が延辺朝鮮語より多い。(依頼+依応)の組合せで、日本語は総数、【本用件部】での数、【再依頼部】での数が何れも延辺朝鮮語より多い。そして、【再依頼部】で日本語には延辺朝鮮語に現れていない〈条件調整の話段〉〈依頼者の結論の話段〉〈被依頼者の結論の話段〉が現れている。

五章の論述を踏まえたうえで、第六章と第七章では出現頻度が最も高く、依頼談話展開において基本的な構造を成している **パターンⅠ：(依頼+依応)_n** と **パターンⅡ：(依頼+依応)_n+ (交渉)** を重点的に取り上げ、この2つのパターンにおける〈依頼の話段〉〈依頼応答の話段〉〈交渉の話段〉に関して総合的に捉えることにする。

第六章 ストラテジーレベルからみた【本用件部】の談話構造

6.0 はじめに

第六章では、**パターンⅠ：(依頼+依応)_n**と**パターンⅡ：(依頼+依応)_n+ (交渉)**が現れた会話を取り上げ、【本用件部】に該当する談話構造をストラテジーレベルから総合的に捉える。第六章では「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の3つの展開が【本用件部】に該当する部分をそれぞれ「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」と呼んで分析することにする。6.1では、日本語と延辺朝鮮語においてパターンⅠとパターンⅡが含まれる全データを提示し、これからの分析に備える。6.2では、「依頼・承諾」の展開、6.3では、「依頼・曖昧」の展開、6.4では、「依頼・拒絶」の展開を考察する。

6.1 パターンⅠとパターンⅡを含むデータ

表 6-1 と表 6-2 は日本語と延辺朝鮮語のパターンⅠとパターンⅡを含む全データを被依頼者の初めての反応と態度によって3種類に分けて示したものである。2つのパターンの合計会話数は日本語 67 会話、延辺朝鮮語 67 会話の計 134 会話である。

表 6-1 日本語におけるパターンⅠとパターンⅡのデータ

会話番号	【先行部】	【本用件部】	【再依頼部】	【終結部】
「依頼・承諾」の展開 (6 会話)				
十六		(依頼+依応) 1		(終了)
十九	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
二十二		(依頼+依応) 1		(終了)
二十六		(依頼+依応) 1		(終了)
五十	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
六十七		(依頼+依応) 1		(終了)
七十二	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		(終了)
「依頼・曖昧」の展開 (29 会話)				
二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	(終了)
八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	

九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十二		(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
十四		(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
二十二		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
二十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
二十九		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
三十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)+(条調)	
三十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
四十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
四十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	(終了)
四十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五十九		(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十二		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
六十四		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
六十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
七十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
「依頼・拒絶」の展開 (32 会話)				
一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 4	
十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
十八		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
二十	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
二十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
二十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)

二十四		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
二十七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
三十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十六		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
三十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十二		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
五十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
五十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
五十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
五十六		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
六十六		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
六十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
七十	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
七十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)

表 6-2 延辺朝鮮語におけるパターンⅠとパターンⅡのデータ

会話番号	【先行部】	【本用件部】	【再依頼部】	【終結部】
「依頼・承諾」の展開 (20 会話)				
一		(依頼+依応) 1		(終了)
九		(依頼+依応) 1		(終了)
十二		(依頼+依応) 1		
十四		(依頼+依応) 1		
十五		(依頼+依応) 1		(終了)
十六		(依頼+依応) 1		

十八		(依頼+依応) 1		
二十一	(先行)	(依頼+依応) 1		
二十四		(依頼+依応) 1		
二十六	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		
三十二		(依頼+依応) 1		
四十八	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		(終了)
五十一	(先行)	(依頼+依応) 1		
五十二		(依頼+依応) 1		
五十三		(依頼+依応) 1		(終了)
五十五	(先行)	(依頼+依応) 1+(条調)		(終了)
五十九	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
六十四	(先行)	(依頼+依応) 1		
六十六		(依頼+依応) 1		
六十七	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
「依頼・曖昧」の展開 (20 会話)				
三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(交渉)	
四		(依頼+依応) 1	(交渉)	
五		(依頼+依応) 1	(交渉)	
六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	
十一		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
三十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	
三十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	
三十三		(依頼+依応) 1	(交渉)	
四十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
五十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
六十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十一	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)

六十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
六十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	
「依頼・拒絶」の展開 (27 会話)				
二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十三		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
十九		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	
二十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	
二十五		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
二十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
二十八	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
二十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
三十四		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
三十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
三十七	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
三十八	(先行)	(依頼+依応) 1		(終了)
三十九	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
四十		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
四十一		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十二	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(交渉)	
四十四	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	
四十五	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 2	(終了)
四十六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 3	(終了)
五十	(先行)	(依頼+依応) 1	(交渉)	(終了)
五十六	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)
五十七		(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1+(条調)	(終了)
五十八		(依頼+依応) 1	(交渉)	
六十三	(先行)	(依頼+依応) 1	(依頼+依応) 1	(終了)

6.1 以降の分析は表 6-1 と表 6-2 に示した談話展開のデータに基づいて、主に【本用部】と【再依頼部】を分析し、【先行部】と【終結部】は分析対象から外す。「依頼・承諾」の展開には〈交渉の話段〉が現れないため、〈依頼の話段〉〈依頼応答の話段〉を取り上げ、3つ

の依頼談話展開におけるストラテジーを総合的に捉える。

6.2 「依頼・承諾」の展開の場合

「依頼・承諾」の展開とは、初依頼で依頼者の依頼に対して被依頼者が積極的な態度を取ってその後断られることなく、依頼が成功する展開を指す。この展開は【本用件部】で依頼が成功するため【再依頼部】が存在しない。この類の展開は日本語に6会話、延辺朝鮮語に20会話見られた。

6.2.1 ストラテジーの出現頻度

表6-3は両言語の「依頼・承諾」の【本用件部】の〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉におけるストラテジーの出現頻度を示している。

表 6-3 「依頼・承諾」における両言語のストラテジーの出現頻度

日本語の依頼者のストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	7	18	1	1	1	—	28
1会話平均	1.17	3.00	0.17	0.17	0.17	—	4.67
日本語の被依頼者のストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	7	14	—	2			23
1会話平均	1.17	2.33	—	0.33			3.83
延辺朝鮮語の依頼者のストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	19	28	1	7	—	4	59
1会話平均	0.95	1.40	0.05	0.35	—	0.20	2.95
延辺朝鮮語の被依頼者のストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	28	6	1	1			36
1会話平均	1.40	0.30	0.05	0.05			1.80

まず、全会話中に使用されたストラテジーの総数は日本語が51（1会話あたり8.50）である。そのうち、依頼者が28（1会話あたり4.67）、被依頼者が23（1会話あたり3.83）となっている。延辺朝鮮語は総数が95（1会話あたり4.75）だが、そのうち依頼者が59（1会話あたり2.95）、被依頼者が36（1会話あたり1.80）となっている。

次に、個々のストラテジーを考察する。日本語はA1、A2、A3、B2、B4の1会話平均が延辺朝鮮語より多い。A4とB1は延辺朝鮮語のほうが日本語より1会話平均が多い。日本語には延辺朝鮮語より{A2:論理型（日本語3.00、延辺朝鮮語1.40）}と{B2:中立型（日本語2.33、延辺朝鮮語0.30）}の数が多く、「A2-B2」が隣接応答ペアとなって多用されている。特にB2

の使用数は日本語が延辺朝鮮語の7倍以上もある。しかし、実際にこのようなやりとりが日本語で実質的な内容として使用されているのだろうかといえそうでもない。例6-1に挙げた会話例のように、日本語で依頼者が1ターンに発話される内容量が少なく、しばしば被依頼者の「相槌・継続・共感」によって発話が中断される傾向が著しい。この例には9つのターンがあるが、5つが依頼者の発話で4つが被依頼者の「うん」という相槌的で非実質的なもの内容になっている。それに比べて、延辺朝鮮語では依頼者が1ターンで発する内容が日本語より長く、「うん」という非実質的なものを頻繁に挟む現象は現れていない。

例6-1 日本語会話十九：〔依頼者＝J15（22歳、女性）被依頼者＝J16（22歳、女性）〕
（中略）

5AJ15: ちょっと生活費がさあ//、足りなくて、

6BJ16: うん。

7AJ15: お母さんが後2日、3日したらさあ//、仕送ってくれるって言うんだけどー、

8BJ16: うん。

9AJ15: ちょっと後2、3日間さあ、

10BJ16: うん、うん。

11AJ15: 足りなくてさあ、1万円ぐらい借りたいんだけどさあ、

12BJ16: うん、うん。

13AJ15: ちょっと貸せないかな。

また、どちらか1つの言語のみに現れたストラテジーがあった。{A5:対人的配慮型}が日本語に1現れ、{B3:消極型}と{A6:圧力型}は延辺朝鮮語にそれぞれ1と4現れた。【本用件部】の「依頼・承諾」の展開にはB3が現れないのが一般的だが、延辺朝鮮語に1回のみ使用が見られた。それを例6-2に示す。

例6-2:야-? 이것두 모르니? 그래 내 알켜줄게.

おい、これも知らないのか? じゃ、俺が教えてあげる。(会話十四:2BK19)

例6-2のように、依頼を受け入れるのに批判の内容を同時に用いるのは、ただ、「誰かが物事を頼んできた＝私はできる人」と思っているため、上目線になって物を言うただけであって、この類のストラテジーは親しい友達と話を交わす場合、人間関係や依頼の受け入れには影響がない。A6は延辺朝鮮語の特徴的なストラテジーである。A6は【本用件部】の始まりで3回使用され、被依頼者が「承諾に有利な情報を含む発話」をした後、また1回使用されている。例6-3と例6-4にA6の例を挙げる。

例 6-3: 아-? 요새 생활비 모자라는데, 니 300 원 빌려줄수 있나?

あ-? 最近生活費が足りないんだけど、あなた 300 元貸してもらえない? (会話十八: 1AK22)

例 6-3 の依頼者が依頼をする場面で用いる「아-? あ-?」に注目されたい。この類の延辺朝鮮語特有の感嘆詞は音節を長く延ばし、尻上がりイントネーションで発音して、他人や依頼内容に対する「苛立つ、焦る、腹が立つ、憎む、怨む、ムカツとする等」のマイナスな気持ちを表すのに便利なものである。これから本稿でも沢山出てくるが、この類のストラテジーには大きな効果がある。「これから言う依頼は依頼者をととても困らせる内容であって依頼者は今最悪な気持ちである」ことをアピールすることによって、困っている程度が高いことを効果的に伝え、被依頼者にすぐ状況を理解してもらおう効果がある。

この類の圧力型を被依頼者本人に向かって使用すると「被依頼者に対する不満、批判」「承諾強要」「断るのは人間関係を破壊するまじいことを招く恐れがあることを警告する」という意味になる。このような圧力下で被依頼者は人間関係を壊さないために仕方なく依頼を受け入れるよう、依頼者に仕向けられるのである。押し付け度合いが高いので、「同輩といっても非常に親しい関係に限って」使用されるものである。例 6-4 を参照されたい。例 6-4 で使用された {A6: 圧力型} は「씨, 니까 내 논거 하루 이틀이니? 何を、私とあなたの付き合いじゃないか?」と被依頼者に当てているので、被依頼者は依頼者に依頼を承諾するように仕向けられている。以上、【本用件部】におけるストラテジーの出現頻度をみた。次節ではまず、6.2.2 で【本用件部】の始まりに使用されたストラテジーをみる。

例 6-4 씨, 니까 내 논거 하루 이틀이니? 그럼 내 언제 돌려줄가?

何を、私とあなたの付き合いじゃないか? じゃ、いつ返したらいい?

(延辺朝鮮語会話二十六: 6AK22)

6.2.2 「依頼・承諾」の始まり

【本用件部】の始まりとは、依頼者が【本用件部】の最初のターンで発話されたストラテジーを指す。日本語と延辺朝鮮語の【本用件部】の始まりで使われたストラテジーを示すと表 6-4 のとおりである。

【本用件部】の始まりに使用されたストラテジーは日本語に 2 種類、延辺朝鮮語に 9 種類見られた。【本用件部】の始まりで使われた個々のストラテジーの使用数をみると、日本語は 6 会話中、{A2: 論理型} が 6 と最も多く、{A1: 主張型} が 1 あって 2 番目に多い。延辺朝鮮語は {A1: 主張型} と {A2: 論理型} が各 17、{A4: 負担感関連型} が 3、{A6: 圧力型} が 2、{A3: 正当型} が 1 会話に見られた。両言語とも {A1 「1」: 主張型「直接依頼」} と {A2 「3」: 論理型「情

報提供}を主に使用している点で共通している。単独ストラテジーの型をみると、日本語は{A2「3」:論理型「情報提供」}が4会話に見られた。延辺朝鮮語は単独ストラテジーの{A2「3」:論理型「情報提供」}が1会話、{A1「1」:主張型「直接依頼」}のが2会

表 6-4 「依頼・承諾」の始まりにおけるストラテジー

種類	ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー	日本語会話数	発話機能タイプのストラテジー	延辺朝鮮語の会話数
1	A2	3	4	3	1
2	A1			1 2	2 1
3	A2A1	3、1	2	3、1	9
4	A6A2			12、3	1
5	A2A4			3、7	1
6	A2A4A1			3、7、1	1
7	A2A1A4			3、1、7	1
8	A3A2A1			6、3、1	1
9	A6A2A1			12、3、1	2

話、{A1「2」:主張型「間接依頼」}が1会話見られた。初依頼で両言語とも積極的に自分が置かれている状況に関する情報を提供したり依頼の意を直接的に伝えたりして依頼を本格的に始めている。複数ストラテジーの使用において、日本語は{A2A1}のみ使っているが、延辺朝鮮語は{A2A1}が9会話に見られ最も多く、それ以外に{A6A2}{A2A4}{A2A4A1}{A2A1A4}{A3A2A1}{A6A2A1}の複数ストラテジーも使用している。延辺朝鮮語では日本語に現れていない{A4:負担感関連型}が3、{A6:圧力型}が2、{A3:正当型}を1使用している。具体的にはA4の「7:負担感の軽減」が3、A6の「12:加圧」が2、A3の「6:称賛」が1使われている。日本人依頼者は【本用件部】で被依頼者の打つ「相槌」等によって頻繁に話者交替をするため、始まりで使うストラテジーが単調で内容量も少ないが、延辺朝鮮語は【本用件部】の始まりで伝えたい情報を一方的に一気に話し、被依頼者に話を切られることなく1ターンで話す内容量も多い。これが延辺朝鮮語の始まり方の多様性をもたらした原因であろう。続けて、6.2.3では【本用件部】における依頼者ストラテジーと被依頼者ストラテジーの相互作用によって応答ペアとしての「依頼」と「承諾」が如何に形成されていくか、談話展開のパターンは如何なる種類があるかについて具体的に考察する。

6.2.3 ストラテジーのパターン

「依頼」と「承諾」は応答ペアを形成する。しかし、この2つの応答ペアは必ず隣接して

いるとは限らず、挿入発話において応答を保留することもある。「依頼・承諾」の展開には3つのパターンがある。一つは、隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」の展開、2つは、「応答を保留する挿入発話連鎖」を含む展開、3つは、その他の展開である。6.2.3では「依頼・承諾」の展開で見られた3つの談話展開の流れを具体的に考察する。

6.2.3.1 隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」

「依頼」と「承諾」が隣接応答ペアで現れた会話は日本語に2会話、延辺朝鮮語に13会話に見られた。「依頼」に使用されたストラテジーを表6-5に示しておく。

表 6-5 「依頼・承諾」：隣接応答ペアの「依頼-承諾」の「依頼」の仕方

会話番号	ストラテジーの型	日本語の発話機能タイプのストラテジー	会話番号	ストラテジーの型	延辺朝鮮語の発話機能タイプのストラテジー
十六	A2A1	3, 1	九	A2A4A1	3, 7, 1
二十六	A2A1	3, 1	十二	A2A1A4	3, 1, 7
			十四	A3A2A1	6, 3, 1
			十五	A2A1	3, 1
			十六	A2A1	3, 1
			十八	A6A2A1	12, 3, 1
			二十四	A2A1	3, 1
			四十八	A2A1	3, 1
			五十一	A2A1	3, 1
			五十二	A2A1	3, 1
			五十五	A1	1
			六十四	A2A1	3, 1
			六十六	A2A4	3, 7

日本語に使用されたストラテジーの型の組合せは{A2A1：論理型、主張型}の1種類で発話機能タイプのストラテジーは「3：情報提供」と「1：直接依頼」しか使用されていない。延辺朝鮮語に使用されたストラテジーの型の組合せは7種類で、日本語と同じく{A2A1}が最も多いが、日本語に見られないストラテジーもある。単独ストラテジーの使用にはA1があり、複数ストラテジーの使用には{A2A4A1} {A2A1A4} {A3A2A1} {A6A2A1}がある。{A4「7」：負担感関連型「負担感の軽減」}が3、{A3「6」：正当型「称賛」}が1、{A6「12」：圧力型「加圧」}が1あり、日本語に見られていない。以下例5～例7に、「依頼・承諾」の展開における隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」の会話例を挙げる。

例 6-5 日本語会話十六：〔依頼者＝J13（22 歳、男性） 被依頼者＝J14（22 歳、男性）〕

1AJ13: 実家なあ、仕送りが 2. 3 日遅れそうやんか。2. 3 ぐらいさあ、ちょっと 1 万円貸してほしいんだけどー、

2BJ14: 1 万円かー。うん、うん、まあー、ええよ。

例 6-6 日本語会話二十六：〔依頼者＝J21（22 歳、男性） 被依頼者＝J20（23 歳、男性）〕

1AJ21: 生活費だめになるんだけど、1 万円貸して。

2BJ20: あ、いいよ。じゃ、まあ、返せる日に返してや。

例 6-5 と例 6-6 で、依頼者は {A2A1} の複数ストラテジーを使用している。2 つの例で A2 には「情報提供」、A1 には「直接依頼」が使用されている。例 6-5 で被依頼者は最後に「1 万円かー。うん、うん、まあー、ええよ。」と依頼者の依頼に対して承諾している。例 6-6 で被依頼者は依頼者の依頼に対して「あ、いいよ。じゃ、まあ、返せる日に返してや。」と「承諾」の後「対人的配慮の発話」をし、返却日を心配しなくてもいいと言っている。例 6-7 は延辺朝鮮語の例である。

例 6-7 延辺朝鮮語会話九：〔依頼者＝K11（22 歳、男性） 被依頼者＝K12（22 歳、男性）〕

1AK11: 내 요 며칠 좀 돈이 바쁘다. 그래 한 내 2.3 일 후에 좀 돌려줄수 있을거 같은데, 니 날 한 좀 돈이 되면 300 원쯤 빌려줄수 있니?

私ここ数日ちょっと金欠になったのよ。それで大体 2、3 週後に返せるんだけど、君ちょっとお金大丈夫だったら 300 元ぐらい貸してくれる?

2BK12: 그래 좀 기다려라. 나래 은행가서 찾아서 그래주마.

じゃちょっと待ってて。後で銀行に行って下ろしてあげるから。

例 6-7 をみると、延辺朝鮮語は 1 ターンでつまり 1AK11 で 3 つのストラテジー「3, 7, 1: 情報提供、負担感の軽減、直接依頼」を使用している。{A2: 「3」: 論理型「情報提供」} の「내 요 며칠 좀 돈이 바쁘다. 私ここ数日ちょっと金欠になったのよ。」、{A4 「7」: 負担感関連型「負担感の軽減」} の「그래 한 내 2.3 일 후에 좀 돌려줄수 있을거 같은데、それで大体 2、3 週後に返せるんだけど、」、{A1 「1」: 主張型「直接依頼」} の「니 날 한 좀 돈이 되면 300 원쯤 빌려줄수 있니? 君ちょっとお金大丈夫だったら 300 元ぐらい貸してくれる?」の複数ストラテジーを併用している。

6. 2. 3. 2 「応答を保留する挿入発話」を含む展開

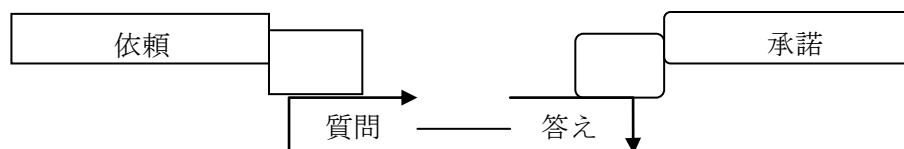
「依頼」と「承諾」の応答ペアが隣接していないこの類の依頼談話は延辺朝鮮語に5会話現れ、日本語には現れなかった。この展開で依頼者の依頼はすぐ承諾が得られず、様々な内容が挿入されてから、最終的に依頼が成功する。挿入される発話を以下に示しておく。会話一と会話三十二と会話六十七では「質問と答えの挿入発話連鎖」、会話二十一では「負担感の軽減」、会話五十三と会話五十九では「質問と答えの挿入発話連鎖」が「依頼」と「承諾」の間に挿入される。挿入される「質問」と「答え」の応答ペアの第一の発話は被依頼者側から発話されている。「質問」と「答え」の挿入発話連鎖を含む例を例6-8に示す。

例6-8 延辺朝鮮語会話一：〔依頼者=K2（22歳、女性） 被依頼者=K1（22歳、女性）〕

- 1AK2: 영일루 론문 쓰겠는데, 이 십페이지 좀 번역해달라.
英語で論文を書くんだけど、この10頁をちょっと訳してくれ。(依頼)
- 2BK1: 어느거야? *どれ?(質問)*
- 3AK2: 이거 여기 십페이지. *これここの10頁。(応答)*
- 4BK1: 응, 알았다. 그래무. *うん、分かった。じゃ。(承諾)*

例6-8を図式化すると図6-1のようになる。「質問」と「応答」のようにペアになるものは実線で示し、矢印は談話が展開していく方向を意味する。この例で1AK2の依頼に対して2BK1はすぐ承諾せず「어느거야? どれ?」と質問をする。被依頼者の質問を受けた依頼者は3AK2で「이거 여기 십페이지. これここの10頁。」と答え、最後に依頼が成功する。

図6-1 「依頼・承諾」の展開：延辺朝鮮語の「質問-応答」の挿入



6.2.3.3 情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」

情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」の展開は日本語に4会話、延辺朝鮮語に1会話現れた。表6-6を参照されたい。この表の読み方は、例えば、「A2-B2」(3)→」の「」の中のA2とB2はペアとなっていることを意味し、()内は当該ペアの出現数を、矢印は依頼談話が次に進むことを意味する。そして、「3-6」(3)は「」の中の左側の3は依頼者の発話機能タイプのストラテジーを、右側の6は被依頼者の発話機能タイプのストラテジーを示す。依頼者と区別するために被依頼者ストラテジーは□で数字の周りを囲む。

日本語では情報のやりとりをする時、主に「A2-B2」が現れることが多く、4つの会話に11回も現れている。ほかに「A2A3-B2」もあるが、日本語会話七十二の{A2A3: 論理型、正当型}

表 6-6 情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」の談話展開

会話 番号	日本語の談話展開	会話 番号	延辺朝鮮語の談話展開
十九	「A2-B2」(3)→「A2A1-B1」 「3-6」(3)→「3, 1-1」	三十二	「A6A2-B2」→「A2A1A4-B1」 「12, 3-6」→「3, 1, 7-1」
五十	「A2-B2」(4)→「A1-B2B1」 「3-6」(2)、「3-7」(2)→「1-4, 2」		
六十七	「A2-B2」(2)→「A2A5A1-B1」 「3-6」, 「3-5」→「3, 9, 1-1」		
七十二	「A2-B2」→「A2A3-B2」→「A2-B2」→ 「A4A1-B1」 「3-6」→「3, 6-6」→「3-6」→「7, 1-1」		

は「情報提供」と「称赞」の「5AJ59: まじほんとに仕方なくて、どうしようどうしようって
いう感じなんだけど、J60 英語得意//だから、」という内容となっている。延辺朝鮮語の会
話三十二では「A6A2-B2」のペアで情報のやりとりを行っている。仕送りをしてくれない母に
対する消極的な気持ちを表す A6 と情報提供の A2 を同時に使用している。

依頼の仕方としては日本語はどちらの会話でも A1 の直接依頼を使用している。単独ストラ
テジーとしては A1 があり、複数ストラテジーには {A2A1} {A2A5A1} {A4A1} がある。この節
では依頼時に {A5: 对人的配慮型} と {A4: 負担感の軽減型} が現れた。談話が進むにつれ、日本
語でも多様な依頼の仕方が増えるようになっている。延辺朝鮮語では {A2A1A4} の「情報提
供」「直接依頼」「負担感の軽減」の複数ストラテジーで依頼をしている。情報のやり取り+
隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」の展開は例 6-9 と例 6-10 に挙げる。

例 6-9 日本語会話十九: [依頼者=J15 (22 歳、女性) 被依頼者=J16 (22 歳、女性)]
(中略)

5 AJ15: ちょっと生活費がさあ//、足りなくて、

6 BJ16: うん。

7 AJ15: お母さんが後 2 日、3 日したらさあ//、仕送ってくれるって言うんだけどー、

8 BJ16: うん。

9 AJ15: ちょっと後 2. 3 日間さあ、

10 BJ16: うん、うん。

11 AJ15: 足りなくてさあ、1 万円ぐらい借りたいけどさあ、

12 BJ16: うん、うん。

13 AJ15: ちょっと貸せないかな。

14 BJ16: ああ、いいよ。いいよ。全然。

依頼者は5 AJ15、7 AJ15、11 AJ15で「ちょっと生活費がさあ//、足りなくて、」「お母さんが後2日、3日したらさあ//、仕送ってくれるって言うんだけどー、」「ちょっと後2.3日間さあ、」と言って{A2「3」:論理型「情報提供」}を使用し、被依頼者はこの3つの発話に対して「6 BJ16: うん。」、「8 BJ16: うん。」、「10 BJ16: うん。うん。」と{B2「6」:中立型「相槌・継続・共感」}を使用している。依頼者は情報を1ターンで一気に伝えるのではなく、被依頼者とやり取りをしつつ2人で築き上げている。延辺朝鮮語にもこれに似た展開があるあるものの、他の型も同時に見られる。例6-10のようである。1AK29「아-? 우리 엄마 요즘에 어제 생활비 제대루 안 부친단말이다。あー?お母さん最近なぜからなのか生活費をちゃんと送ってくれないんだよね。」と2BK30「응。うん。」は日本語と同じで「A2-B2」の応答ペアとなっているが、3AK29となると依頼者の{A2:論理型}の「한 2.3 일 늦어질것같다。大体2,3日遅れそうだけど。」だけでなく、{A1:主張型}の「300 원만 먼저 빌려달라응? 300元だけ先に貸してくれる?」と{A4:負担感関連型}の「생활비 오면 인차 줄게。生活費来たらすぐ返すから。」も使っている。

例6-10 延辺朝鮮語会話三十二:〔依頼者=K29(23歳女性) 被依頼者=K30(22歳女性)〕

1AK29: 아-? 우리 엄마 요즘에 어제 생활비 제대루 안 부친단말이다。

あー?お母さん最近なぜからなのか生活費をちゃんと送ってくれないんだよね。

2BK30: 응。

うん。

3AK29: 한 2.3 일 늦어질것같다。300 원만 먼저 빌려달라응? 생활비 오면 인차 줄게。

体2,3日遅れそうだけど。300元だけ先に貸してくれる?生活費来たらすぐ返すから。

4BK30: 응。

うん。

6.2.3.4 依頼のストラテジーが現れない展開

依頼のストラテジーが現れない展開は延辺朝鮮語に1会話現れた。例6-11は延辺朝鮮語のみに現れた会話例である。

例6-11 延辺朝鮮語会話二十六:〔依頼者=K21(20歳女性) 被依頼者=K24(19歳女性)〕

(中略)

2AK22: 내 생활비 모자란단말이다。그런데 응 돈이 필요한데, 액수 쪼끔 많단말이다。

私ね、生活費足りないんだけど。しかし、ええと、お金が必要でね、額がちょっと多いんだけど。

3BK24: 얼마?

いくら?

4AK22: 두장。

2枚。

5BK24: 리자 불허달라응?

利子つけてね?

6AK22: 씨, 니까 내 논거 하루 이틀이니? 그럼 내 언제 돌려줄까?

何を、私とあなたの付き合いじゃないか?じゃ、いつ返したらいい?

7BK24: 아무때나.

いつでもいいよ.

依頼者の依頼の発話が会話に現れなくても情報を提供したりして「間接依頼」をすることで被依頼者には依頼者の意図が伝わるので、被依頼者は依頼を受けた場合と同じ反応をしている。そうして依頼談話は前に進んでいく。2AK22で依頼者が「내 응 생활비 모자란 단말이다. 그런데 응 돈이 필요한데, 액수 쪼끔 많단말이다. 私ね、生活費足りないんだけど。しかし、ええと、お金が必要でね、額がちよっと多いんだけど。」と言って情報を提供すると、被依頼者は相手の依頼の意を察し取って、「얼마?いくら?」と新情報を要求する。依頼者が「4AK22: 두장. 2枚。」と教えると、被依頼者は「리자 불허달라응? 利子つけてね?」と冗談交じりに積極的な態度を見せる。それを聞いた依頼者は「6AK22: 씨, 니까 내 논거 하루 이틀이니?何を、私とあなたの付き合いじゃないか?」と{A5:圧力型}で相手を水くさいと批判しながらも、返金の期日に関する情報を要求する。最後に被依頼者は返金はいつでもいいと依頼を受け入れる。

6.2.4 「依頼・承諾」の終わり

この節では、【本用件部】の「依頼・承諾」の展開の終わりでどのようなストラテジーが使われているかについて簡単にみてみよう。日本語は延辺朝鮮語より「積極的受諾型」が多い。日本語は{B1「1」:積極型「承諾」}が6会話のうち、何れの会話にも見られた。会話十六、会話十九、会話五十、会話六十、会話七十二は{B1「1」}の単独ストラテジーを用いているが、会話二十六では「2BJ20:あ、いいよ。じゃ、まあ、返せる日に返してや。」と言って{B1「1」:積極型「承諾」}と{B4「12」:对人的配慮型「对人的配慮の発話」}の複数ストラテジーを用いている。

延辺朝鮮語は19会話中、17会話が{B1「1」:積極型「承諾」}の単独ストラテジーを使用している。そして、複数ストラテジーも2会話に使用されたが、相手に対する「非難」が組み合わされている。会話十四の{B3B1:消極型、積極型}と会話十八の{B2B1:中立型、積極型}である。会話十四では「2BK19:야-? 이것두 모르니? 그래 내 알려줄게.おい、これも知らないのか?じゃ、俺が教えてあげる。」という「非難」と「承諾」が使用され、会話十八では「2BK21:300 원? 그렇게 돈이 없구 100 원정도밖에 빌려줄수는 없다. 300元?それほどお金はない、100元程度しか貸してあげられない。」という「相手の発話を復唱」と「承諾に有利な情報を含む発話」の複数ストラテジーが使用されている。

6.2.5 日本語と延辺朝鮮語の比較

以上、【本用件部】における「依頼・承諾」の依頼談話展開の談話の構造について分析した。6.2を次のようにまとめておく。まず、日本語は「依頼・承諾」の展開の数が少ない。本研究では扱わないが、調査で負担度が低い場合、殆どの被依頼者がすぐ依頼を受け入れていたが、負担度が大きくなると【本用件部】で承諾が得られるケースは顕著に減っている。延辺朝鮮語は負担度にあまり影響を受けないようである。

ストラテジーの出現頻度については、総数は日本語のほうが多い。依頼者の各ストラテジーの1会話使用数は日本語のほうが多く、どちらかの言語のみに現れたストラテジーにおいて日本語は「配慮発話」、延辺朝鮮語は「加圧」があった。日本語では1ターンに話される内容が短く、被依頼者の非実質的な内容の発話に頻繁に中断されて、ストラテジーの1会話平均使用数が延辺朝鮮語より多い。そして、日本語で依頼者は被依頼者とやり取りをしながらゆっくり情報提供を行ってから徐々に依頼を切り出すのに対して、延辺朝鮮語は被依頼者に妨げられることなく、1ターンで伝えたい内容を一気に伝えている。

始まりのストラテジーの使用で、両言語は主に{論理型}と{主張型}を用いている点で似ている。日本語は単独ストラテジーのA2の「情報提供」を使用して始まるのが最も多い。延辺朝鮮語はA2とA1の単独ストラテジーが現れたが数が少ない。両言語は複数ストラテジーの使用で差異が見られた。日本語にはA2A1の複数ストラテジーしか使用されておらず、数も少ない。それに対して、A2A1は延辺朝鮮語で最も数の多い使用になっている。そして、延辺朝鮮語には日本語に現れなかったストラテジーのA6、A4、A3をA2かA1と組合せて多種多様に使用している。日本語で依頼者は被依頼者の気持ちに配慮しながら最初のターンで依頼成功を急がないが、延辺朝鮮語は始まりの発話から依頼成功を図って、様々なストラテジーを何でも使用しようとする傾向がある。延辺朝鮮語の特徴として「依頼・承諾」の展開であるにも関わらず、A6のような相手に圧力をかける消極的なストラテジーが現れたことが挙げられる。延辺朝鮮語では同輩といっても非常に親しい関係に限ってこの類のストラテジーを用い、人間関係は阻害しない。むしろ親しい関係の証と考えられる。

依頼談話展開のパターンは4つ見られた。1つは隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」、2つは「応答を保留する挿入発話」を含む展開、3つは情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」、4つは依頼のストラテジーが現れない展開である。そのうち、2つ目と4つ目は延辺朝鮮語のみに現れたものである。日本語は情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」が主要な展開となっており、延辺朝鮮語は隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」が主要な展開となっている。日本語は情報のやり取りをする時、「A2-B2」のペアがよく使われる。つまり、日本語では依頼者が依頼をして被依頼者が相槌を打つやり取りをするのが多い。依頼の仕方は両言語で少し異なっている。日本語は【本用件部】の始まりで依頼を切り出す時、「情報提供」を単独に使用するか「情報提供」と「依頼」の複数ストラテジーを使用していたが、談話中では「对人的配慮」や「負担感の軽減」のストラテジ

一を「依頼」と組合せて使用するようになる。延辺朝鮮語は日本語と違って【本用件部】の始まりと談話中で依頼をする時、あまり区別がなく「对人的配慮」や「負担感の軽減」をどの位置でも使用している。そして、日本語に使用が見られない「加圧」のストラテジーを「依頼」と同時に使用している。

【本用件部】の終わりで単独ストラテジーでは日本語のほうが積極型をよく使っていて頻度的には日本語のほうが数が多い。両言語とも一般的に「承諾」の単独ストラテジーが多く使用されている。複数ストラテジー使用においては、日本語は相手に配慮を示す内容を「承諾」と同時に使用しているが、延辺朝鮮語は「承諾」を消極型や中立型と併用する。

6.3 「依頼・曖昧」の展開の場合

「依頼・曖昧」の展開とは、初依頼で依頼者の依頼に対して被依頼者が承諾でもなく拒絶でもない「曖昧」な態度を取った展開を指す。ここで言う「曖昧」な態度には消極的な拒否と同様の可能性もあるが、「依頼・拒絶」の展開の場合と比べてみると次に続く会話者間のやりとりにはあまり影響がなかったため、細分せず、「曖昧」という用語を使うことにする。この展開は日本語に 29 会話、延辺朝鮮語に 20 会話見られた。

6.3.1 ストラテジーの出現頻度

まず「依頼・曖昧」の展開の依頼談話におけるストラテジーの総数を両言語で比較し、全体的な傾向を捉える。表 6-7 は両言語の「依頼・曖昧」の〈依頼の話段〉と〈依頼応答の話段〉におけるストラテジーの出現頻度を示している。

表 6-7 「依頼・曖昧」における両言語のストラテジーの出現頻度

日本語の依頼者ストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	26	97	6	3	4	—	136
1 会話平均	0.90	3.34	0.21	0.10	0.14	—	4.69
日本語の被依頼者ストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	—	120	—	5			125
1 会話平均	—	4.14	—	0.17			4.31
延辺朝鮮語の依頼者ストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	18	20	2	2	—	4	46
1 会話平均	0.86	0.95	0.10	0.10	—	0.19	2.19
延辺朝鮮語の被依頼者ストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	—	28	—	—			28
1 会話平均	—	1.33	—	—			1.33

まず、全会話中に使用されたストラテジーの総数においては日本語は 261（1 会話あたり 9.00）で、そのうち依頼者が 136（1 会話あたり 4.69）、被依頼者が 125（1 会話あたり 4.31）となっている。延辺朝鮮語は総数が 74（1 会話あたり 3.52）であるが、そのうち依頼者が 46（1 会話あたり 2.19）、被依頼者が 28（1 会話あたり 1.33）となっている。【本用件部】の「依頼・曖昧」の展開で日本語は平均 1 会話で延辺朝鮮語の 2 倍以上使っている。

次に、個々のストラテジーの 1 会話平均数を見る。A4 に関しては両言語は同数であるが、A1、A2、A3、B2 は何れの項目も日本語のほうが延辺朝鮮語より多い。A1 は両言語で差が大きい、{A2：論理型}と{B2：中立型}の日本語の使用は延辺朝鮮語の 3 倍以上となっている。6.2.1 でも言及したように、日本語には〈依頼の話段〉で「A2-B2」のペアが多用されるが、依頼者の情報提供に対して被依頼者が相槌的な応答を多くしたのが原因となる。両言語には 1 つの言語のみに現れたストラテジーがあった。{B4：対人的配慮型}は日本語のみに、{A6：圧力型}は延辺朝鮮語のみに現れた。A6 では延辺朝鮮語特有の感嘆詞の「아. あ」が 5 回使用されている。以上、ストラテジーの出現頻度をみた。

6.3.2 「依頼・曖昧」の始まり

【本用件部】の始まりとは、依頼者が【本用件部】の最初のターンで発話されたものを指す。日本語と延辺朝鮮語の「依頼・曖昧」の始まりで使われたストラテジーは表 6-8 のとおりである。

表 6-8 「依頼・曖昧」の始まりにおけるストラテジー

種類	ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー	日本語の会話数	発話機能タイプのストラテジー	延辺朝鮮語の会話数
1	A2	3	21	3	5
2	A1	1	2	1 2	2 1
3	A3			6	1
4	A2A1	3、1	2	3、1	8
5	A1A5	2、9	1		
6	A6A2			12、3	2
7	A6A1A4			12、1、7	1
8	A3A2A1			6、3、1	1

【本用件部】の始まりで発話されたストラテジーの型の組合せは日本語が 4 種類、延辺朝鮮語が 7 種類である。日本語は {A2「3」：論理型「情報提供」} が 21 と最も多く、次に {A1} と {A2A1} が各 2、{A1A5} が 1 会話に見られた。延辺朝鮮語は {A2A1} が 8 と最も多く、次に

{A2}が5、{A1}が3、{A6A2}が2、{A3}{A6A1A4}{A3A2A1}が各1の順になっている。個々のストラテジーの型の出現順をみると、日本語はA2>A1>A5、延辺朝鮮語はA2>A1>A6>A3>A4の順に使用数が多い。両言語は{論理型}と{主張型}を多く使用して【本用件部】を始めている。延辺朝鮮語はそれに加えて、{圧力型}の感嘆詞を使用している。

6.3.3 ストラテジーのパターン

6.2.3では会話数が少なく、パターンがかなりはっきり分かれていたので、一会話一会話ずつ分析したが、この節では会話数が多く、【本用件部】で被依頼者の態度は曖昧のままで変化がなく、パターンも複雑なために依頼者を重点的に考察することにする。考察の時には、依頼者と被依頼者の2発話連続における単独または複数ストラテジーをみる方法をとる。ここで言う2発話連続におけるストラテジーとは、依頼者と被依頼者の使用するストラテジーが隣接応答ペアとなっているものを指す。分析の手順は以下のようなものである。まず、【本用件部】に現れたストラテジーの応答ペアを談話展開の流れに沿って並べる。次に談話展開の流れからストラテジーのパターンを抽出する。最後に、ストラテジーのパターンを内容面から両言語で対照比較する。表6-9に【本用件部】「依頼・曖昧」の展開における談話展開を示す。この表から分かるように被依頼者の態度は{B4:対人的配慮型}が2

表 6-9 「依頼・曖昧」における両言語の談話展開

会話番号	日本語の談話展開	会話番号	延辺朝鮮語の談話展開
「依頼-曖昧」			
八	「A1-B2」	三	「A1-B2」
六十五	「A1-B2」	四	「A6A1A4-B2」
七十一	「A1A5-B2」	五	「A2A1-B2」
		六	「A2A1-B2」
		七	「A2A1-B2」
		八	「A3A2A1-B2」
		十	「A2A1-B2」
		十一	「A2A1-B2」 →A2
		十七	「A1-B2」 →A2
		四十七	「A2A1-B2」
		四十九	「A1-B2」
		六十一	「A2A1-B2」
情報のやり取り + 「依頼-曖昧」			
二	「A2-B2」 (5) → 「A3A1-B2」	三十	「A6A2-B2」 → 「A1-B2」 →A2

四	「A2-B2」(5)→「A1-B2」	三十一	「A6A2-B2」→「A2-B2」→ 「A2A1-B2」→A2
六	「A2-B2」→「A2-B4」→「A1-B2」	三十三	「A2-B2」→「A1-B2」→A5
七	「A2-B2」(4)→「A4A1-B2」	六十五	「A2-B2」→「A2A1-B2」→A2
十一	「A2-B2」(3)→「A1-B2」→「A2-B2」	六十八	「A2A1-B2」
十二	「A2A1-B2」		
十四	「A2-B2」(3)→「A2A1-B2」→A2		
二十二	「A2-B2」(2)→「A5A1-B2」		
二十五	「A2-B2」(4)→「A4-B2」→「A3-B2」 →「A1-B2」		
三十四	「A2-B2」(2)→「A1-B2」		
三十五	「A2-B2」→「A1-B2」→「A2-B2」 →「A5-B2」		
三十九	「A2-B2」(11)→「A1-B2」		
四十	「A2-B2」(9)→「A1-B2」		
四十四	「A2-B2」(4)→「A2-B4」→ 「A3A1-B2」		
四十六	「A2-B2」(2)→「A5A1-B2」		
四十七	「A2-B2」(4)→「A3-B2」→「A1-B2」		
五十三	「A2-B2」(2)→「A1-B2」		
五十八	「A2-B2」(3)→「A1-B2」→A4		
五十九	「A2-B2」(3)→「A2-B4」→ 「A1A2-B2」		
六十四	「A2A1-B2」		
六十八	「A2-B2」(2)→「A1-B2」→A2		
依頼のストラテジーが現れない展開			
五	「A2-B2」(9)→「A2-B4」→「A2-B2」 (4)→「A3-B2」	五十四	「A2-B2」
九	「A2-B2」	六十二	「A2-B2」
二十九	「A2-B2」		
四十五	「A2-B2」		
その他			
六十二	「A1-B2」(1)→「A2A4A2-B2B2」	六十	「A3-B2」→「A4A1A6-B2」

回出現した以外は {B2：中立型} である。B4 は談話展開にはあまり影響を与えないため、被

依頼者ストラテジーと〈依頼応答の話段〉は議論せず、〈依頼の話段〉における依頼者側のストラテジーに重点を置いて議論を進めていくことにする。【本用件部】「依頼・曖昧」の〈依頼の話段〉には「依頼-曖昧」、情報のやり取り+「依頼-曖昧」、依頼のストラテジーが現れない展開、その他の4種類の談話展開のパターンがみられた。6.3.3.1~6.3.3.4ではこの表に基づき3つのパターンにおけるストラテジーの使用を内容面から分析する。

6.3.3.1 「依頼-曖昧」

この展開は日本語に3会話、延辺朝鮮語に12会話現れた。表6-10は「依頼-曖昧」の内訳を示している。

表 6-10 「依頼-曖昧」の内訳

会話 番号	日本語の発話機能 タイプのストラテジー	会話 番号	延辺朝鮮語の発話機能 タイプのストラテジー
八	「1- <u>4</u> 」	三	「1- <u>5</u> 」
六十五	「1- <u>7</u> 」	四	「12, 1, 7- <u>4</u> 」
七十一	「2, 9- <u>4</u> 」	五	「3, 1- <u>5</u> 」
		六	「3, 1- <u>7</u> 」
		七	「3, 1- <u>4</u> 」
		八	「6, 3, 1- <u>5</u> 」
		十	「3, 1- <u>4</u> 」
		十一	「3, 1- <u>4</u> 」
		十七	「1- <u>4</u> 」
		四十七	「3, 1- <u>4</u> 」
		四十九	「2- <u>4</u> 」
		六十一	「3, 1- <u>4</u> 」

日本語における依頼者ストラテジーの型の組合せは「1:直接依頼」が2、「2,9:間接依頼、配慮発話」の組合せ型が1現れ、それに対して被依頼者は「4:相手の発話を復唱」「7:曖昧」で応答している。延辺朝鮮語は「3,1:情報提供、直接依頼」が7、「1:直接依頼」が2、「6,3,1:称賛、情報提供、直接依頼」「12,1,7:加圧、直接依頼、負担感の軽減」「2:間接依頼」が各1現れ、それに対して被依頼者は「4:相手の発話を確認・復唱」「5:詳しい情報を要求」「7:思案・曖昧」で応答している。このパターンの使用例を例6-12と例6-13に挙げておく。

例6-12 日本語会話六十五:〔依頼者=J55(19歳、女性)被依頼者=J56(19歳、女性)〕
(中略)

1AJ55: 論文を 10 頁書いてほしいんだけどー、

2BJ56: ええ? {笑い}

例 6-12 で依頼者は 1AJ55 で「論文を 10 頁書いてほしいんだけどー、」と言って{A1「1」: 主張型「直接依頼」}で依頼をして、被依頼者は 2BJ56 で「ええ? {笑い}」と言って{B2「7」: 「中立型」: 曖昧}で応答している。

例 6-13 延辺朝鮮語会話四〔依頼者=K5 (22 歳、女性) 被依頼者=K6 (21 歳、女性)〕

(中略)

1AK5: 아-? 우리 아버지 왜 날 돈 안주나? 날 한 300 원 빌려달라. 내 한 두달 후에
줄게. あ-? うちのお父さん何かお金くれないんだよね? 私に 300 元ぐらい貸してく
れ。2 日ぐらい後に返してあげる。

2BK6: 300 원이나? 300 元も?

例 6-13 で依頼者は 1AK5 で「아-? 우리 아버지 왜 날 돈 안주나? あ-? うちのお父さん
何かお金くれないんだよね?」{A6「12」: 圧力型「加圧」}、「날 한 300 원 빌려달라. 私に
300 元ぐらい貸してくれ。」{A1「1」: 主張型「直接依頼」}、「내 한 두달 후에 줄게. 2 日ぐ
らい後に返してあげる。」{A4「7」: 負担関連型「負担感の軽減」}の複数ストラテジーを使用
して依頼をし、被依頼者は 2BK6 で「300 원이나? 300 元も?」と相手の発話を復唱するこ
とで中立的な態度を取る。

6.3.3.2 情報のやり取り+「依頼-曖昧」

この展開は日本語に 21 会話、延辺朝鮮語に 5 会話現れた。表 6-11 は情報のやり取り+「依
頼-曖昧」の内訳を示している。このパターンは依頼者はまず情報を提供してから依頼を切り
出す展開を指す。

まず、両言語で情報のやり取りの仕方を比較してみよう。日本語は「3-6」: 情報提供-相槌
が 60、「3-12」: 情報提供-対人的配慮の発話が 4、「3-4」: 情報提供-相手の発話を確認・復
唱が 3、「3-7」: 情報提供-思案・曖昧が 2、「3-5」: 情報提供-詳しい情報を要求「4-4」:
情報要求/確認要求-相手の発話を確認・復唱が各 1 現れた。つまり日本語では依頼者が情
報を提供した時、被依頼者は「相槌・継続・共感」が最も一般的で他にも様々な方法で曖昧
な気持ちを示す。延辺朝鮮語は「3-6」が 3、「12, 3-6」が 2、「3-7」が 1 現れた。延辺朝鮮
語は依頼者が情報を提供する時に単独ストラテジーで情報を提供したり、「加圧」を「情報提
供」と組合せたりして複数ストラテジーで情報を提供するのが最も一般的になっている。延
辺朝鮮語では一般的に「7」: 思案・曖昧と「6」: 相槌・継続・共感で曖昧な気持ちを示す。

表 6-11 情報のやり取り+「依頼-曖昧」の内訳

会話 番号	日本語の発話機能 タイプのストラテジー	会話 番号	延辺朝鮮語の発話機能 タイプのストラテジー
二	「3-6」(5) → 「6, 1-4」	三十	「12, 3-6」 → 「1-4」
四	「3-6」(4), 「3-7」 → 「1-7」	三十一	「12, 3-6」 → 「3-6」 → 「3, 1-4」
六	「3-6」 → 「3-12」 → 「1-4」	三十三	「3-7」, 「3-6」 → 「1-4」
七	「3-6」(4) → 「8, 1-4」	六十五	「3-6」 → 「3, 2-4」
十一	「3-6」(3) → 「1-5」	六十八	「3, 1-6」
十二	「3, 1-7」		
十四	「3-6」(3) → 「3, 1-5」		
二十二	「3-6」(2) → 「9, 1-5」		
二十五	「3-6」(3) → 「8-6」 → 「6-5」 → 「1-4」		
三十四	「3-6」(2) → 「1-4」		
三十五	「3-6」 → 「1-4」 → 「3-7」 → 「9-6」		
三十九	「3-6」(9), 「3-4」(2) → 「1-4」		
四十	「3-6」(9) → 「1-4」		
四十四	「3-6」(2), 「3-12」(2) → 「6, 2-7」		
四十六	「3-6」(2) → 「9, 1-5」		
四十七	「3-6」(4) → 「6-6」 → 「1-4」		
五十三	「3-6」(2) → 「1-4」		
五十八	「3-6」(2) → 「1-4」		
五十九	「3-6」(2), 「3-4」 → 「3-12」 → 「1, 3-4」		
六十四	「3, 2-6」		
六十八	「3-5」 「4-4」 → 「1-4」		

□内は被依頼者ストラテジーを、() は該当応答ペアの出現数を示す

次に、両言語で依頼の仕方を比較してみる。日本語には1ターンで複数ストラテジーを用いているものが9例見られた。「3, 1/1, 3: 情報提供、直接依頼/直接依頼、情報提供」が3、「9, 1: 配慮発話、依頼」が2、「3, 2: 情報提供、間接依頼」「6, 2: 称賛、間接依頼」「6, 1: 称賛、直接依頼」が1、「8, 1: 負担軽減型、直接依頼」が1あった。延辺朝鮮語には「1: 直接依頼」が2、複数ストラテジーの「3, 1: 情報提供、直接依頼」が2、「3, 2: 情報提供、間接依頼」が1現れた。また、日本語は「情報提供」と「依頼」の間に「6: 称賛」「8: 負担感の埋め合

わせ」「9：配慮発話/受け止め」において被依頼者に配慮してから、ソフトに依頼を切り出している。

依頼者の依頼に対して被依頼者の曖昧な態度に用いられたストラテジーをみると、日本語は、「4：相手の発話を確認・復唱」が 13、「5：詳しい情報を要求」「7：曖昧・思案」が 4 見られ、延辺朝鮮語は「4：相手の発話を確認・復唱」が 4、「6：相槌・継続・共感」が 1 見られた。情報のやり取り＋「依頼-曖昧」のパターンを例 6-14 と例 6-15 に挙げる。

例 6-14 日本語会話二十五〔依頼者＝J20（23 歳、男性）被依頼者＝J19（21 歳、男性）〕

（中略）

3AJ20: 必須の授業でさ//、何か、

4BJ19: うん。

5AJ20: あの何か俺が当たっているところさー、何か何かね 10 頁ぐらいあってさ、

6BJ19: ああ、はい。

7AJ20: 何かねー、俺の英語能力じゃ、なかなかね、全然捗らなくてね、

8BJ19: まあね。

9AJ20: 10 頁もあるしさ//、限界を感じてね、

10BJ19: うん、ちょっと 10 頁もあるしね。

11AJ20: 申しにくいんだけどさ、

12BJ19: うん。

13AJ20: じゃ、英語かなり得意じゃん？

14BJ19: はい。

15AJ20: だから、10 頁訳せないかなって思って、

16BJ19: まじで？ 10 頁？うーん。

例 6-15 で発話 10 までは依頼者の「情報提供」と被依頼者の「相槌・継続・共感」のやり取りが行われている。その後、依頼者が 11AJ20「申しにくいんだけどさ、」13AJ20「じゃ、英語かなり得意じゃん？」と謝罪と称賛を言って、被依頼者が 14BJ19「はい」と詳しい情報を提供すると、依頼者は 15AJ20「だから、10 頁訳せないかなって思って、」と依頼を切り出す。最後に被依頼者は 16BJ19「まじで？10 頁？うーん。」と「相手の発話を確認・復唱」することで中立的な態度を示す。

例 6-15 延辺朝鮮語三十一：〔依頼者＝K27（22 歳、女性）被依頼者＝K28（22 歳、女性）〕

（中略）

7AK27: 아-? 우리 또 선생데 바치는게 있지무、

例 6-16 日本語会話五：〔依頼者＝J6（23 歳、女性） 被依頼者＝J5（24 歳、女性）〕

（中略）

3AJ6: 何かねえ。

4BJ5: はい。

5AJ6: 私さあ、今さあ、あの教育で H 先生の授業取っているんだけど、

6BJ5: ああ。

7AJ6: あの、すごい笑顔がいいわりに//すごく優しく喋るわりに課題めっちゃ出すよね。

8BJ5: うん。

9AJ6: 1 単位のくせに。

10BJ5: うん。

11AJ6: で、出したのがだから論文を－10 頁、

12BJ5: うん。

13AJ6: 10 頁じゃなくて、{笑い} 100 頁和訳して来いと言われたんよ。

14BJ5: 100? {笑い}

15AJ6: 100 頁和訳してこいと言われたんよーねー。

16BJ5: うん。

17AJ6: たぶん、あの授業は結構英語できる子が取ってると思ってて//、先生が、だから、

18BJ5: ああ

19AJ6: ぼん、出してきたよね。

20 BJ5: 楽に。

21AJ6: そうそうそう、で、あさってまでで//からさあ、

22BJ5: あさってまでで 100 頁?

23AJ6: きつくない? ちょっと、

24BJ5: きついよね。

25AJ6: どんだけねー!、生徒をね! 大体、90 頁ならいけると思うね。

26BJ5: すごいね、90 頁もできるんだ。{笑い}

27AJ6: 締め切りが、今日、明日食わずに思うんだけど、

28BJ5: 食わずに?

29AJ6: 寝ずにねー。

30BJ5: 寝ずに。{笑い}

31AJ6: 10 頁だけはちょっとね、厳しいからって思って、

32BJ5: 10 頁? うーん。

33AJ6: 英語の得意な、

34BJ5: 10 頁あるでしょ?

上の例をみると、日本語では依頼者は一方的に情報を提供する内容がほとんどで、被依頼者は相槌を打つ、相手の発話を復唱する、依頼者の立場を配慮する発話をしており、談話展開に影響を与える実質的な発話はしていない。依頼者の発話は被依頼者の頻繁に打つ相槌といった非実質的な発話に挟まれて1ターンに提供する情報が短くなっている。

例 6-17 延辺朝鮮語会話五十四：〔依頼者＝K49（22歳女性）被依頼者＝K50（22歳女性）〕
（中略）

2AK40: 내 집에 있재, 좀 사정이 있다. 私家にねえ、ちょっと事情があつてね。
3BK50: 알았다. 그래 또 얼마야? 分かつた。じゃ、またいくら？

例 6-17 の延辺朝鮮語では依頼者が 2AK40 「내 집에 있재, 좀 사정이 있다. 私家にねえ、ちょっと事情があつてね。」と大まかな内容で情報を提供し、これに対して被依頼者が 3BK50 「알았다. 그래 또 얼마야? 分かつた。じゃ、またいくら？」と詳しい情報を要求して〈依頼の話段〉が終わる。日本語は依頼者が情報を詳しく提供し、被依頼者は非実質的な応答をすることで、会話参加者が情報のやりとりをするのに対して延辺朝鮮語は依頼者が大まかに情報を提供し、被依頼者の発話内容は実質的な内容からなっている。

6.3.3.4 その他

「依頼・曖昧」には上述のパターン以外にもその他の談話展開が両言語で1例ずつ見られた。例 6-18 と例 6-19 に挙げる。

例 6-18 日本語会話六十二：〔依頼者＝J54（18歳、女性）被依頼者＝J53（18歳、女性）〕
（中略）

2AJ54: 1万円借りたいんだけど、{笑い}
3BJ53: {笑い}
4AJ54: 生活費の仕送りが入って来ないんで、2,3日後に返すけん、1万円。
5BJ53: 1万円？1万円か。1万円じゃないといけんのん？

会話六十二は先に依頼をして、後に情報提供がくるパターンである。依頼者が 2AJ54 「1万円借りたいんだけど、{笑い}」と直接に依頼を切り出すと、被依頼者が 3BJ53 で曖昧な態度を示すと、依頼者は 4AJ54 「生活費の仕送りが入って来ないんで、2,3日後に返すけん、1万円。」と情報提供をして相手にかかる負担感を軽減する返金保証のストラテジーを使用する。それに対して被依頼者は 5BJ53 「1万円？1万円か。1万円じゃないといけんのん？」と依頼者の発話を復唱し、金額に関する確認を取ることで中立的な態度を示す。

例 6-19 延辺朝鮮語会話六十：〔依頼者＝K55（22歳男性）被依頼者＝K56（21歳男性）〕

（中略）

2AK55: 전번에 그 논문 번역해준게 진짜 대박이더라。

この前にあの論文翻訳してもらったのが大ヒットしたよ。

3BK56: 진짜?

まじで?

4AK55: 응、 근데 또 미안하게 이번에 열페이지나 번역해달라재-야。 아-?

うん、しかしまた申し分けないけど、今度は10頁もやってくれっていうんだよ、あ-?

5BK56: 열페이지? 그리 많이?

10頁?そんなにたくさん?

例 6-19 は最初に相手を 2AK55 「전번에 그 논문 번역해준게 진짜 대박이더라。この前にその論文翻訳してもらったのが大ヒットしたよ。」と称賛することで、相手の気分をポジティブな状態にしてから、次に 4AK55 「응、 근데 또 미안하게 이번에 열페이지나 번역해달라재-야。 아아-? うん、しかしまた申し分けないけど、今度は10頁もやってくれっていうんだよ、あ-?」という{A4A1A6:負担感関連型、直接依頼、圧力型}の複数ストラテジーを使用している。被依頼者は 5BK56 「열페이지? 그리 많이? 10頁?そんなにたくさん?」と相手の発話を復唱し、確認することで中立的な態度を示す。

6.3.4 「依頼・曖昧」の終わり

「依頼・曖昧」の終わりにおける【本用件部】の終わりで日本語は 27 会話中、24 会話で {B2:中立型} の単独ストラテジーを使用している。そのうち、「4:相手の発話を確認・復唱」が 14、「7:思案・曖昧」が 5、「6:相槌・継続・共感」が 3、「5:詳しい情報を要求する」が 2 会話現れている。複数ストラテジーの使用に関しては、会話六十二では B2B2 の「4,5」の使用が 1 見られている。また、依頼者の発話で「依頼・曖昧」が終わるものが会話十四と会話六十八で各 1 回現れている。会話十四で例をあげると、依頼者の中立的な態度を示す {B2「4」:中立型「相手の発話を確認」} の 8BJ11 「もう全然ないの?」に対して 9AJ12 「全然ない。」と情報を提供している。また、会話六十八のように被依頼者の中立的な態度に対して、{A4「8」:負担感の埋め合わせ} で終わっているものもある。この会話で被依頼者が中立的な態度を取った後、依頼者は 10AJ51 「ほんと申し訳ないんだけど、ほんとごめん。」と謝罪して被依頼者にかけて負担感を埋め合わせる努力をしている。

延辺朝鮮語は【本用件部】の終わりで、20 会話中、16 会話で {B2:中立型} の単独ストラテジーを使用している。そのうち、「4:相手の発話を確認・復唱」が 9、「5:詳しい情報を要求する」が 5、「6:相槌・継続・共感」「7:思案・曖昧」が各 1 会話に現れている。延辺朝鮮語では複数ストラテジーが現れなかった。依頼者の発話で「依頼・曖昧」が終わる会話は 4 つあった。この 4 つの会話の終わりには 4 会話とも {A2「3」:論理型「情報提供」} が使

われている。例えば、延辺朝鮮語会話三十三のようなストラテジーのやり取りが終わりになされている。12BK28「ㄷ? ㄷ?」といった依頼者の曖昧な態度を示す「4:相手の発話を確認」に対する答えとなる13AK27「ㅇ. うん。」のような情報提供の内容である。

6.3.5 日本語と延辺朝鮮語の比較

6.3では、両言語の「依頼・曖昧」の展開を次のようにまとめる。日本語は「依頼・曖昧」の展開が29会話で、延辺朝鮮語の20会話より多い。

【本用件部】の「依頼・曖昧」の展開で日本語はストラテジーを1会話で平均延辺朝鮮語の2倍余り使っている。特に{A2:論理型}と{B2:中立型}で日本語の使用数は延辺朝鮮語の3倍以上もある。日本語のみに現れたストラテジーには{B4:対人的配慮型}が、延辺朝鮮語のみに現れたストラテジーには{A6:圧力型}がある。

【本用件部】の始まりで発話されたストラテジーは日本語に4種類、延辺朝鮮語に7種類の組合せがあった。両言語は{論理型}と{主張型}を多く使用して【本用件部】を始めている点で一致している。日本語は「情報提供」で始まるのが最も多く、延辺朝鮮語は「情報提供、直接依頼」で始まるのが最も多い。単独ストラテジー「依頼」は曖昧の展開で日本語に2会話、延辺朝鮮語に1会話しか使われていない。複数ストラテジーの使用においては、日本語は{A2A1}と{A1A5}しかないが、延辺朝鮮語は依頼者の使える全てのストラテジーを多様に組合せて何でも使おうとする傾向があった。

「依頼・曖昧」の談話展開のパターンには、「依頼-曖昧」、情報のやり取り+「依頼-曖昧」、依頼のストラテジーが現れない展開、その他の4種類のパターンがあった。両言語は情報のやり取りの仕方と依頼の仕方が異なる。日本語では「情報提供」に対して「相槌・継続・共感」か「相手の発話を確認・復唱」で答えるのが最も一般的な情報のやり取りの仕方である。延辺朝鮮語は「情報提供」と「依頼」のストラテジーを組合せた複数ストラテジーの形式で情報を提供するのが最も一般的になっており、被依頼者の曖昧な態度を示すストラテジーは日本語と同じく「相槌・継続・共感」か「相手の発話を確認・復唱」で答えることが多い。依頼の仕方については、日本語のほうが被依頼者に配慮しながらソフトに依頼を切り出している。

両言語は【本用件部】の終わりで単独ストラテジーの{B2:中立型}が最も一般的に使われていて、「相手の発話を確認・復唱する」ことで曖昧の態度を示すのが最も多い点で共通している。日本語は「思案・曖昧」が2番目に多いが、延辺朝鮮語は「詳しい情報を要求する」ストラテジーが2番目に多い点で異なっている。且つ、両言語とも情報の確認に対して情報を提供するストラテジーで曖昧な態度を示すものがあった。

6.4 「依頼・拒絶」の展開の場合

「依頼・拒絶」の展開とは、初依頼で依頼者の依頼に対して被依頼者が拒絶の態度を取る展開を指す。この展開は日本語に 32 会話、延辺朝鮮語に 27 会話あった。

6.4.1 ストラテジーの出現頻度

表 6-13 は両言語の「依頼・拒絶」の展開のストラテジーの出現頻度を示している。

表 6-13 「依頼・拒絶」における両言語のストラテジーの出現頻度

日本語の依頼者ストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	29	87	4	4	4	—	128
1 会話平均	0.91	2.72	0.13	0.13	0.13	—	4.00
日本語の被依頼者ストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	—	76	36	1			113
1 会話平均	—	2.38	1.13	0.03			3.53
延辺朝鮮語の依頼者ストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	21	29	—	—	—	6	56
1 会話平均	0.78	1.07	—	—	—	0.22	2.07
延辺朝鮮語の被依頼者ストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	—	8	28	—			36
1 会話平均	—	0.30	1.04	—			1.33

まず、全会話中に使用されたストラテジーの総数をみると、日本語は 241（1 会話あたり 7.53）で、そのうち依頼者が 128（1 会話あたり 4.00）、被依頼者が 113（1 会話あたり 3.53）となっている。延辺朝鮮語は総数が 92（1 会話あたり 3.41）だが、そのうち依頼者が 56（1 会話あたり 2.07）、被依頼者が 36（1 会話あたり 1.33）である。【本用件部】の「依頼・拒絶」の展開で日本語は平均 1 会話で延辺朝鮮語の 2 倍余り使っている。

次に、個々のストラテジーの 1 会話平均数をみる。A1、A2、B2、B3 は何れの項目も日本語のほうが延辺朝鮮語より多い。A1、B3 は両言語で差が大きくないが、{A2：論理型} は日本語が延辺朝鮮語の 2 倍以上、{B2：中立型} で日本語の使用数は延辺朝鮮語の 8 倍弱もある。日本語では「依頼」と「拒絶」の応答ペアの形成に到るまでの過程で、最終的に断るとしても、相槌や、中立的な態度を示す発話などを使用してから断るので、この展開では被依頼者側の {中立型} のストラテジーが増える。両言語には 1 つの言語のみに見られたストラテジーがあった。{A3：正当型} {A4：負担関連型} {A5：対人的配慮型} {B4：対人的配慮型} は日本語のみに、{A6：圧力型} は延辺朝鮮語のみに現れた。

6.4.2 「依頼・拒絶」の始まり

この節では「依頼・拒絶」の談話展開を始めるストラテジーをみる。日本語と延辺朝鮮語の【本用件部】の始まりで使われたストラテジーを表 6-14 に示す。

表 6-14 「依頼・拒絶」の始まりにおけるストラテジー

種類	ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー	日本語の会話数	発話機能タイプのストラテジー	延辺朝鮮語の会話数
1	A2	3	23	3	4
2	A1	1 2	5 1	1 2	6 1
3	A2A1	3, 1	2	3, 1	8
4	A2A3A1	3, 6, 1	1		
5	A2A6			3, 12	1
6	A6A2			12, 3	2
7	A1A2			1, 3	1
8	A2A2			3, 4	1
9	A1A2A1			2, 3, 1	1
10	A6A2A1			12, 3, 1	1
11	A2A6A2			3, 12, 3	1

ストラテジーの型の組合せは、日本語は 4 種類見られ、延辺朝鮮語は 10 種類見られた。日本語は {A2「3」:論理型「情報提供」} が 23 と最も多く、次に {A1:主張型} が 6、{A2A1:論理型、主張型} が 2、{A2A3A1:論理型、正当型、主張型} が 1 会話に見られた。延辺朝鮮語は {A2A1} が 8 と最も多く、次に {A1} が 7、{A2} が 4、{A6A2} が 2、{A2A6} {A1A2} {A2A2} {A1A2A1} {A6A2A1} {A2A6A2} が 1 となっている。発話機能タイプのストラテジーの内容をみると、日本語は「3:情報提供」「1:直接依頼」「2:間接依頼」「6:称賛」の順、延辺朝鮮語は「3:情報提供」「1:直接依頼」「12:加圧」「2:間接依頼」「4:情報提供」の順に使用数が多い。両言語は {論理型} と {主張型} を多く使用して【本用件部】を始めている。

6.4.3 ストラテジーのパターン

「依頼」と「拒絶」は応答ペアを形成するため、「依頼」と「拒絶」を手がかりに談話展開の種類を考察する。「依頼・拒絶」の場合、【本用件部】には 3 つのタイプの談話展開が見られた。一つは、隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」の展開、2 つは、「応答を保留する挿入発話連鎖」を含む展開、3 つは、情報のやり取りの後隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」が行われる展開、4 つは、依頼のストラテジーが現れない展開である。6.4.3 では「依

頼・拒絶」の展開におけるこれらの談話展開の流れを具体的に考察する。

6.4.3.1 隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」

この展開は日本語に5会話、延辺朝鮮語に16会話見られた。表6-15は隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」の展開で使用された会話参加者の用いたストラテジーである。

表6-15 隣接応答ペア「依頼－拒絶」におけるストラテジー

日本語				延辺朝鮮語					
会話 番号	依頼者ストラテジーの型と発話機能タイプのストラテジー		被依頼者ストラテジーの型と発話機能タイプのストラテジー		会話 番号	依頼者ストラテジーの型と発話機能タイプのストラテジー		被依頼者ストラテジーの型と発話機能タイプのストラテジー	
二十七	A1	1	B3B3B3	[8, 9, 10]	二	A1	1	B3B3	[11, 8]
四十二	A1	1	B3	[8]	十三	A2A1	3, 1	B3	[8]
六十	A2A1	3, 1	B3B2	[8, 5]	十九	A1	2	B3	[8]
六十六	A1	2	B3	[8]	二十	A1	2	B3	[8]
七十三	A1	2	B3	[8]	二十二	A2A1	3, 1	B3	[8]
					二十三	A1	2	B3	[11]
					二十五	A2A1	3, 1	B3B3	[11, 8]
					二十八	A2A1	3, 1	B3	[8]
					三十四	A2A1	3, 1	B3	[8]
					三十五	A1A2A1	2, 3, 1	B3	[8]
					三十八	A1A2	1, 3	B3	[11]
					三十九	A1	2	B3	[10]
					四十二	A1	2	B3B3	[11, 9]
					四十三	A2A1	3, 2	B3	[11]
					四十五	A6A2A1	12, 3, 1	B3	[9]
					五十六	A1	1	B3B3	[8, 11]

この展開は延辺朝鮮語の主要な展開になっている。依頼者ストラテジーをみると、日本語は4会話に単独ストラテジーの{A1:主張型}が使われていて、1会話のみに複数ストラテジーの{A2A1:論理型、主張型}が使われている。延辺朝鮮語は単独ストラテジーの{A1:主張型}が7会話に使用されている。複数ストラテジーが9会話に使われている。そのうち、{A2A1/A1A2:論理型、主張型/主張型、論理型}が7、{A1A2A1:主張型、論理型、主張型}と{A6A2A1:圧力型、論理型、主張型}が各1会話に使われている。この展開で延辺朝鮮語は論

理型と主張型を主に使っていることが分かる。

被依頼者の拒絶のストラテジーの内容では、日本語にはどの会話にも「8:直接的な断り」が含まれている。日本語会話には「8, 9, 10: 直接的な断り、不利な内容を含む発話、他の解決策」の複数ストラテジーが話された例が1つ見られた。延辺朝鮮語では間接拒絶の「9: 不利・否定的な内容を含む発話」が2、「10:他の解決策」が1現れたが、主に使われるストラテジーは「8:直接的な断り」と「11:非難」となっている。「非難」は延辺朝鮮語特有のものである。延辺朝鮮語会話四十二の7BK38「야, 열페이지야? 나두 공부할 시간이 바빠죽겠는데, 내 어떻게 널 열페이지까지 해주니? ちょっと、10頁も？私も勉強する時間が忙しくて仕様が無いのに、どうやってあなたに10頁も訳してあげるわけ？」のように相手の依頼に対して不満げに怨む口調でぶつけるものである。例6-20と例6-21に日本語と延辺朝鮮語の例を挙げる。

例6-20 日本語会話二十七：〔依頼者＝J21（22歳、男性）被依頼者＝J20（23歳、男性）〕
1AJ21: うん、ちょっとやっぱ10ページぐらい和訳してほしい//んだけど、
2BJ20: 10ページ? 10ページはないわ。これはね、とりあえず、自分でさ、軽くなんか和訳してきて、それをみてあげるけどさ、とりあえず自分で訳してみて、

依頼者は1AJ21「うん、ちょっとやっぱ10ページぐらい和訳してほしい//んだけど、」と依頼をし、被依頼者は2BJ20「10ページ? 10ページはないわ。」で「8:直接的な断り」、「これはね、とりあえず、自分でさ、軽くなんか和訳してきて、それをみてあげるけどさ、とりあえず自分で訳してみて、」で「9:不利・否定的な内容を含む発話」と「10:他の解決策」のストラテジーを使って拒絶している。

例6-21 延辺朝鮮語二：〔依頼者＝K2（22歳、女性） 被依頼者＝K1（22歳、女性）〕
(中略)

2AK3: 이번에 열페이지정도 써주개? 今度は10頁程度書いてくれる?
3BK1: 아-? 너무 많다. 그게. あ-? 多すぎる。それは。

例6-21で依頼者が2AK3「이번에 열페이지정도 써주개? 今度は10頁程度書いてくれる?」と{A1「2」:主張型「間接依頼」}で依頼をすると、被依頼者は3BK1「아-? 너무 많다. 그게. あ-? 多すぎる。それは。」と{B3B3「11, 8」:消極型「非難、直接的な断り」}の複数ストラテジーを使用して拒絶する。

6.4.3.2 「応答を保留する挿入発話連鎖」を含む展開

この展開は日本語に6会話、延辺朝鮮語に1会話見られた。表6-16に応答を保留する挿入発話連鎖の「依頼」と「拒絶」の内訳を示す。

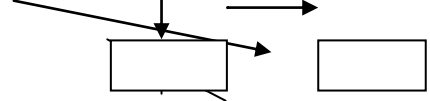
表6-16 応答を保留する挿入発話連鎖「依頼」と「拒絶」でのストラテジー

日本語		延辺朝鮮語	
会話番号	会話参加者のストラテジーの型と内訳	会話番号	会話参加者のストラテジーの型と内訳
一	「A2-B2」(2)→「A2A1A4-B2」→「A4-B2B3B3」 「3-6」(2)→「3, 1, 7-6」→「8-4, 9, 10」	四十	A2A1→「B2-A2」→B3 3, 1→「4-3」→8
十三	A2A1→「B2-A2」→B3B3 3, 1→「4-3」→9, 8		
二十	「A1-B2」→「A2-B3」 「1-6」→「3-8」		
五十四	「A2-B2」(2)→「A3-B2」→「A1-B2」→A2→「B2-A2」 →B3 「3-6」(2)→「6-7」→「1-6」→3→「4-3」 →8		
五十六	「A1-B2」→「A2-B2」→「A4A1-B2B3」 「1-7」→「3-6」→「8, 2-4, 10」		
五十七	「A1-B2」→A4→「B2-A2」→B2B3 「1-6」→4→「4-3」→4, 10		

まず、日本語のほうを観察すると、「依頼」と「拒絶」の間に、会話一では「保障」と「謝罪」が、会話十三と会話五十七では「質問-答え」が、会話二十では「相槌」と「情報提供」が、会話五十四では「相槌」と「情報提供」と「質問-答え」が、会話五十六では「情報提供」と「謝罪」が挿入される。次に、延辺朝鮮語のほうをみると、会話四十では「質問-答え」が挿入されている。例6-22と例6-23に「質問-答え」が挿入される例を挙げておく。

- 例6-22 日本語会話十三：〔依頼者=J11(23歳、女性)被依頼者=J12(30歳、女性)〕
 1AJ11: どうしよう、私英語全然できなくてー、この前みたいに又これ訳してもらえない?
 2BJ12: 何頁?
 3AJ11: 10頁あるんだけど{笑い}、
 4BJ12: {笑い}何かこの間より増えているけど、10頁はちょっと多いーかなあ。

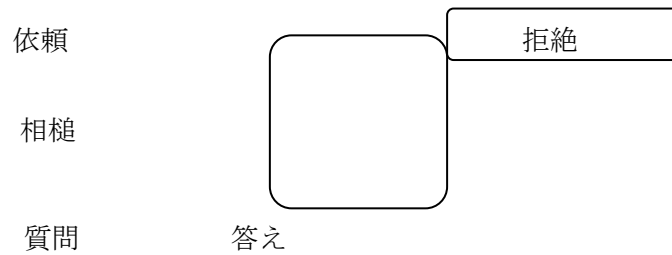
1AJ11の情報提供と直接依頼のストラテジーの使用に2BJ12はすぐ応答するのではなく、「何頁?」と{B2「4」:中立型「詳しい情報を要求」}のストラテジーで応答する。依頼者は



16BJ48: A3 で 10 頁? {笑い} いや、厳しいわー。それはー。

11AJ47 の「依頼」と 16BJ48 の「拒絶」の間に相槌 12BJ48 「おお。」、情報提供の 13AJ47 「ほんの 10 頁ぐらいだけど、」のストラテジー、「質問」と「答え」の「14BJ48: {笑い} 10 頁? A4 で?」と 15AJ47 「いや、A3。」が挿入されている。

図 6-3 【本用件部】「依頼・拒絶」の展開: 「相槌」と「質問」- 「答え」の挿入



6.4.3.3 情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」

この展開は延辺朝鮮語の主要な展開になっている。この展開は日本語に 18 会話、延辺朝鮮語に 4 会話見られた。表 6-17 は依頼者と被依頼者の情報のやり取りが出現してから「依頼-拒絶」の応答ペアが現れる両言語の会話の内訳を示したものである。

まず、両言語で情報のやり取りの仕方を比較しよう。日本語は「3-6」: 情報提供-相槌」が 39、「3-4」: 情報提供-相手の発話を確認・復唱」「3-5」: 情報提供-詳しい情報を要求」が各 2、「3-7」: 情報提供-思案・曖昧」が 1 現れた。複数ストラテジーは「3, 8-6」: 情報提供、負担感の埋め合わせ-相槌」が 1 現れた。つまり日本語では依頼者が情報を提供した時、被依頼者は「相槌・継続・共感」で答えるのが最も多い一般的な情報のやり取りとなっている。延辺朝鮮語は「3-6」が 2、「3-4」「3-5」「3-11」: 情報提供-非難」が各 1 現れた。複数ストラテジーの使用においては、「3, 12」: 情報提供、対人的配慮の発話」に対して「5」で答えたのが 1 会話現れた。この非難は課題を出した先生への怨みを表すもので、依頼者に当たるものではない。

表 6-17 情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」

日本語		延辺朝鮮語	
会話番号	会話参加者のストラテジーの型と内訳	会話番号	会話参加者のストラテジーの型と内訳
三	「A2A3A1-B3」 「3, 6, 1-8」	二十七	A2A6 → 「B2-A2A1A6」 → B3 3, 12 → 「5-3, 1, 12」 → 8
十五	「A2-B2」 4 → 「A5A1-B3B3」	二十九	「A2-B2」 → 「A2-B2」 → 「A2A1-B3B3」

	「3-6」(3), 「3-7」→「9, 1-9, 9」		「3-5」→「3-4」→「3, 2-11, 8」
十七	「A2-B2」→「A2A5A1-B3」 「3-4」→「3, 9, 1-8」	五十	「A2-B2」→「A2-B3」→「A1-B3」 「3-6」→「3-11」→「2-11」
十八	「A2-B2」(2)→「A1-B3」 「3-6」(2)→「1-8」	六十三	「A2-B2」→「A2A1-B3」 「3-6」→「4, 1-11」
二十一	「A2-B2」(2)→「A2A1-B3」 「3-6」(2)→「3, 1-8」		
二十四	「A2-B2」(6)→「A1-B3」 「3-6」(6)→「2-8」		
三十	「A2-B2」→「A2A1-B3」 「3-6」→「3, 1-8」		
三十一	「A2-B2」(2)→「A3A1-B3」 「3-4」, 「3-6」→「6, 1-10」		
三十六	「A2-B2」→「A2A1-B3B3」 「3-5」→「3, 1-8, 10」		
三十七	「A2-B2」(3)→「A2A1-B3」 「3-6」, 「3-5」, 「3-6」→「3, 1-9」		
三十八	「A2-B2」(7)→「A2A4-B2」→「A5A1-B3」 「3-6」(7)→「3, 8-6」→「9, 1-8」		
四十三	「A2-B2」→「A2-B4」→「A1-B3」 「3-6」 「3-12」 「1-8」		
四十八	「A2-B2」(2)→「A1-B3B3」 「3-6」(2)→「1-8, 10」		
四十九	「A2-B2」→「A2A1-B3」 「3-6」→「3, 1-8」		
五十一	「A2-B2」(2)→「A1-B3」 「3-6」(2)→「1-8」		
五十五	「A2-B2」→「A2A1-B3」 「3-6」→「3, 1-10」		
六十九	「A2-B2」(4)→「A1-B3」 「3-6」(4)→「1-9」		
七十	「A2-B2」(4)→「A1-B2B3」 「3-6」(4)→「1-4, 8」		

次に、両言語で依頼の仕方を比較してみる。日本語には「3, 1: 情報提供、直接依頼」「1: 直接依頼」が各 6、「9, 1: 配慮発話、直接依頼」が 2、「2: 間接依頼」「6, 1: 称賛、直接依頼」「3, 9, 1: 情報提供、配慮発話、直接依頼」「3, 6, 1: 情報提供、称賛、直接依頼」が 1 使われている。延辺朝鮮語は「2: 間接依頼」「3, 2: 情報提供、間接依頼」「4, 1: 情報提供、直接依頼」「3, 1, 12: 情報提供、直接依頼、加圧」がそれぞれ 1 使用されている。両言語とも複数ストラ

テジーがよく使用されているが、日本語のほうが被依頼者に配慮しながらソフトに依頼を切り出していることが分かる。例 6-25 と例 6-26 に両言語の例を挙げる。

例 6-25 日本語会話十七：〔依頼者＝J14（22 歳、男性）被依頼者＝J13（22 歳、男性）〕
（中略）

1AJ14: 生活費がさあ、入ってなくてねえ、何か、

2BJ13: はい。まじで？

3AJ14: うん。何かおかんが忘れたよね、きっと、じゃあー、ちょっと悪いんやけど、1 万円貸してほしいよね。

4BJ13: 1 万円は無理だよ。

例 6-25 は、1AJ14 の「情報提供」から始まる。2BJ13 は「相手の発話を確認」するストラテジーを用いる。3AJ14 には複数ストラテジーの「3, 9, 1: 情報提供、配慮発話、直接依頼」が使用され、最後に被依頼者は 4BJ13 「1 万円は無理だよ。」と拒絶する。

例 6-26 延辺朝鮮語会話二十七：〔依頼者＝K21（20 歳女性）被依頼者＝K24（19 歳女性）〕
（中略）

2AK22: 전번에 영어논문응응-, 아-? 선생 또 냇단말이야.

この前の英語論文をねえ-, あ-? 先生がまた課題出したんだけど。

3BK24: 그래 내 잘못했다니?

私がまちがったって?

4AK22: 아니, 이번에 열페이 냇단말이다. 그래 이번에 열페이 날 다 번역해주면 안되니? 아-? 난 도저히 모르겠다.

いいえ、今度は 10 頁出されたのよ。それで今度は 10 頁訳してもらえない? あ-? どうしても私にはできない。

5BK24: 아니 얼마나 바쁘야? 한 열페이란게 어디야!

いや、それは難しいでしょ? 10 頁っていうのはないでしょ?

例 6-26 は依頼者の「情報提供」「加圧」のストラテジー「전번에 영어논문응응 -, 아-? 선생 또 냇단말이야. この前の英語論文をねえ-, あ-? 先生がまた課題出したんだけど。」から始まる。それを聞いて、被依頼者が 3BK24 「그래 내 잘못했다니? 私がまちがったって?」と詳しい情報を要求すると、被依頼者は「3, 1, 12: 情報提供、直接依頼、加圧」で応答し、被依頼者は 5BK24 「아니 얼마나 바쁘야? 한 열페이란게 어디야! いや、何て難しいでしょ? 10 頁っていうのはないでしょ?」と直接的に断る。

6.4.3.4 依頼のストラテジーが現れない展開

この節では、依頼のストラテジーを使用せずに情報を提供することで被依頼者が依頼の意を察し、拒絶の態度を示すパターンをみる。この展開は日本語に3会話、延辺朝鮮語に6会話見られた。表6-18は両言語の依頼のストラテジーが現れない展開におけるストラテジーの詳細を示したものである。

表6-18 「依頼・拒絶」：依頼のストラテジーが現れない展開

日本語		延辺朝鮮語	
会話番号	会話参加者のストラテジーの型と内訳	会話番号	会話参加者のストラテジーの型と内訳
二十三	「A2-B2」(9) → 「A3-B2」 → 「A2-B3」 「3-6」(9) → 「6-6」 → 「3-8」	四十四	「A2-B3」 「3-10」
五十二	A2 → 「B2-A2」 → B3 3 → 「5-3」 → 8	四十六	「A2A6A2- B3」 「3, 12, 3-8」
六十三	「A2-B2」 → 「A2-B3」 「3-6」 → 「3-8」	五十七	A6A2 → 「B2-A2」 → B3 12, 3 → 「5-3」 → 8
		五十八	「A6A2- B3」 「12, 3-11」
		三十七	「A2-B3」 「3-10」
		四十一	「A2-B3」 「3-8」

日本語は依頼者がイニシアティブを取って、情報を提供して被依頼者に断られてから【本用件部】が終わる会話と、被依頼者が途中で詳しい情報を要求して来たので、依頼者が情報を提供して【本用件部】の終わりに断られる会話の2種がある。延辺朝鮮語は単独または複数ストラテジーで情報を提供して被依頼者に断られてから【本用件部】が終わる会話と、被依頼者の情報要求に応じてから断られる会話の2種類があった。例6-27と例6-28を参照されたい。

例 6-27 日本語会話五十二：〔依頼者＝J46（19歳、女性）被依頼者＝J45（20歳、女性）〕
（中略）

3AJ46: 論文が英語で書いてあって、それを訳したのをレジюмеで書いて、発表しないといけないんだけど、うち、英語苦手だから、

4BJ45: 割と難しい？いくらあるん？

5AJ46: {見せる} 10頁もあるんよ。{笑い}

6BJ45: それはちょっと重いわ。 {笑い}

例 6-28 延辺朝鮮語会話四十六: [依頼者=K42 (21 歳男性) 被依頼者=K41 (21 歳男性)]
(中略)

7AK42: 바쳤는데 이번에 어째 또 해라니? 아-? 이번에 어째 이리 바쁘야! 길구,
提出したのに今度は何でまたやれって言うんだろ? あ-? 今度はどうしてこんなに難
しいんだろう! 長くて

8BK41: 난 모른다. 知らないよ。

例6-27で、依頼者が3AJ46で情報を提供するが、被依頼者は4BJ45「割と難しい?いくらあるん?」と詳しい情報を聞いてきたので、5AJ46「{見せる} 10頁もあるんよ。 {笑い} 」と依頼者が情報を提供するが、6BJ45で被依頼者に断られる。例6-28で、依頼者は7AK42で情報を提供して自分の置かれている状況を告げて、被依頼者は8BK41「난 모른다.わたしは知らないよ。」と断られる。

6.4.4 「依頼・拒絶」の終わり

「依頼・拒絶」の終わりでは両言語ともほぼすべての会話で、{B3:消極型}が現れた。単独ストラテジーで両言語は「8:直接的な断り」で終わるのが最も多い点で似ている。その他の単独ストラテジーで日本語は間接的な断り方も使用しているが、延辺朝鮮語は間接拒絶が1回しか見られず、その代わりに「非難」を使用している。

複数ストラテジーの使用については、日本語はB2とB3を組合せたのが4、B3を2回以上使用したのが5会話に現れた。日本語ではB3が多い時、3回も続けて使用されている。日本語会話二十七の2BJ20「10頁?10頁はないわ。これはね、とりあえず、自分でさ、軽くなんか和訳してきて、それをみてあげるけどさ、とりあえず自分で訳してみて、」でB3を3回発話している。この発話ではB3の「8:直接的な断り」「9:不利・否定的な内容を含む発話」「10:他の解決策」が含まれている。また、B3と{B2:中立型}とが組み合わさって使用されたものもある。日本語会話六十の4BJ51「ちょっと、1万円はちょっとすぐには渡せない、ほしいものがある?」と{B2「5」:中立型「詳しい情報を要求」}の発話がB3と一緒に使用されている。延辺朝鮮語は複数ストラテジーが1つの形式のみ表れて「11, 8:非難、直接的な断り」が4回使用されている。延辺朝鮮語会話五十六で「11, 8」を説明しよう。この会話で被依頼者は依頼者の依頼に対して4BK52「:{笑い} 야, 전번에 20 원 빌려달란것두 없는데, 300 원 빌려달라니 미쳤니? {笑い}おい, これまで20元貸してくれって言ったこともなかったのに, 300元貸せってか。頭おかしくない?」と断っている。

全体的にみると延辺朝鮮語は「依頼・拒絶」の終わりで断り方がかなり直接的で、時によ

っては相手の依頼に対して不満や批判が含まれたストラテジーも使用している。依頼者が被依頼者の強硬な反応を見て自ら依頼を撤退するように仕向けるといったストラテジーである。このようなものは延辺朝鮮語に1例にすぎないが、例6-29のようにA2の「3: 情報提供」で終わっている。

例6-29 延辺朝鮮語会話二十二：〔依頼者=K25（23歳女性）被依頼者=K26（20歳女性）〕
（中略）

4BK26: 넌 전번에 금방 가지구 뭐 또 생활비 모자라야?

この前もらったばかりなのにまた生活費が足りないの？

5AK25: 응. 내 좀 요새 미친 짓을 했다

うん、私ちょっと最近間抜けなことやっちゃった。

6BK26: 너 어디다 비벼써?

どこに無駄使いしたの？

7AK25: 응. 그냥 비벼썼다.

うん。まあ使っちゃったんだけど。

4BK26「넌 전번에 금방 가지구 뭐 또 생활비 모자라야? この前もらったばかりなのにまた生活費が足りないの?」は拒絶の発話でもあるし、情報を要求する発話でもある。例6-23はひとまとまりのある話題であるため、拒絶発話まで〈話段〉を区切ることはできない。そのため、A2で【本用件部】を終わるのである。

6.4.5 日本語と延辺朝鮮語の比較

以上、両言語の「依頼・拒絶」の展開における考察結果を以下にまとめる。「依頼・拒絶」の展開で日本語はストラテジーを1会話で平均延辺朝鮮語の2倍余り使っている。特に{B2: 中立型}において日本語の使用数は延辺朝鮮語の8倍以上もある。{A3: 正当型} {A4: 負担関連型} {A5: 对人的配慮型} {B4: 对人的配慮型}は日本語のみに、{A6: 圧力型}は延辺朝鮮語のみに現れた。

「依頼・拒絶」の始まり方は、日本語は4種類見られ、延辺朝鮮語は10種類見られ、延辺朝鮮語のほうが多様である。両言語は{論理型}と{主張型}を多く使用して【本用件部】を始めている面では同じである。単独ストラテジーで最も特徴が現れたのは日本語におけるA2の使用である。「情報提供」をして「依頼・拒絶」の展開を始めるのが日本語の全始まり方の中で7割以上も占めていて最も多い。次に日本語はA1の直接依頼が多い。日本語は「依頼・拒絶」の展開で単独ストラテジーのA2とA1を使用する機会が多い。延辺朝鮮語はA1とA2A1の使用数が同じく、この2種類が最も多く使用されている。そのほかに圧力型が「承諾」と「曖昧」の展開より増えており、{圧力型}を{主張型}および{論理型}と組合せて使っている。

「依頼・拒絶」の談話展開には、隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」、「応答を保留

する挿入発話連鎖」を含む展開、情報のやり取りの後隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」が行われる展開、依頼のストラテジーが現れない展開の4種類のパターンが見られた。

「依頼・拒絶」の展開の【本用件部】の終わりでは両言語は直接的に断るのが最も多かった。単独ストラテジーの使用で両言語は「直接的な断り」が最も多く、間接的な断りの単独ストラテジーも使っている、延辺朝鮮語は間接的な断りはあまり使われておらず、「非難」を多く使っている。複数ストラテジーの使用で、日本語は「間接的な断り」と曖昧のストラテジーを組合せる断り方が多種多様となっているが、延辺朝鮮語は非難を「直接的な断り」と組合せて依頼を強く断っている。

6.5 六章のまとめ

本章では、日本語と延辺朝鮮語の【本用件部】における「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」の談話展開を分析した。その結果、次のようなことが分かった。

(1) 3つの展開における会話数

本稿は依頼内容の負担度の大きい場面を扱っているが、両言語では会話数で違いがみられた。日本語は「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」の談話展開が其々6会話、29会話、32会話現れ、延辺朝鮮語はそれぞれ20会話、20会話、27会話現れている。日本語は親しい友達関係であっても難しい内容を依頼された場合は初依頼の場ですぐに承諾をすることが少なく、曖昧か拒絶の態度を取るのが一般的である。延辺朝鮮語は日本語と違って難しい依頼をされても承諾する場合が多く、承諾した場合と曖昧か拒絶した場合の会話数の差が少ない。

(2) ストラテジーの出現頻度

ストラテジーの1会話平均数、依頼者の1会話平均数、被依頼者の1会話平均数は、「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」のどの展開においても日本語のほうが多かった。つまり、日本語は依頼者と被依頼者ともに延辺朝鮮語より多くのストラテジーを使用している。とりわけ、「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」の展開で日本語は1会話当たり延辺朝鮮語より2倍以上ものストラテジーが使われている。各ストラテジーの使用数をみると、日本語は「依頼・承諾」のA4が延辺朝鮮語よりやや少ない以外に、全てのストラテジーの1会話平均が延辺朝鮮語より数が多い。特にA2とB2は3つの展開の何れの展開においても延辺朝鮮語よりずっと多い。それは日本語では依頼者が「情報提供」をして被依頼者が「相槌」を打つやり取りが頻繁に起こっているのが原因である。また、依頼者の使用するストラテジーには「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」の何れの展開においても一つの言語のみに見られたストラテジーがあった。日本語のみに使用されるストラテジーには{対人的配慮型}のストラテジーが、延辺朝鮮語のみに使用されたストラテジーには押し付け度合いが高い「圧力型」があ

る。親しい友達関係で難しい依頼をする時、日本語は相手に配慮するが延辺朝鮮語は配慮をしないだけでなく、相手に圧力をかけるストラテジーを使用していることが分かる。

(3) 【本用件部】の始まり

日本語は【本用件部】の始まりで使用するストラテジーが短簡で種類が少ないのが特徴である。延辺朝鮮語は日本語と逆で長く複雑で種類も多い。日本語はストラテジーの組合せの種類が3つの場面で2~4種類しかないが、延辺朝鮮語では8~11種類もある。

両言語は最初に使うストラテジーによって次の展開が予測できる手がかりを見つけることができる。初依頼で日本語はA2の「情報提供」を、延辺朝鮮語では多種多様なストラテジーを使用してA4の「負担感の軽減」を付け加えると依頼は成功しやすくなる。日本語の場合、依頼者は【本用件部】で話者交替が激しく、1ターンで話す内容量が少ない特徴がある。「依頼・承諾」でA1とA2、「依頼・曖昧」でA1とA2とA5、「依頼・拒絶」でA1とA2とA3が使われている。そのゆえ、一気に依頼したい意思を伝えて依頼に成功しようと思うのではなく、被依頼者とやり取りをしながら、ゆっくり依頼を切り出すのが望ましい。日本語は承諾ではA1の「直接依頼」を単独に使うことはなかったが、曖昧と拒絶では増えている。即ち、A1を単独で使うと日本語では初依頼で承諾が得られにくくなる。依頼も重要だが、日本語では依頼をすることになった経緯や、依頼者が置かれている状況を詳しく説明して被依頼者を理解させ、納得させるのは尚いっそう重要で、そうすることで依頼は成功に辿りつきやすくなる。延辺朝鮮語では【本用件部】の始まりのターンで日本語のように被依頼者に相槌で発話を切られることなく、多くの内容を言う特徴がある。延辺朝鮮語は承諾、曖昧、拒絶の3つの展開でどれでもA1A2A3A6が現れている。唯一異なるのは「依頼・承諾」で「7:負担感の軽減」が数回出ている点である。このことから、初依頼で延辺朝鮮語では多様なストラテジーを使用し、負担を軽減する発話をすると依頼が成功しやすくなると言えるだろう。

(4) 談話展開のパターン

「依頼」と「承諾」、「依頼」と「曖昧」、「依頼」と「拒絶」を応答ペアと見做し、構造パターンをみたが、両言語とも特定のものに集中する傾向が見られた。日本語に主要な談話展開のパターンは情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」/「拒絶」である。

「依頼・承諾」で6会話中4会話、「依頼・曖昧」で29会話中21会話、「依頼・拒絶」で32会話中18会話に見られた。それに対して、延辺朝鮮語の主要な談話展開のパターンは隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」/「拒絶」である。「依頼・承諾」で20会話中13会話、「依頼・曖昧」で20会話中13会話、「依頼・拒絶」で27会話中16会話に見られた。

そのほかに、両言語にはまた「依頼-承諾/曖昧/拒絶」の応答ペアの間に挿入発話連鎖が挟まれる談話展開、「依頼のストラテジーが現れない」談話展開の2つの談話展開が現れている

が、どちらも両言語で数が多くない。

(5) 「情報のやり取り」と「依頼」の仕方

日本語は話者交替が激しく、情報を提供する時、依頼者はイニシアティブを取って一方的に情報を伝え、被依頼者は非実質的な内容の「うん」といった相槌で応答をするため、「情報提供+相槌」が数多く使用されている。延辺朝鮮語も一方的に話す日本語と異なって話者交替が少なく、依頼者は1ターンで多くの情報量を伝え、複数ストラテジーをよく使用するのが多く、被依頼者は非実質的な内容の相槌が少ない。

依頼の仕方に関しては、日本語は依頼発話がシンプルで「依頼のストラテジーのみ」で依頼するのが多く、複数ストラテジーを使用する際には「情報提供」「称賛」「配慮発話」などを「依頼」のストラテジーと組合せて使うことで、相手に配慮をしながらソフトに依頼を切り出すのが一般的となっている。それと反対に延辺朝鮮語は使えるストラテジーを何でも使おうとして1発話に複数ストラテジーを使用することが多く、日本語には見られない「圧力型」を複数ストラテジーに組合せる特徴があった。

(6) 【本用件部】の終わり

「依頼・承諾」の場合、日本語は延辺朝鮮語より「積極的受諾型」が多い。単独ストラテジーで両言語はB1の「承諾」が主に話されている。日本語はすべての会話に、延辺朝鮮語は19会話中17会話に使用されている。複数ストラテジーでは日本語は「対人的配慮の発話」を「承諾」と組合せているが、延辺朝鮮語は「非難」を「承諾」と組合せたり、「相手の発話を復唱」と「承諾に有利な情報を含む発話」を組合せたりしている。

「依頼・曖昧」の場合は、両言語は終わりでB2の単独ストラテジーを使用して曖昧な態度を示すことが多い。日本語は27会話中24会話で、延辺朝鮮語は20会話中16会話で使用している。そのうち、日本語は「相手の発話を確認・復唱」「詳しい情報を要求する」が最も多く、延辺朝鮮語は「相手の発話を確認・復唱」「思案・曖昧」が多い。また、依頼者の発話で終わるのが日本語に3会話、延辺朝鮮語に4会話あった。

「依頼・拒絶」の場合は、両言語は単独ストラテジーの「直接的な断り」で終わるのが最も多い点で似ている。その他の単独ストラテジーで日本語は間接的な断り方も使用しているが、延辺朝鮮語は間接的な断りが1回しか見られず、その代わりに「非難」を使用している。複数ストラテジーの使用においては、日本語は「中立型」と「消極型」を組合せたり、「消極型」を複数回使用したりしている。延辺朝鮮語は複数ストラテジーが「非難」と「直接的な断り」しかなく、この組合せが4回使用されている。全体的にみると延辺朝鮮語は「依頼・拒絶」の終わりで断り方がかなり直接的で、時によっては被依頼者の強硬な反応をみせて被依頼者が自ら諦めるように仕向けるストラテジーも使っている。

第七章 ストラテジーレベルからみた【再依頼部】の談話構造

7.0 はじめに

【再依頼部】では、最終的に被依頼者が依頼を「承諾」するにしても、その過程で「依頼」と「拒絶」の応答ペアが複数存在する場合が多い。【再依頼部】で「依頼・曖昧」の展開と「依頼・拒絶」の展開は応答ペアの形成過程に差異がないため^{注10}、一括して分析を進めていく。本章では「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」の2つの応答ペアを手がかりに、【再依頼部】の依頼談話を大きく「談話中で依頼を断られない展開」と「談話中で依頼を断られる展開」の2つに分けてストラテジーの特徴を考察する。

7.1 ではストラテジーの総数を両言語で比較して全体的な傾向を掴む。7.2 では拒絶直後の【再依頼部】の始まりに使用されたストラテジーをみる。7.3 では【再依頼部】における依頼の認定基準について説明する。7.4 では「談話中で依頼を断られない展開」における「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程を考察する。7.5 では「談話中で依頼を断られる展開」における「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」の応答ペアの形成過程と実質的な展開に寄与したストラテジーを考察する。7.6 では七章をまとめる。

7.1 ストラテジーの出現頻度

【再依頼部】の談話数は日本語が61、延辺朝鮮語が47である。表7-1は日本語と延辺朝鮮語の【再依頼部】に現れた各ストラテジーの出現頻度を示したものである。

表 7-1 【再依頼部】における両言語のストラテジーの出現頻度

日本語の依頼者のストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	56	92	6	64	22	—	240
1 会話平均	0.92	1.51	0.10	1.05	0.36	—	3.93
日本語の被依頼者のストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	98	67	44	8			217
1 会話平均	1.61	1.10	0.72	0.13			3.56
延辺朝鮮語の依頼者のストラテジー	A1	A2	A3	A4	A5	A6	合計
	50	71	7	47	9	33	217
1 会話平均	1.06	1.51	0.15	1.00	0.19	0.70	4.62
延辺朝鮮語の被依頼者ストラテジー	B1	B2	B3	B4			
	78	35	43	2			158
1 会話平均	1.66	0.74	0.91	0.04			3.36

まず、全会話中に使用されたストラテジーの総数をみると、日本語は 457 (1 会話あたり 7.49) で、そのうち依頼者が 240 (1 会話あたり 3.93)、被依頼者が 217 (1 会話あたり 3.56) となっている。延辺朝鮮語は総数が 375 (1 会話あたり 7.98) だが、そのうち依頼者が 217 (1 会話あたり 4.62)、被依頼者が 158 (1 会話あたり 3.36) となっている。両言語の【再依頼部】は全体的にストラテジーの総数と 1 会話平均使用数が【本用件部】より多く、ある限りのストラテジーが全て現れている。延辺朝鮮語は【本用件部】の承諾、曖昧、拒絶の 3 つの展開で何れの展開でも日本語よりストラテジーの使用が少なかったが、【再依頼部】では日本語と差が小さくなっただけでなく、日本語より 1 会話平均が多いストラテジーも現れた。そのうえ、1 会話で使用されたストラテジーの平均をみると差は大きくないが、延辺朝鮮語は 7.98 と日本語の 7.49 よりやや多い。【再依頼部】になると延辺朝鮮語も積極的に多量なストラテジーを使用するようになることが伺える。

次に、両言語で使用された各ストラテジーの中で、最も変化が大きいストラテジーは {A4: 負担感関連型} である。【本用件部】で A4 は「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」の何れの展開においても使用数が僅かだったが、【再依頼部】では両言語とも 1 会話平均使用数が 1 以上ある。初依頼で曖昧な態度と拒絶の態度が現れた後、再依頼の際には依頼することによって相手を感じる負担を減らそうとする傾向が見られる。

それから、個々のストラテジーを考察してみよう。日本語は A4、A5、B2、B4 の 1 会話平均が延辺朝鮮語より多い。延辺朝鮮語は A1、A3、B1、B3 の 1 会話平均が日本語よりやや多い。A2 は両言語で同数となっている。【本用件部】で延辺朝鮮語は「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」の 3 つの展開でも各ストラテジーの使用と 1 会話平均使用数が日本語を超えることはあまりなかったが、【再依頼部】となると日本語と差異が現れなくなっている。延辺朝鮮語は【本用件部】と【再依頼部】とでストラテジーの使用面で顕著な差異を見せていることが分かった。

それでは、両言語は【再依頼部】でどのような談話展開が繰り上げられるのか。7.2 と 7.3 で具体的に分析することにする。

7.2 【再依頼部】の始まり

7.2.1 拒絶直後の「受け止め」

【本用件部】が終わって【再依頼部】に入る際、両言語は曖昧直後と拒絶直後に何らかのストラテジーを用いることによって【再依頼部】に移行する。その中でよく取り上げられているのが、拒絶直後の {A5「9」: 对人的配慮型「受け止め」} である。例 7-1 に会話例を挙げる。下線部の部分が「受け止め」である。

例 7-1 日本語会話十五: [依頼者=J12 (30 歳、女性) 被依頼者=J11 (23 歳、女性)]

(中略)

- 初依頼 { 9AJ12: こうできたら手伝ってほしい。 {笑い}
- 断り { 10BJ11: で もさあ、自分でやったほうがいいよ、自分の力にもならないし。
11AJ12: うん、と思うんだけどー//、うん、
- 再依頼 { 12BJ11: 今度の文献はすごく長くて、以前よりすごく頑張ってるんだけど、
13AJ12: うん。
14BJ11: それでも終わりそうになくて、
15AJ12: うん。

例 7-11 では、依頼者が 9AJ12 で依頼をし、被依頼者が 10BJ11 で否定的な見解を表明している。それに対して依頼者は 11AJ12 「うん、と思うんだけどー//、うん、」と理解と共感を示すことで一旦拒絶を受け止める。このような発話を「受け止め」と呼ぶ。表 7-2 は「受け止め」のタイプと表現例をまとめたものである。

表 7-2 拒絶直後の「受け止め」のタイプと表現例

発話 番号	日本語		発話 番号	延辺朝鮮語	
	タイプ	表現例		タイプ	表現例
一	共感	そうね。	十	了解	그렇니? そう?
四	共感	でっかいよね、でっかいよね、でっかいんやけど、	十一	共感	돈 많지? お金多いよね?
十五	共感	うん、と思うんだけど//、	三十三	共感	응, 좀 많지! うん、ちょっと多いね!
二十	驚き	へえ、まじ。本当に?	四十	了解	그렇니? そう?
二十二	共感	ちょっと多いんだけど。			
二十三	共感	ああ、だよーねー?			
三十	了解	うん、そうか			
三十五	共感	大変なのは分かるんやけど、分かるけども、			
三十八	共感	～も生活あるもんなあ。			
五十四	驚き	まじ? ああー、			
六十三	了解	うん			
六十六	了解	うん			
六十九	共感	ええ、1万円って結構大きいね、額だよ。			

日本語は「受け止め」が拒絶直後に 11 会話見られ、延辺朝鮮語は拒絶直後に 1 会話見られた。「受け止め」が現れた会話が「依頼・拒絶」の展開における会話中に占める割合は日本語が 34.38%で、延辺朝鮮語は 3.70%となっている。「受け止め」のストラテジーを使用することは【本用件部】で被依頼者が発話した内容に関する関心と配慮を示すということである。それと反対に、「受け止め」のストラテジーの不使用は被依頼者の発話に無関心であると考えてもいい。「受け止め」の使用で日本人は 3 割少し超えており、日本人は親しい友達関係だと「受け止め」をする比率が絶対的に高いとは言えないが、延辺朝鮮族は 1 割にも達していないことから、延辺朝鮮語は親友に依頼を拒絶されても気にせずに続けて依頼をする傾向がはるかに強いことが分かった。徐(2008)は負担の大きい状況設定で大学の親友に授業の助けを依頼する場面を設定している。徐(2008)では【再依頼部】で 9 割の日本人が「受け止め」を使用し、台湾人日本語学習者と台湾人は日本人に比べて「受け止め」の使用がほぼ半分であると指摘している。本稿と違う結果が得られたが、日本語と中国語および日本語と延辺朝鮮語の差はやはり大きい。日本語は「共感」、「了解」、「驚き」のタイプを使っており、延辺朝鮮語は「共感」と「了解」のタイプを使っていることが分かる。

7.2.2 その他の始まり

表 7-3 に「受け止め」以外の両言語の曖昧直後と拒絶直後のストラテジーを示す。

表 7-3 「受け止め」以外の始まりに関するストラテジー使用の内訳

日本語			延辺朝鮮語		
発話番号	ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー	発話番号	ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー
二	A2	3	二	A6A1	12, 1
三	A2	3	三	A2A1	3, 1
五	A1	2	四	A1	2
六	A1	2	五	A4	8
七	A1	1	六	A1	2
八	A1	1	七	A1	1
九	A4	7	八	A2A1	3, 2
十一	A1A2	2, 3	十三	A6A4	12, 7
十二	A1A2	2, 3	十七	A2	3
十三	A4	8	十九	A2A1	12, 1
十四	B1	3	二十	A6A4	12, 7
十七	A1	2	二十二	A1	1
十八	A1	2	二十三	A4	8

二十一	A2	3	二十五	A4	7
二十四	A2	3	二十七	A6A4	12, 7
二十五	A1	2	二十八	A1A4	2, 8
二十七	A2	3	二十九	A1	2
二十九	A2	3	三十	B1	2
三十一	A4	7	三十一	B1	3
三十四	A4	7	三十四	A2A4	3, 7
三十六	A2	3	三十五	A3A1	6, 3
三十七	A2	3	三十七	A2A1A3	3, 1, 5
三十九	A1A4	2, 7	三十八	B1B1	2, 3
四十	A4	7	三十九	A2	4
四十二	A1	2	四十一	A6A1A4	12, 1, 8
四十三	A4A4	8, 7	四十二	A4	7
四十四	A4A1	8, 2	四十三	A6A2	12, 3
四十五	A4A1	8, 2	四十四	A6	11
四十六	A1	1	四十五	A6A2A1	12, 3, 1
四十七	A1	2	四十六	A6A2A1	12, 3, 1
四十八	A4	7	四十七	A2	3
四十九	A4A1	7, 1	四十九	A2	3
五十一	A1	2	五十	A6A1	12, 1
五十二	A4	7	五十四	A1	2
五十三	A2A1	3, 2	五十六	A6	12
五十五	A2	3	五十七	A1A4	2, 7
五十六	A1	2	五十八	A2A3A2	3, 6, 3
五十七	A2	3	六十	A4	8
五十八	B1	2	六十一	A4	7
五十九	B1	3	六十二	A4	7
六十	A2	3	六十三	A6A4A1	12, 7, 1
六十二	A2	3	六十五	B1	3
六十四	A4A2	7, 3	六十八	A4	7
六十五	A1	1			
六十八	B1	2			
七十	A4	7			

七十一	A4A4	7, 8			
七十三	A1	2			
出現数	組合せ		出現数	組合せ	
A1:21 A2:16 A4:15 B1:4	A1:14 A2:12 A4:8 B1:4 A4A1:3 A1A2:2 A4A4:2 A2A1:1 A1A4:1 A4A2:1		A1:19 A2:13 A3:3 A4:16 A6:12 B1:4	A1:6 A2:4 A4:8 A6:2 B1:4 A2A1:3 A6A4:4 A1A4:2 A6A2A1:2 A6A1:2 A3A1:1 A2A1A3:1 A6A1A4:1 A6A4A1:1 A2A4:1 A6A2:1 A2A3A2:1	
合計					
56	10 種類		67	17 種類	

両言語で使用されたストラテジーの総数は日本語が 56、延辺朝鮮語が 67 である。両言語には {A1:主張型(日:21、朝:19)} {A2:論理型(日:16、朝:13)} {A4:負担関連型(日:15、朝:16)} が多く使用されている。延辺朝鮮語はそれに加えて特に初依頼で断られた後、{A6:圧力型} を 12 回と多く使用するようになっている。日本語は単独ストラテジーの使用が複数ストラテジーの使用の 3 倍以上であるのに対して、延辺朝鮮語は単独ストラテジーと複数ストラテジーの使用がほぼ同数となっている。そして、ストラテジーの組合せ方は日本語が 10 種類、延辺朝鮮語は 17 種類ある。延辺朝鮮語は【再依頼部】の始まりでストラテジーの総数、個々のストラテジーの数が日本語より多く、ストラテジーの組合せ方も日本語より複雑である。両言語にはまた、【再依頼部】の始まりで {B1:積極型} の使用がそれぞれ 4 会話見られた。延辺朝鮮語会話三十、三十一、六十五では曖昧直後に使用され、会話三十八のみ拒絶直後に使われた。日本語会話十四、五十八、五十九、六十八では 4 会話とも曖昧直後に使われている。曖昧直後の B1 は被依頼者が〈交渉の話段〉で先に積極的に交渉を持ち出す場合、拒絶直後の B1 は被依頼者が初依頼で依頼を断った後自ら【再依頼部】で態度を変えた場合に使われている。会話例 7-2 と例 7-3 に示す。

例 7-2 日本語会話十四：〔依頼者＝J12 (30 歳、女性) 被依頼者＝J11 (23 歳、女性)〕
(中略)

10BJ11: 必ず返してくれる?

11AJ12: うん、必ず返す。

12BJ11: ああ、仕様がないなあー、じゃあ、1万円貸してあげる。

〈交渉の話段〉の最初に被依頼者が{B1「3」:積極型「新情報を要求する発話」}10BJ11「:必ず返してくれる?」と聞いて、11AJ12「うん、必ず返す」と保障のストラテジーを使用する。こうして被依頼者は最終的に依頼を受け入れる。

例 7-3 延辺朝鮮語会話三十八: [依頼者=K35 (22歳女性) 被依頼者=K36 (22歳女性)]

(中略)

6BK36: 그래 아버지가 말할까? 그래 언제 주개?

じゃ、お父さんに言ってみようかな?いつ返してくれる?

7AK35: 3일 후에 널 줄게。

3日後に返してあげる。

8BK36: 응, 알았다. 그럼 내 쪼끔 있다 같이 가자。

うん、分かった。じゃ、ちょっと後で一緒に行こう。

上の例で、被依頼者は【本用件部】で依頼を断った後、【再依頼部】で最初にターンを取って、6BK36「그래 아버지가 말할까? 그래 언제 주개?じゃ、お父さんに言ってみようかな?いつ返してくれる?」と{B1B1「2,3」:積極型「承諾に有利な発話を含む発話、新情報を要求する発話」}の複数ストラテジーを使用する。依頼者が7AK35「3일 후에 널 줄게。3日後に返してあげる。」と情報を提供すると被依頼者は依頼を承諾する。このように被依頼者が自ら積極的な態度を取ると依頼は成功しやすくなる。以上【再依頼部】の始まりに使われたストラテジーを論じた。7.3以降では【再依頼部】の核心的な部分に触れる。

7.3 発話内行為としての依頼の認定

依頼という言葉行動は依頼の定型表現や依頼遂行の動詞が含まれたものだけではない。語用論的観点からみて一見依頼と関係がなさそうな表現であっても場合と状況によっては依頼の意志を伝えることが多々ある。7.4と7.5に入る前に本研究では、【再依頼部】で依頼者が行う発話内行為としての依頼の認定基準について説明を行う。本研究では依頼者が依頼の意志を伝え、被依頼者がそれを依頼行為として反応して依頼談話を展開した場合、依頼者の発話を発話内行為としての「依頼」と認定する。7.4と7.5では発話内行為としての依頼の認定に基づき、分析を進めることにする。本調査で現れた依頼の発話内行為としての依頼発話には「情報提供」、「親密」、「負担感の軽減」、「共感」、「保障」、「強要」、「補償」のようなストラテジーがあった。例7-4～例7-10にこれらの例を挙げておく。

例 7-4: 요즘에 살지 못한다. 어찌니?

最近生きていけない。どうしよう? 情報提供 (延辺朝鮮語会話四十七: 5AJ31)

例 7-5: もう、何か J20 以外に頼れる人いないんよ。 親密 (日本語会話二十三: 25AJ19)

例 7-6: ちょっと、一緒に考えよう? 負担感の軽減 (日本語会話五十二: 7AJ46)

例 7-7: 돈 많지? お金多いよね? 共感 (延辺朝鮮語会話十一: 3AK57)

例 7-8: 응。내일에 돌려줄게。

うん。明日返してあげる。 保障 (延辺朝鮮語会話六十一: 3AK57)

例 7-9: 아무리 그래두 내 부탁하재니? 그래 그냥 한 어떻게 100 원만 어떻게?

それはそうだけど頼んでいるんじゃないか? 100 元だけじゃ駄目だろう?

強要 (延辺朝鮮語会話六十一: 3AK57)

例 7-10: 응、근데 공짜는 안 바랄게。 밥 사줄게。

うん、ただじゃないよ、ご飯奢ってあげる。 補償 (延辺朝鮮語会話六十: 6AK55)

7.4 談話中で依頼を断られない展開

「談話中で依頼を断られない展開」は日本語に 34 会話、延辺朝鮮語に 27 会話ある。「談話中で依頼を断られない展開」とは、依頼者が【再依頼部】再依頼をして、被依頼者に断られることがなく、承諾に至るケースである。一言でいうと、【再依頼部】に拒絶が入っていない展開のことである。この展開で被依頼者は中立的な態度か積極的な態度の 2 つの態度を取るの一般的なものである。7.4 では「依頼」と「承諾」を応答ペアと見做し、その形成過程で使われたストラテジーを考察する。

7.4.1 隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」

このパターンは日本語に 9 会話、延辺朝鮮語に 7 会話見られた。表 7-4 は隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」の展開に使われたストラテジーの内訳である。

まず、両言語の「依頼」に使われたストラテジーをみてみよう。全体的に日本語は 3 種類のストラテジーを使っていて 4 種類のストラテジーの組合せ方があった。単独ストラテジーが 9 会話中 8 会話に用いられ、複数ストラテジーは 1 会話にしか現れていない。

単独ストラテジーで、日本語は {A1:主張型} が 5、{ A4:負担感関連型} が 2、{A2:論理型} が 1 現れ、複数ストラテジーは {A4A1:負担関連型、主張型} の 1 会話だけである。延辺朝鮮語は全体的に 5 種類のストラテジーが使われ、7 種類のストラテジーの組合せがあって会話ごとに異なる組合せを使用している。単独ストラテジーが 7 会話中 3 会話に用いられ、複数ストラテジーが 4 会話用いられている。単独ストラテジーで、延辺朝鮮語には A4、A1、{A5:对人的配慮型} が各 1 現れている。複数ストラテジーでは、{A6A1:圧力型、主張型} {A6A4:圧力型、負担感関連型} {A2A4:論理型、負担感関連型} {A1A4:主張型、負担感関連型} が用いられて

表 7-4 談話中で依頼を断られない展開：隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」

会話番号	日本語の談話展開	会話番号	延辺朝鮮語の談話展開
三十一	「A4-B1」 「7- <u>1</u> 」	二	「A6A1-B1」 「12, 1- <u>1</u> 」
三十四	「A4-B1」 「7- <u>1</u> 」	十一	「A5-B1」 「9- <u>2</u> 」
四十二	「A1-B1」 「2- <u>1</u> 」	二十七	「A6A4-B1」 「12, 7- <u>2</u> 」
四十五	「A4A1-B1」 「8, 2- <u>1</u> 」	三十四	「A2A4-B1」 「3, 7- <u>1</u> 」
四十七	「A1-B1」 「2- <u>2</u> 」	五十四	「A1-B1」 「2- <u>1</u> 」
五十六	「A1-B1」 「2- <u>2</u> 」	五十七	「A1A4-B1」 「2, 7- <u>1</u> 」
五十七	「A2-B1」 「3- <u>1</u> 」	六十一	「A4-B1」 「7- <u>1</u> 」
六十五	「A1-B4B1」 「1- <u>12</u> , <u>1</u> 」		
七十三	「A1-B1」 「2- <u>1</u> 」		

いる。承諾のやり方で日本語は「1：承諾」が6、「2：承諾に有利な情報を含む発話」が2、「12, 1：対人的配慮の発話、承諾」が1会話に現れている。延辺朝鮮語は「1：承諾」が5、「2：承諾に有利な情報を含む発話」が2会話に現れている。

以上をまとめると次のようである。両言語は【再依頼部】で情報を提供することが少なく、相手の負担を少しでも減らして依頼成功の目的を達成しようとする面で似ている。しかし、依頼の仕方が異なっている。日本語は{主張型}と{負担感関連型}を単独または組合せて再依頼をしているのに対して、延辺朝鮮語は相手の負担を軽減しようとしたり圧力をかけたりして多様なストラテジーを使用して再依頼をする。隣接応答ペアで被依頼者は明確に承諾の意思を表明する点で同じだが、日本語にはそれに加えて対人的配慮のストラテジーが見られている。例 7-11 と例 7-12 に両言語で現れた隣接応答ペアを挙げる。

例 7-11: 日本語会話六十五：〔依頼者＝J55（19歳、女性）被依頼者＝J56（19歳、女性）〕
（中略）

3AJ55: 10 頁書いてくれない?

4BJ56: やあ、大変だから、いいよ。

例 7-11 で依頼者は 3AJ55 「10 頁書いてくれない?」と直接に依頼をする。それに対して、被依頼者は 4BJ56 「やあ、大変だから、」と依頼者の立場を配慮してから「いいよ。」と承諾をする。例 7-12 には発話内行為としての依頼が現れている。依頼者は「直接依頼」ではなく「情報提供+保障」という発話内行為で再依頼の意思を伝えている。依頼者は 3AK31 「한 2.3 일후이면 우리엄마 돈이 올게. 돈 오면 인차 돌려줄게. 2, 3 日後になるとお母さんから仕送りが来る。お金来たらすぐ返してあげる。」と言って仕送りが来る期日に関する「情報提供」をした後、借りたお金をすぐ返すことを「保障」する。それに対して、被依頼者は 4BK32 で「承諾」をする。

例 7-12: 延辺朝鮮語会話三十四: [依頼者=K31 (23 歳女性) 被依頼者=K32 (23 歳、女性)]
(中略)

3AK31: 한 2.3 일후이면 우리엄마 돈이 올게. 돈 오면 인차 돌려줄게.

2, 3 日後になるとお母さんから仕送りが来る。お金来たらすぐ返してあげる。

4BK32: 응, 된다.

うん、いいよ。

7.4.2 承諾を保留する挿入発話連鎖

このパターンは日本語に 23 会話見られ、延辺朝鮮語に 15 会話見られた。応答を保留する挿入発話連鎖とは、「依頼」と「承諾」の応答ペアが隣接しない場合、「依頼」と「承諾」の間にまったく別の応答ペアが挿入されたり、会話参加者の依頼に関するやり取りの発話連鎖が挿入されたりする展開である。この展開は両言語ともに最も多かった談話展開である。

7.4.2 では被依頼者の態度を手がかりに「応答を保留する挿入発話連鎖」を「積極的な態度が現れた後の依頼」と、「曖昧な態度が現れた後の依頼」に分けて分析する。まず、【再依頼部】で依頼者が発した発話内行為としての「依頼」にはどのようなストラテジーが使われたかを分析する。

7.4.2.1 「依頼」に使用されたストラテジー

表 7-5 は【再依頼部】の最初に発話された、依頼者の依頼のストラテジーを示している。

【再依頼部】の始めで、両言語(日: 9 種類、朝: 10 種類)は多種多様な始まり方をし、ストラテジーの型を何でも使おうとする点で同様である。日本語で最も多く出現した型は {A2: 論理型} {A4: 負担感関連型} が各 9 で、次に {A1: 主張型} が 7 と数が多い。延辺朝鮮語は A1 が 9 と最も多く、次に A4 が 5 と数が多い。また、両言語には片方の言語だけに見

表 7-5 談話中で依頼を断られない展開「応答を保留する挿入発話連鎖」：依頼

会話番号	日本語の談話展開		会話番号	延辺朝鮮語の談話展開	
	ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー		ストラテジーの型	発話機能タイプのストラテジー
一	A5A1	9, 1	四	A1	2
四	A2	3	六	A1	2
五	A1	2	七	A1	1
六	A1	2	十三	A6A4	12, 7
十二	A1A2	2, 3	二十二	A1	1
二十二	A1	2	二十五	A4	7
二十三	A3	5	二十八	A1A4	2, 8
三十	A4A1	8, 1	二十九	A1	2
三十五	A3	5	三十五	A3A1	6, 3
三十六	A2	3	三十七	A2A1A3	3, 1, 5
三十七	A2	3	四十	A1A4	2, 7
四十三	A4A4	8, 7	四十四	A6A3	12, 5
四十八	A4	7	四十七	A2	3
四十九	A4A1	7, 1	五十八	A2A3A2	3, 6, 3
五十二	A4	7	六十	A4	8
五十四	A2	3			
六十	A2	3			
六十三	A2	3			
六十四	A4A2	7, 3			
六十六	A4	8			
六十九	A2	3			
七十	A4	7			
七十一	A4A4	7, 8			

られたストラテジーがあった。日本語のみに使用されたのは {A5:対人的配慮型} で、延辺朝鮮語のみに使用されたのは {A6:圧力型} である。

日本語で最も多い始まり方は {A4:負担感関連型} を単独で使用したり、複数ストラテジーを組合せたりしたのが9会話に見られた。次に、多いのが {A2「3」:論理型「情報提供」} と {A1:主張型} の使用で、これらを単独ストラテジーとして使ったり複数ストラテジーを組合せたりしたのが7会話に見られている。延辺朝鮮語で最も多い始まり方はA1とA4が含

まれたストラテジーである。両言語のみに現れた特徴的な始まり方としては、日本語には A5A1 があり、延辺朝鮮語には A6A3 と A6A4 がある。{A5A1} の「配慮発話、直接依頼」は日本語会話一の 12AJ3 「ああ、そうか。じゃあ、3000 円借りてもいいかなあ。」、{A6A3} の「加圧、依存」は延辺朝鮮語会話四十四の 8AK41 「야-? 뭐 좀 나 지금 빌릴데 다 빌려봐서 누구도 다 안 빌려준다. おい-?なんかちょっと貸せる人にはひととおり借りてみたので誰も貸してくれないのよ。」、{A6A4 「12, 7」 : 「加圧、保障」} は延辺朝鮮語会話十三の 3AK15 「: 아-? 내 우리엄마 돈 부치면 널 돌려줄게. あ-?お母さんが送ってくれたら返してあげるよ。」というものである。以上、「応答を保留する挿入発話連鎖」における始まり方をみた。

7.4.2.2 積極的な態度か配慮が現れた後の依頼

このパターンは日本語に 11 会話、延辺朝鮮語に 7 会話現れた。積極的な態度か配慮が現れた後の依頼とは、【再依頼部】で依頼者が依頼の意思を伝えてから、被依頼者が {B1:積極型} か {B4:対人的配慮} の反応を示した後の依頼の段階を指す。B1 には「2:承諾に有利な情報を含む発話」と「3:新情報を要求する発話」が、B4 には「12:配慮発話」が使われている。被依頼者が 2、3、12 の反応を見せても依頼が成功したことになるので、依頼者は続けて被依頼者に働きかけ、承諾を得なければならない。それでは、どのような展開が繰り返られているのか、表 7-6 を参照されたい。

まず、被依頼者の態度に使われたストラテジーをみると、日本語は 11 会話中 B1 の「2:承諾に有利な情報を含む発話」が 9 会話、B1 の「3:新情報を要求する発話」が 1 会話、B4 の「12:配慮発話」が 1 会話あった。延辺朝鮮語は 7 会話中 B1 の「3:新情報を要求する発話」

が 4 会話、B1 の「2:承諾に有利な情報を含む発話」が 2 会話、B1 の「2、3:承諾に有利な情報を含む発話、新情報を要求する発話」が 1 会話あった。日本語は「承諾に有利な情報を含む発話」で積極的な態度を示すことが多いが、延辺朝鮮語は「新情報を要求する発話」で積極的な態度を示すことが多い。

次は、被依頼者が積極的な態度と配慮の態度をみせた後の依頼者の働きかけをみる。

日本語は {A4:負担関連型} が 5、{A1:主張型} と {A2:論理型} が各 4、{A3:正当型} と {A5:対人的配慮型} が各 1 回使用されている。延辺朝鮮語は A2 が 6、A1 が 2、A6 と A5 が各 1 使用されている。単独ストラテジーをみると日本語は A4 が 4 会話に、A2 が 3 会話に、A1 が 2 会話に使用されているが、延辺朝鮮語は A2 が 4 会話に、A1 が 1 会話に現れている。

複数ストラテジーをみると、日本語は {A3A5:正当型、対人的配慮型} {A2A4:論理型、負担感関連型} {A1A1:主張型、主張型} が各 1 会話に見られ、延辺朝鮮語は {A2A1:論理型、主張型} {A2A6A5:論理型、圧力型、対人的配慮型} {A6A3:圧力型、正当型} が各 1 会話に見られた。延辺朝鮮語会話三十七では被依頼者が積極的な態度を示したにも関わらず、{A6:

表 7-6 談話中で依頼を断られない展開：積極的な態度か配慮が現れた後の依頼

会話 番号	日本語の談話展開		会話 番号	延辺朝鮮語の談話展開	
	B1 か B4	依頼		B1 か B4	依頼
六	B1 2	「A3A5-B1」 「6, 10-1」	四	B1 3	「A2-B1」 「3-1」
二十二	B1 2	「A2-B1」 「3-1」	六	B1 3	「A2-B1」 「3-1」
二十三	B1 2	「A2A4-B1」 「3, 8-2」	七	B1 3	「A2A1-B1」 「3, 1-1」
三十	B1 2	「A4-B1」 「7-1」	十三	B1 2	「A2-B1」 「3-1」
三十五	B1 2	「A2-B1」 「4-2」	二十五	B1B1 2, 3	「A2-B1」 「3-1」
四十三	B1 3	「A4-B1」 「7-1」	三十七	B1 3	「A2A6A5-B1」 「3, 11, 10-1」
四十八	B1 2	「A1A1-B4B1」 「1, 2-12, 1」	四十四	B1 2	「A1-B1」 「2-2」
四十九	B1 2	「A2-B4」 → 「A4-B1」 「3-12」 → 「7-1」			
五十二	B1 2	「A1-B1」 「2-1」			
六十三	B1 2	「A4-B1」 「7-1」			
六十四	B4 12	「A1-B1」 「1-1」			

圧力型} を使用している。この会話で使用された A6 をみると、延辺朝鮮語会話三十七で 6AK33 「전번의 그정도께! 그리구 시간은 좀 뻗뻗하다. 니 할걸루 믿는다. 감사하다응? この前の程度ぐらいよ!そして時間はちょっときつい。あなたがやってくれると信じている。ありがとうね?」と「情報提供」をしてから、「承諾強要」を用い、「対人的配慮」の内容を発している。積極的な態度が現れた後の依頼の展開の例を例7-13と例7-14に挙げておく。

例 7-13 日本語会話二十三：〔依頼者＝J19（21 歳、男性）被依頼者＝J20（23 歳、男性）〕
（中略）

26BJ20: うん、そうか。そう言われるとなあ、うん、ちょっとすぐにはできんかもしれんけど、いいかなあ。

27AJ19: はい、もう全然いいよ。お礼はするよ。

28BJ20: {笑い}とりあえず、やりおってみるね。

被依頼者が26BJ20「うん、そうか。そう言われるとなあ、うん、ちょっとすぐにはできんかもしれんけど、いいかなあ。」と積極的な態度をみせると、依頼者は27AJ19「はい、もう全然いいよ。」と翻訳の時間は気にしなくていいことの「情報提供」をして答えた後、「お礼はするよ。」と言って、{負担感関連型}の「補償」のストラテジーを使用して、最後に被依頼者が依頼を受け入れる。例7-14では、依頼者が3AK9「열페이지다. 10頁。」と間接的に依頼をして、被依頼者が4BK10「언제쯤이면 되야? いつごろまででいい?」と「新情報を要求する」ストラテジーを用いて曖昧な態度を示す。その要求に対して依頼者は5AK9「다음주. 그림 수고해라. 来週. じゃ、お願い。」と「情報提供」と「依頼」のストラテジーを言って会話は終了する。

例7-14 延辺朝鮮語会話七: [依頼者=K9 (21歳、男性) 被依頼者=K10 (21歳、男性)]
(中略)

3AK9: 열페이지다.

10頁。

4BK10: 언제쯤이면 되야?

いつごろまででいい?

5AK9: 다음주. 그림 수고해라.

来週. じゃ、お願い。

「積極的な態度か配慮の態度が現れた後の依頼」で被依頼者は日本語では「承諾に有利な情報を含む発話」が多く、延辺朝鮮語では「新情報を要求する発話」のストラテジーで積極的な態度を示すことが多かった。「对人的配慮」は日本語の被依頼者のみ使用した。依頼者の使用するストラテジーについては以下のようにまとめることができる。日本語は被依頼者が積極的な態度や配慮の態度をみせた後も使えるストラテジーを複数使うより単独ストラテジーを多く使用しようとする傾向がある。延辺朝鮮語は被依頼者の「新情報を要求する発話」に対して「情報提供」を行うだけで、日本語のように積極的に依頼を行うことはなかった。すなわち、日本語では被依頼者が「積極的な態度」と「配慮」の態度を示しても依頼が成功するのは完全に決まっているわけではないと思われるので、依頼者は積極的に様々なストラテジーを駆使して完全に承諾を得るように働きかけるが、延辺朝鮮語では被依頼者が「積極的な態度」を取ったことはほぼ依頼が成功したことと同じで、被依頼者の気になることに関する質問に対して答えればよいと思われるので、余計な依頼を続けないのが一般的のようである。

7.4.2.3 曖昧な態度が現れた後の依頼

このパターンは日本語に12会話、延辺朝鮮語に8会話現れた。曖昧な態度が現れた後の依頼とは、【再依頼部】で依頼者が依頼の意思を伝えてから、被依頼者が{B2:中立型}の反応を示した後の依頼の段階を指す。

表 7-7 談話中で依頼を断られない展開:曖昧な態度が現れた後の依頼の内訳

会話 番号	日本語の談話展開		会話 番号	延辺朝鮮語の談話展開	
	B2	依頼者ストラテジー		B2	依頼者ストラテジー
一	4	「A2-B2」 → 「A5-B1」 「3-4」 → 「10-1」	二十二	7	「A1A2-B1」 → 「A1-B1」 「2, 3-2」 → 「1-1」
四	6	「A4-B2」 → 「A2-B2」 → 「A2-B2B2」 → 「A2-B4B1」 「7-4」 → 「3-6」 → 「3-6, 5」 → 「3-12, 2」	二十八	5	「A2-B1」 「3-1」
五	5	「A2-B1」 「3-1」	二十九	7	「A4-B2」 → 「A2-B1」 「8-5」 → 「3-1」
十二	6	「A4-B2」 → 「A4-B1」 「7-6」 → 「7-1」	三十五	4	「A4-B1」 「8-1」
三十六	4	「A4-B1」 「7-1」	四十	5	「A2A4-B1」 → 「A4-B1」 「3, 7-3」 → 「7-1」
三十七	4	「A2-B5」 → 「A2-B2」 → 「A2-B1」 「3-5」 → 「3-6」 → 「3-1」	四十七	5	「A2-B1」 「3-1」
五十四	6	「A2-B1」 「3-1」	五十八	5	「A2-B2」 → 「A4-B1」 「A6A3-B1」 → 「A2-B2」 → 「A2-B1」 「3-5」 → 「8-2」 「12, 5-2」 → 「3-6」 → 「4-1」
六十	6	「A4-B1」 「7-1」	六十	7	「A2-B2」 → 「A2-B2」 → 「A6A4A1-B1」 「4-5」 → 「3-4」 → 「12, 8, 2-1」
六十六	4	「A4A1-B1」 「8, 1-1」			
六十九	6	「A2-B4」 → 「A2-B1」 → 「A4-B2」 → 「A4A4-B2」 → 「A4-B2」 「3-12」 → 「3-2」			

		→「7-6」→「7, 8-4」→「8-4」			
七十	4	「A4-B1」 「7-1」			
七十一	6	「A2-B2」→「A2-B1B1」 「3-4」→「3-1, 2」			

まず、被依頼者の態度に使われたストラテジーをみると、日本語は12会話中B2の「6: 相槌・継続・共感」が6会話、「4: 相手の発話を確認・復唱」が5会話、「5: 詳しい情報を要求/提供」が1会話あった。延辺朝鮮語は7会話中B2の「5: 詳しい情報を要求/提供」が4会話、「7: 思案・曖昧」が3会話、「4: 相手の発話を確認・復唱」が1会話あった。日本語は「相槌・継続・共感」と「相手の発話を確認・復唱」が多いが、延辺朝鮮語は「詳しい情報を要求/提供」と「詳しい情報を要求/提供」で曖昧な態度を示している。

次は、被依頼者が曖昧な態度をみせた後の依頼者の働きかけをみる。日本語は{A4: 負担関連型}が11、{A2: 論理型}が13、{A1: 主張型}と{A5: 对人的配慮型}が各1回使用されている。日本語でA4は7会話に11回使用され、内容は「7: 負担感の軽減」が8回、「8: 負担感の埋め合わせ」が3回用いられている。また、日本語でA2が7会話に13回見られ、内容が「3: 情報提供」のみとなっている。延辺朝鮮語は{A2: 論理型}が10、{A4: 負担感関連型}が6、{A1: 主張型}が3、{A6: 圧力型}が2、{A3: 正当型}が1使用されている。複数ストラテジーをみると、日本語は{A4A1}と{A4A4}が各1会話に見られ、延辺朝鮮語は{A1A2}、{A6A4A1}、{A6A3}、{A2A4}が各1会話に見られている。

「曖昧な態度が現れた後の依頼」の展開で被依頼者が曖昧な態度を示すのに使ったストラテジーは、日本語では「相槌・継続・共感」と「相手の発話を確認・復唱」が、延辺朝鮮語では「詳しい情報を要求/提供」と「思案・曖昧」が多かった。依頼者の使用するストラテジーの使用に関しては、両言語は依頼者ストラテジーの使用において、特定のストラテジーに集中する傾向が見られた。両言語は「情報提供」を何れの会話でも使用していて、{負担感関連型}のストラテジーは半数以上の会話で単独または複数で使用されている。

7.4.3 被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合

このパターンは日本語に2会話、延辺朝鮮語に5会話あった。被依頼者が【再依頼部】を切り出した談話展開とは、【本用件部】で被依頼者の曖昧な態度か拒絶の態度が出た後、【再依頼部】で依頼談話が続く場合である。この展開は「依頼・曖昧」の後の【再依頼部】で現れることが多かった。延辺朝鮮語会話三十八だけ「依頼・拒絶」の後の【再依頼部】で現れている。表7-8は被依頼者が【再依頼部】を切り出す展開における内訳を示したものである。

表 7-8 談話中で依頼を断られない展開:被依頼者が【再依頼部】を切り出す内訳

会話番号	日本語の談話展開	会話番号	延辺朝鮮語の談話展開
十四	「B1-A4」→B1 「3-7」→1	三十	「B1-A2」→B1 「2-4」→2
五十八	「B1-A2」→B2→A4→B1 「2-3」→4→7→1	三十一	「B1-A2A4A1」→B1 「3-3, 8, 1」→1
		三十三	「B1-A2」→B1 「3-3」→1
		三十八	「B1B1-A4」→B1 「2, 3-3」→1
		六十五	「B1-A2A6」→B1 「3-3, 12」→2

被依頼者が【再依頼部】を切り出す戦略は両言語とも{B1:積極型}の「2: 承諾に有利な情報を含む発話」「3: 新情報を要求する発話」となっている。まず、日本語のほうをみる。日本語会話十四では「必ず返してくれる?」、日本語会話五十八では「絶対1万円じゃないと駄目? 3000円とかは駄目?」という質問文になっていて依頼を受け入れる姿勢が見えている。この2会話で被依頼者の質問に対して依頼者は「7:保障」の「うん、必ず返す。」「3: 情報提供」の「絶対1万円じゃないといけないのよ。」と応答する。日本語会話十四ではそのまま被依頼者が承諾をするが、日本語会話五十八では例7-15のようなやり取りが続く。依頼者の絶対1万円ではないといけない言葉に、依頼者は被依頼者に13BJ52「1万円か。」と曖昧な態度を取られるが、依頼者は14AJ51「倍返します。」とA4の「8:補償」することで相手を感じる負担感を埋め合わせようとしている。それで被依頼者は依頼を受け入れる。

例 7-15 日本語会話五十八: [依頼者=J51 (21歳、女性) 被依頼者=J52 (22歳、女性)]
(中略)

11BJ52: 絶対1万円じゃだめ? 3000円とかは駄目?

12AJ51: 絶対1万円じゃいけないのよ。

13BJ52: 1万円か。

14AJ51: 倍返します。

15BJ52: {笑い} じゃあ、うん、いいよ。

次は、延辺朝鮮語を考察する。延辺朝鮮語会話三十では「지금 현금은 없다. 카드에 돈이 있는데, 今現金がないよ。カードにお金があるんだけど、」、会話三十一では「많니? 多い?」、

会話三十三では「언제까지 하문 되니? いつまでやればいい?」、会話三十八では「그래 아버지까 말할가? 그래 언제 주개? じゃ、お父さんに言ってみようかな? いつ返してくれる?」、会話六十五では「무슨 내용이길래? どんな内容なの?」と依頼を受け入れる姿勢になって「新情報を要求」したり、「承諾に有利な情報を含む発話」を言ったりする。これらの質問に対して、依頼者は「그럼 날 언제 꺼내줄수 있니? じゃ、いつ下ろしてくれる?」、「응-, 이번에 한 십 십페지될게. 아-, 내맛있는거사줄게. 해달라. うん-, 今回は10頁ぐらい. あ-, 美味しいもの買ってあげるから、やってくれ。」「될수록 빨리. できるだけ速く。」、「3일 후에 널 줄게. 3日後に返す」「모른다. 영어를 있재-, 번역해서 뭐 어떻게 하는게 아-, 모르겠다. 分かん。英語をねえ-, 訳して何かするんだけど、あ-, 分からない。」と答える。最終的に依頼者は被依頼者から承諾を引き出すことに成功する。

【本用件部】で依頼者は被依頼者に曖昧な態度や拒絶の態度を取られても、【再依頼部】で被依頼者が自らすぐ態度を取り直して積極的な態度を取る場合、依頼は成功しやすくなる。被依頼者は【再依頼部】を切り出す時に、{積極型}の「承諾に有利な情報を含む発話」と「新情報を要求する発話」を質問文で積極的な態度を表し、被依頼者がイニシアティブを取っている。依頼者はそれに対して「情報提供」をしたり、「負担感の軽減」や「負担感の埋め合わせ」のストラテジーを使用したりして最後に承諾を得る。

7.4.4 日本語と延辺朝鮮語の比較

この節では「談話中で依頼を断られない展開」について両言語で比較してまとめる。7.4で「談話中で依頼を断られない展開」を「隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」「応答を保留する挿入発話連鎖」「被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合」の3つに分けて分析した結果、以下のようなことが明らかになった。

(1) 隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」

日本語は{A4:負担感関連型}{A1:主張型}{A2:論理型}の3種類のストラテジーを使用して4種類のストラテジーの組合せ方があった。単独ストラテジーが9会話中8会話に使われ、A1が最も多く、次にA4が多く、A2は1会話にしか使われていない。複数ストラテジーはA4A1のみである。延辺朝鮮語は日本語に出た{型}以外に{A5:对人的配慮型}と{A6:圧力型}も使用し、7会話は会話ごとに組合せが異なっている。

両言語で依頼者は「情報提供」が少なく、相手の負担を少しでも減らして依頼成功の目的を達成しようとする面では同じである。しかし、依頼の仕方が異なっている。日本語は{主張型}と{負担感関連型}のストラテジーに使用が集中しているのに対して、延辺朝鮮語はストラテジーの組合せを多様に駆使して再依頼を行っている。両言語は被依頼者がはっきりと承諾

の意を表明する点で同様に日本語はまた承諾と対人的配慮を同時に使用するものが見られた。

(2) 応答を保留する挿入発話連鎖

この展開で両言語は被依頼者が【再依頼部】で取る初反応「積極的な態度か配慮の態度」と「曖昧な態度」とで展開に差異が見られた。

「積極的な態度か配慮の態度が現れた後の依頼」で被依頼者ストラテジーは次のようである。日本語は「承諾に有利な情報を含む発話」が多く、延辺朝鮮語は「新情報を要求する発話」が多かった。「対人的配慮」は日本語の被依頼者のみに使用されていた。依頼者ストラテジーの使用をみると、日本語は使えるストラテジーを何でも使おうとして主に単独ストラテジーを多用する傾向がある。延辺朝鮮語は被依頼者の「新情報を要求する発話」に答えるだけで、日本語のように積極的に依頼を行っていない。日本語では被依頼者が「積極的な態度」と「配慮」の態度を示しても依頼が成功するのは完全に決まっているわけではないと思われるが、延辺朝鮮語では被依頼者が「積極的な態度」を示すことを依頼がほぼ達成できたと思ってそれ以上依頼を続けていない。

「曖昧な態度が現れた後の依頼」の展開で日本人の被依頼者は「相槌・継続・共感」と「相手の発話を確認・復唱」が、延辺朝鮮族の被依頼者は「詳しい情報を要求/提供」と「思案・曖昧」が多かった。依頼者の使用するストラテジーの使用に関して、両言語は「情報提供」を何れの会話でも使用していて、{負担感関連型}のストラテジーは半数以上の会話で単独または複数で使用されている。

(3) 被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合

被依頼者が【再依頼部】を切り出す展開は日本語に2会話、延辺朝鮮語に5会話あった。被依頼者がイニシアティブを取って積極的な態度を取っているため、依頼は成功しやすくなる。被依頼者は「承諾に有利な情報を含む発話」と「新情報を要求する発話」を質問型で表現している。依頼者はそれに対して「情報提供」をしたり、{負担感関連型}のストラテジーを使用したりして依頼を成功へと展開させる。

7.5 談話中で依頼を断られる展開

「談話中で依頼を断られない展開」は日本語に27会話、延辺朝鮮語に20会話ある。「談話中で依頼を「断られる展開」とは、再依頼が1回以上現れたケースで、【再依頼部】で「依頼」と「拒絶」の応答ペアが最低1回出現するが、最終的に依頼が成功するケースである。一言でいうと、【再依頼部】で一旦拒絶が入った展開のことである。この展開で被依頼者は積極的な態度、中立的な態度、消極的な態度の3つの態度を取る。本研究のロールプレイでは、依頼側に「相手があなたの依頼を承諾しなくても根気強く続けて頑張って頼んでください。」そ

して、被依頼者側には「少なくとも一度は相手の依頼を断ってください。もし、相手が根気強く依頼を続けたら、その時は、仕方なく承諾するか最後まで断るか自由に決めてください」と指示したため、1つの会話に「依頼」と「拒絶」の応答ペアが複数存在する。7.5では主に応答ペアを形成する「依頼」と「拒絶」を手がかりに両言語でそれぞれ期待される会話展開パターンを探ることにする。応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」は分析・記述の際に、1つの会話に隣接ペアとしての「依頼」と「拒絶」も拒絶を保留する挿入発話連鎖も何度か現れるので、同じ会話が7.5.1と7.5.2の2つの節で同時に論じられることがある。

{B3:消極的な態度}の発話数を調べたところ、日本語の44に対し、延辺朝鮮語は43観察され、平均すると1会話につき、日本語では1.63回、延辺朝鮮語では2.15回という結果となった。7.5では「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」の2つの応答ペアの形成過程とその過程を実現するためのストラテジーを考察する。

7.5.1 隣接応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」

「依頼」と「拒絶」は応答ペアを形成する。そしてこれらは隣接して現れる場合もあれば、離れて現れる場合もある。このパターンは日本語で22会話にみられ、延辺朝鮮語で17会話に見られた。【再依頼部】で被依頼者が拒絶を数回する場合、1つの会話に隣接ペアとしての「依頼」と「拒絶」が複数回出ることがある。

表7-9は「依頼」と「拒絶」の応答ペアが隣接している場合のストラテジーの内訳を示している。依頼者の依頼で日本語は5種類のストラテジーを使用して9種類のストラテジーの組合せが現れた。{A2:論理型}が13、{A1:主張型}が12、{A4:負担感関連型}が4、{A3:正当型}が3、{A5:対人的配慮}が1回使用されている。単独ストラテジーはA1とA2が9、A3とA4が2、A5が1会話に見られた。複数ストラテジーは{A1A2}、{A1A4}、{A2A1}、{A2A2}が各1会話に使用されている。延辺朝鮮語は5種類のストラテジーを使用して12種類のストラテジーの組合せが現れている。{A2:論理型}が18、{A1:主張型}が10、{A4:負担感関連型}と{A6:圧力型}が各8、{A5:対人的配慮型}が2回使用されている。単独ストラテジーは{A2:論理型}が9、{A4:負担感関連型}が6、A1とA6が各2、A5が1会話に見られる。複数ストラテジーが{A2A1}と{A6A2A1}が3会話に、{A6A1A4}、{A1A2}、{A5A2}、{A6A4}、{A5A2}が各1会話に見られている。全体的にみると延辺朝鮮語のほうが多種類のストラテジーを多様に組合せていて、複数ストラテジーも多く現れることが分かる。両言語ではA1とA2のストラテジーに使用が集中している点で似ているが、表7-9のデータを数えてみると、延辺朝鮮語はA1、A2の1会話平均使用数が日本語を上回っている。そして、延辺朝鮮語はA4の使用数が日本語の2倍もある。A3は日本語のみに、A6は延辺朝鮮語のみに見られた。

被依頼者の「拒絶」に発話されたストラテジーは次のようである。日本語は{B3:消極型}が32、{B2:中立型}が2回使用され、延辺朝鮮語は{B3:消極型}が39、{B2:中立型}が2、

表 7-9 談話中で依頼を断られる展開:隣接応答ペア「依頼-拒絶」

日本語				延辺朝鮮語					
会話 番号	依頼者のスト ラテジーの型		被依頼者のスト ラテジーの型		会話 番号	依頼者のスト ラテジーの型		被依頼者のスト ラテジーの型	
三	A2	3	B3	8	三	A2A1	3, 1	B3	9
	A2	3	B3	8					
七	A1	1	B2B3B3	4, 9, 8	八	A2A1	3, 2	B3B3	11, 9
	A2	4	B3	9		A2	3	B3	11
八	A1	1	B3B3	8, 10	十七	A2	3	B3B3	12, 8
九	A4	7	B3	10	十九	A2A1	12, 1	B3B3	8, 9
十一	A1A2	2, 3	B3	10	二十	A6A4	12, 7	B3	9
十三	A4	8	B3	9	二十三	A4	8	B3	8
	A1	2	B3	9		A4	8	B3	8
						A2	4	B3	8
						A1	2	B3	8
					A1	2	B3	8	
十七	A1	2	B3	9	三十九	A2	4	B3B2	8, 5
十八	A1	2	B3	9	四十一	A6A1A4	12, 1, 8	B3	9
						A2	4	B3	9
二十	A3	6	B3B3	9, 10	四十二	A4	7	B3B3	11, 9
二十四	A2	3	B3	9	四十三	A6A2	12, 3	B3B2	11, 5
						A2	4	B3	11
二十五	A1	2	B3	9	四十五	A6A2A1	12, 3, 1	B3	8
						A6A2A1	12, 3, 1	B3	11
二十七	A2	3	B3	9	四十六	A6A2A1	12, 3, 1	B3	8
二十九	A2	3	B3	10	四十九	A5	9	B3	8
三十八	A1	2	B3	8	五十	A1A2	1, 4	B3	9
						A4	7	B3	11
三十九	A1A4	2, 7	B3	9	五十六	A6	12	B3B3	12, 9
						A2	4	B3	9
四十四	A4	8	B3	8	六十二	A4	7	B3	8
						A2	3	B3B3	11, 8
						A5A2	9, 3	B3B3	9, 10
四六	A3	6	B3	9	六十八	A4	7	B4B3B3	12, 8, 10

	A3	6	B3	10		A2	4	B3	9
						A6	12	B3	11
五十一	A1	2	B3	8					
	A5	9	B3	8					
五十三	A2A1	3, 2	B3	9					
	A2A2	4, 3	B2B3	4, 8					
五十五	A2	3	B3	9					
五十九	A1	2	B3	10					
	A2	3	B2B3	4, 10					
六十二	A2	3	B3	10					

{B4: 对人的配慮型} が 1 回使用されている。B3 における発話機能タイプのストラテジーをみると、「8: 直接的な断り」は日本語が 9 で延辺朝鮮語が 14、「9: 不利・否定的な内容を含む発話」は日本語が 14 で、延辺朝鮮語が 12、「10: 他の解決策」は日本語が 9 で、延辺朝鮮語が 2 使用されている。延辺朝鮮語にはまた日本語にない「11: 非難」が 9 回現れている。複数ストラテジーを日本語は 4 会話に、延辺朝鮮語は 10 会話に使用されている。日本語のほうが延辺朝鮮語より間接的な断り方が多い。例 7-16 と例 7-17 に両言語の会話例を示す。

例 7-16 日本語会話十一：〔依頼者＝J10（24 歳、女性） 被依頼者＝J9（24 歳、女性）〕
（中略）

13AJ10: ちょっと難しい? 所々分からない所があって、
14BJ9: 10 頁はちょっと長いけど、5 頁ぐらいだったら、

例 7-16 で依頼者が 13AJ10「ちょっと難しい?」と「間接依頼」をした後、「所々分からない所があって、」と「情報提供」をする。それに対して被依頼者は 14BJ9「10 頁はちょっと長いけど、」と「直接的な断り」をしてまた「5 頁ぐらいだったら、」と「条件提示」を組合せて拒絶する。

例 7-17 延辺朝鮮語会話八：〔依頼者＝K10（21 歳男性） 被依頼者＝K11（22 歳、男性）〕
（中略）

4AK10: 전번에 논문 있재! 후에꺼 또 발표해야되는데, 있재 이번에 열폐지정도 된단 말이다. 그래 또 어떻게 해달라. *この前の論文なんだけどさあ! 残りのとこをまた発表しないといけないんだけど、何か今度は 10 頁なんだよ。どうかやってくれ。*
5BK11: 야-? 그런거 제절루 하는게 아니라? 그 많은거 내 어떻게 언제까지 다 써야 하

니? おい-? そんなものは自分でやるものじゃないか? そんなに沢山俺どうやっていつまでやらないといけないんだ?

例 7-17 で依頼者は 4AK10 「전번에 논문 있재! 후에꺼 또 발표해야되는데, 있재 이번에 열폐지정도 된단 말이다. この前の論文なんだけどさあ! 残りのとこをまた発表しないといけないんだけど、何か今度は 10 頁なんだよ。」と「情報提供」をしてから、「그래 또 어떻게 해달라. どうかやってくれ。」と「直接依頼」をする。それに対して被依頼者は 5BK11 「야-? おい-?」と「非難」のストラテジーを使用して怒りの気持ちを示した後、「그런거 제절루 하는게 아니라? 그 많은거 내 어떻게 언제까지 다 써야 하니? おい-? そんなものは自分でやるものじゃないか? そんなに沢山俺どうやっていつまでやらないといけないんだ?」と「否定的な見解」を表明する。以上「依頼」と「拒絶」が隣接している場合を考察したが、7.5.2 では「依頼」と「拒絶」が離れている場合を考察することにする。

7.5.2 拒絶を保留する挿入発話連鎖

このパターンは日本語に 8 会話、延辺朝鮮語に 5 会話現れた。拒絶を保留する挿入発話連鎖とは、「依頼」の発話と「拒絶」の発話によって構造される応答ペアが隣接せず、「依頼」と「拒絶」の間に全く別の応答ペアが入ったり、様々なストラテジーが挿入されたりする展開を指す。【再依頼部】で被依頼者が拒絶を数回する場合、このような拒絶を保留する挿入発話連鎖は 1 つの会話に数回現れる場合もある。

表 7-10 と表 7-11 は日本語と延辺朝鮮語の「依頼」と「拒絶」の間に挿入されるストラテジーの内訳を示している。日本語では「依頼」から「拒絶」に到るまでの過程で、最終的に断るにしても、相槌、相手に対する理解を示す発話で一旦依頼を受け入れそうな印象を与えるようなストラテジーを使ってから拒絶する傾向があった。例 7-18～例 7-20 のような会話である。下線部が「相槌」と「理解を示す」発話である。

表 7-10 談話中で依頼を断られる展開：拒絶を保留する挿入発話連鎖（日本語）

会話番号	依頼		挿入されるストラテジー		拒絶	
二	A2	3	B2→A5A1	<u>4</u> →9, 1	B3	<u>10</u>
三	A5A2	9, 3	B2→A1	<u>6</u> →2	B3	<u>8</u>
	A4	8	B2→「A4-B2」→A4	<u>4</u> →「8- <u>7</u> 」→7	B3	<u>9</u>
七	A4	8	B2→A4	<u>4</u> →8	B3	<u>9</u>
十五	A5A2A4	9, 3, 7	B2→「A2-B2」(2) →「A1-B2」→A4	<u>6</u> →「3- <u>6</u> 」(2)→ 「2- <u>5</u> 」→7	B3B3	<u>9</u> , <u>9</u>
二十一	A2	3	B2→A2	<u>7</u> →3	B3	<u>8</u>

四十	A4	7	B4→A1	12→2	B3	8
	A1	2	B2→A4	5→7	B3	9
四十四	A4A1	8, 2	B2→A4→B2	4→8→4	B3	9
四十六	A1	1	B2→A2	6→3	B4B3	12, 8

表 7-11 談話中で依頼を断られる展開：拒絶を保留する挿入発話連鎖（延辺朝鮮語）

会話番号	依頼		挿入されるストラテジー		拒絶	
五	A4	8	B2→A4	4→8	B3	8
十	A1	2	B1→A1	2→2	B3	9
四十三	A2	3	B2→A2	5→3	B3	9
	A2	3	B2→A6A4	4→12, 7	B3B2	11, 4
	A2	3	B1→A1A4	2→1, 8	B3B3	9, 10
四十九	A2	3	B2→A2	6→3	B3	8
五十	A6A1	12, 1	B2→A2A2→B1 →A4	4→4, 3→2→7	B3B3	8, 10
六十三	A1	2	B2→A1	6→2	B3	12

例 7-18 日本語会話三：〔依頼者＝J5（24 歳、女性） 被依頼者＝J6（23 歳、女性）〕

（中略）

10AJ5: ほらー、ちょっとね、やばいんだよね。今日中にもう 50 頁やらないといけなくて 10 頁がたぶん、精一杯で時間的に、

11BJ6: うん。 (相槌)

12AJ5: 10 頁が、この 10 頁が//いいんだけど、

13BJ6: いいえ、多い、多い。

例 7-19 日本語会話四十六：〔依頼者＝J40（22 歳、女性）被依頼者＝J39（22 歳、女性）〕

（中略）

9AJ40: 和訳してほしいんじゃないけど、

10BJ39: うん。 (相槌)

11AJ40: えーえとね、10 個なんよ。 {笑い}

12BJ39: ごめーん、ちょーっと、 {笑い}

例 7-20 日本語会話四十：〔依頼者＝J35（30 歳、女性）被依頼者＝J36（26 歳、女性）〕

（中略）

23AJ35: してくれへんっていうか、手伝ってくれへん?//10 頁のやつで、
24BJ36: ピンチやなあ。 (理解を示す)
25AJ35: 手伝ってや。
26BJ36: 10 頁やなあ、多いなあ。

例 7-18 と例 7-19 で依頼者の依頼に対して被依頼者は 11BJ6 と 10BJ39 で「うん。」と言って一旦受け止める。例 7-20 では依頼者の 23AJ35 「してくれへんっていうか、手伝ってくれへん?//10 頁のやつで、」という依頼に対して 24BJ36 「ピンチやなあ。」相手に理解を示す発話で一旦受けてから断っている。

また、日本語には「相手の発話を復唱」するストラテジーを拒絶する前に置く会話がある。例 7-21 と例 7-22 のようである。このようなストラテジーは長く尻下がりにイントネーションで発話することによってすぐ受け入れられる依頼内容ではないので、「現在考慮しているところである」ことを相手に伝えている。

例 7-21 日本語会話二: [依頼者=J4 (21 歳、女性) 被依頼者=J3 (21 歳、女性)]
(中略)

15AJ4: それで、実は結構長くて//10 頁ぐらいあるんだけどー、
16BJ3: うん、10 頁かー。 (相槌+復唱)
17AJ4: できれば、手伝って//もらえないかな。
18BJ3: そうかー。10 頁か、5 頁ぐらいなら行けるけど、10 頁はちょっと難しいかなあ。

例 7-21 では 15AJ4 の依頼に対して依頼者の発話中の内容を引用して 16BJ3 「うん、10 頁かー。」と繰り返す。

例 7-22 日本語会話七: [依頼者=J7 (21 歳、女性) 被依頼者=J8 (21 歳、女性)]
(中略)

19AJ7: でも、論文の練習だと思ったらさあー、
20BJ8: {笑い}、論文の練習かー。 (復唱)
21AJ7: うん。
22BJ8: そうか、自分のために練習にもなるけど、それってやっぱり J7 ちゃんも論文の練習のために、そうだよ、能力アップのために、

例 7-22 では、依頼者の 19AJ7 の「相手利益」を言い出す内容の依頼の意思に対して 20BJ8 「論文の練習か」と復唱する。日本語には、また「相槌」と「否定的な態度」を合わせて使っているものもあれば、「驚き」を表すストラテジーで拒絶するための準備段階に置く例もあった。「驚き」の発話は「へえ？」のような感嘆詞もあるが復唱と同じく前の依頼者の言葉を

繰り返すのもある。前の発話を繰り返す時、尻下がりにイントネーションであれば「考慮」を示す復唱で、尻上がりイントネーションで発話されれば「驚き」の復唱に認定できる。例 7-23 と例 7-24 に挙げておく。

例 7-23 日本語会話十五：〔依頼者＝J12（30 歳、女性） 被依頼者＝J11（23 歳、女性）〕

（中略）

12AJ12: 今度の文献はすごく長くて、以前よりすごく頑張っているんだけど、

13BJ11: うん。 (相槌)

14AJ12: それでも終わりそうになくて、

15BJ11: うん。 (相槌)

16AJ12: もうどうしようかと本当に考えてて、

17BJ11: うん。 {笑い} (相槌)

18AJ12: うん、今回だけ手伝ってほしい。 {笑い}

19BJ11: {笑い} どうしようもないかな。 (気づきの言葉)

20AJ12: これを最後にするから、

21BJ11: 前に言ったじゃん、何かーあの自分で訳さないでさあ、

例 7-23 は、依頼者が 12AJ12 「今度の文献はすごく長くて、以前よりすごく頑張っているんだけど、」と発話した後、すぐにターンを取って、相槌を打ったり、19BJ11 「どうしようもないかな」と気づきの言葉を使ったりしているが、これも「依頼」に対して否定的な態度を示している。単刀直入に拒絶するのではなく、拒絶の前に様々な前置きを置いて、順次に相手に拒絶することを予測させている。

例 7-24 日本語会話四十四：〔依頼者＝J39（22 歳、女性） 被依頼者＝J40（22 歳、女性）〕

（中略）

17AJ39: ごめんね、10 頁。

18BJ40: 10 頁? (驚き)

19AJ39: ごめんね、長くてー、

20BJ40: 10 頁、10 頁か、英語全然できんし、 (復唱)

会話例 7-24 も、18BJ40 「10 頁？」と長引く上昇のイントネーションで驚きを示したり、20BJ40 「10 頁、10 頁か」と長引く下降のイントネーションで復唱を示したりしつつ拒絶するための準備段階を置いたりして拒絶を予告している。

一方、応答を保留する挿入発話連鎖で延宕朝鮮語のほとんどの場合、「拒絶」の予告を含ま

ず、直ちに「拒絶」が発せられていた。「談話中で依頼を断られない展開」は日本語に 27 会話、延辺朝鮮語に 20 会話あるが、「拒絶」の 1 会話平均数は 2 倍以上となっている。もちろん、朝鮮語にも少数ながら復唱や相槌が現れたが、日本語のストラテジーの使い方と少し異なっていて、相手に拒絶の意思を予測させるために使われているのではなく、苛立つ口調で発話するようなもので「とんでもない」「呆れた」という「責める」「批判」の意味として解釈できる。例 7-25 に例を挙げる。

例 7-25 延辺朝鮮語会話五：〔依頼者＝K6（21 歳、女性）被依頼者＝K5（22 歳、女性）〕

(中略)

3AK6: 응-, 밥 사줄게.	うん-, ご飯買ってあげる。
4BK5: <u>밥으?</u>	(復唱) ご飯を?
5AK6: 응.	うん。
6BK5: 싫다.	いやだ。

例 7-25 で、依頼者は 3AK6 「응-, 밥 사줄게. うん-, ご飯買ってあげる。」と「補償」を持ち出す。しかし、被依頼者は呆れた口調で 4BK5 「밥으? ご飯を?」と復唱するが言外の意味としては「10 頁を翻訳する仕事量に対してご飯は軽すぎる、呆れた」と批判の意味で解釈することができる。言下に拒絶を表している。また、例 7-26 のように 10BK40 「어째 이번에 어디다 쓰자구? 今度は何に使うつもりだ?」のように依頼者のお金を無駄遣いする癖について踏み込んだ質問をすることによって批判と責めを示す談話の例もあった。

例 7-26 延辺朝鮮語会話四十三：〔依頼者＝K39（21 歳男性）被依頼者＝K40（22 歳男性）〕

(中略)

9AK39: 내 좀 야-,	俺ちょっと、おい-,
10BK40: <u>어째 이번에 어디다 쓰자구?</u>	(批判) 今度は何に使うつもりだ?
11AK39: 아-, 물건을,	あ-, 物を
12BK40: 물건을 무슨 물건이 300 원씩이나?	物を? どんな物が 300 元もするんだよ?

以上のように延辺朝鮮語は拒絶の準備段階を置く発話で強く批判する気持ちを露わに示してから「拒絶」に到っているところに日本語の「拒絶」の準備段階と差異がみられた。

7.5.3 被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合

以上、両言語で応答を保留する挿入発話連鎖をみたが、これらは全て依頼者が【再依頼部】を切り出す場合である。しかし、日本語には 1 例だけ、被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合で応答を保留する挿入発話連鎖があった。例 7-27 のようなものである。

例 7-27 日本語会話六十八：〔依頼者＝J57（20 歳男性）被依頼者＝J58（20 歳、男性）〕
 （中略）

10BJ58: ジャー、一緒//にやろう。

11AJ57: 半分。うん、{笑い} ほんとピンチなんだよ、ピンチなんだよ。 「依頼」

12BJ58: {笑い} うん。 (相槌)

13AJ57: ほかにしないといけないこといっぱいあるし、

14BJ58: わたしもしないといけないことあるよ。 「拒絶」

会話例 7-27 では被依頼の側が 10BJ58「ジャー、一緒//にやろう。」と{消極型}の「他の解決策」で拒絶する発話をした後、それに対して 11AJ57「半分。うん、{笑い} ほんとピンチなんだよ、ピンチなんだよ。」と依頼を諦めず続けて再依頼をする意思を伝え、12BJ58で相槌をする。続いて、依頼者が 13AJ57「ほかにしないといけないこといっぱいあるし、」と新しい「情報提供」をするが、14BJ58「わたしもしないといけないことあるよ。」と被依頼者に断られる。この会話例で「依頼」と「拒絶」の間には被依頼者の「相槌」と依頼者の「情報提供」が挿入される。

7.5.4 拒絶直後のストラテジー

被依頼者の「拒絶」の直後の展開には両言語で差が観察された。表 7-12 に示しておく。日本語は 7 種類のストラテジーを使用して 7 種類のストラテジーの組合せが現れた。{A2:論理型}が 16、{A4:負担感関連型}が 11、{A1:主張型}が 9、{A5:対人的配慮}が 6、{A3:

表 7-12 談話中で依頼を断られる展開：拒絶直後のストラテジー

会話番号	日本語のストラテジーの型		会話番号	延辺朝鮮語のストラテジーの型	
二	A5	9	三	A4	8
三	A2	3	五	A2	4
	A5	9			
	A4	8			
	A4	7			
七	A4	8	八	A2	3
	A2	4		A6A1A4	12, 2, 8
	A4	7			
八	A1	1	十	A5A2	9, 4
十一	A4A1	7, 1	十七	A6A1	12, 1
十三	A1	2	十九	A4	7

	A4	8			
十五	A2	3	二十	A4	7
十七	A5	9	二十三	A4 A2 A1 A1 A6A1	8 4 2 2 12, 2
十八	A2	3	三十九	A2	3
二十	A1	2	四十一	A2 A6A1	4 11, 2
二十一	A4	7	四十二	A4	7
二十四	A2	3	四十三	A2 A2 A2 A2	3 4 3 3
二十五	A2	4	四十五	A6A2A1 A4A6	12, 3, 1 7, 12
二十七	A4	8	四十六	A4A4A1	7, 7, 1
二十九	A2	3	四十九	A5 A1	9 2
三十八	A5	9	五十	A1A2 A4	1, 4 7
三十九	A4A1	7, 1	五十六	A2 A6A4	4 12, 7
四十	A1 A2	2 3	六十二	A2 A5A2 A1 A4A1	3 9, 3 2 7, 2
四十四	A4 A5A2	8 9, 5	六十三	A1	2
四十六	A3 A2	6 3	六十八	A2 A6 A6A1	4 12 12, 1
五十一	A5 A2	9 3			

	A2	3			
五十三	A2A2	4, 3			
	B2B3	4, 8			
五十五	A1	2			
五十九	A1	2			
	A2	4			
六十二	A2	3			
六十八	A4A1	8, 2			

正当型}が1回使用されている。単独ストラテジーはA2が13、A4が8、A1が6、A5が5、A3が1会話に見られた。複数ストラテジーは{A4A1}が3、{A5A2}が2会話に使用されている。延辺朝鮮語は5種類のストラテジーを使用して15種類のストラテジーの組合せが現れている。{A2:論理型}が16、{A1:主張型}が14、{A4:負担感関連型}が12、{A6:圧力型}が9、{A5:対人的配慮型}が3回使用されている。単独ストラテジーはA2が12、A4が6、A1が5、A5とA6が各1回使用されている。複数ストラテジーは{A6A1:圧力型、主張型}が4、{A5A2:対人的配慮型、論理型}が2、{A6A1A4:圧力型、主張型、負担感関連型}、{A6A2A1:圧力型、論理型、主張型}、{A4A4A1:負担感関連型、負担感関連型、主張型}、{A4A1:負担感関連型、主張型}、{A4A6:負担感関連型、圧力型}、{A6A4:圧力型、負担感関連型}が各1会話に見られている。全体的にみると延辺朝鮮語のほうが多種類のストラテジーを多様に組合せていて、複数ストラテジーも多く現れることが分かる。両言語ではA2、A4、A1のストラテジーに使用が集中している点で似ている。日本語は拒絶に対して一旦受け止めるストラテジーが延辺朝鮮語より2倍に上っている。延辺朝鮮語は{圧力型}を{負担感関連型}と{主張型}と組合せて使用するのが多い。

7.5.5 隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」

本研究は依頼が失敗した会話は研究対象から外したので、【再依頼部】の残りの会話には被依頼者の拒絶は2度と出ることなく、依頼展開は成功へと向かう。7.5.3では【再依頼部】における応答ペアとしての「依頼」と「承諾」の形成過程を論じ、応答ペアとなっていないのは分析しない。応答ペアとしての「依頼」と「承諾」が含まれた会話は日本語に24会話、延辺朝鮮語に20会話あった。

このパターンは日本語に7会話、延辺朝鮮語に8会話あった。表7-12に隣接応答ペアとしての「依頼-承諾」の内訳を示す。

依頼者の依頼で日本語は4種類のストラテジーを使用して5種類のストラテジーの組合せが現れた。{A2:論理型}が4、{A4:負担感関連型}が2、{A1:主張型}と{A5:対人的配慮}が各1回使用されている。単独ストラテジーはA1が1、A2が3、A4とA5が1会話に見られた。複

表 7-13 談話中で依頼を断られる展開：隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」

日本語				延辺朝鮮語					
会話番号	依頼者のストラテジーの型		被依頼者のストラテジーの型		会話番号	依頼者のストラテジーの型		被依頼者ストラテジーの型	
二十五	A2	4	B1	1	五	A2	4	B1	1
二十七	A4	8	B1	1	十九	A4	7	B1	1
三十八	A5	9	B1	1	二十	A4	7	B1	1
五十一	A2	3	B1	1	四十二	A4	7	B1	1
五十五	A1	1	B1B1	1, 2	四十三	A2	4	B1	1
五十九	A2	4	B1	1	四十九	A1	2	B1	1
六十八	A4A2	8, 3	B1	1	五十	A6A1	12, 2	B1	1
					六十八	A6A1	12, 1	B1	2

数ストラテジーは {A4A1} が 1 会話に使用されている。延辺朝鮮語は 4 種類のストラテジーを使用して 4 種類のストラテジーの組合せが現れている。A1 と A4 が 3、A2 と A6 が 2 回使用されている。単独ストラテジーは {A2:論理型} が 2、{A4:負担感関連型} が 3 会話に見られている。複数ストラテジーにおいては、{A6A1} が 1 会話に見られている。

【再依頼部】の最終的な段階となる「依頼」と「承諾」の隣接応答ペアのやり取りで、依頼者は被依頼者の拒絶の態度をみてから、被依頼者に妥協する内容で発話行為内の「依頼」をする。日本語では「負担感の軽減」に関するもの、「受け止め」を示すもの、「直接依頼」を示すものがある。「負担感の軽減」に関するものには「でも、ちょっと、後でいつか返すから、」「ああ、ごめん、ごめん」が、「受け止め」には「無理よ-ね-?」、「直接依頼」には「お願いできない?」などがある。延辺朝鮮語では負担軽減に関するもの、「懇願」、「加圧」と「懇願」を組合せたものの 3 種類の内容のストラテジーを使用している。「負担感の軽減」に関するものには「二十: 같이 하자-!一緒にしよう」「四十二: 그림, 할수있는달루 해라.じゃ、できるところまでやって。」「十九: 그림 우리 같이 해보면 되잖아!じゃ、一緒にやればいいじゃない!」、「懇願」か「加圧」と「懇願」を組合せたものには「四十九: 제발 제발.どうかどうか。」「五十: 아-아?제발 제발. 아-아?どうかどうか。」などがある。

7.5.6 承諾を保留する挿入発話連鎖

このパターンは日本語に 16 会話、延辺朝鮮語に 11 会話見られた。

承諾を保留する挿入発話連鎖で被依頼者の態度には {B2:中立型} と {B1:積極型} の 2 種類がある。B1 が使用された場合、被依頼者は既に依頼者の依頼を承諾する心構えができていて、依頼は成功へと進みやすい。それでは、まず被依頼者が B1 の態度を取った場合を考察してみよう。日本語の場合、B1 には次のような内容が発話されている。「承諾に有利な発話」が

表 7-14 談話中で依頼を断られる展開：承諾を保留する挿入発話連鎖（日本語）

会話番号	依頼		挿入されるストラテジー		承諾	
二	A2	3	B2→「A2-B2」(4) →「A2-B1」(2)→A4	「6」→「3-6」(4) →「4-2」(2)→7	B1	「1」
三	A4	7	「B1-A2」(3)→「B1-A5」	「3-3」(2) , 「2-3」→「3-10」	B1	「1」
七	A4	7	「B1-A2」	「2-4」	B1	「1」
十三	A4	8	B2→A1	「7」→2	B1	「1」
十五	A2	3	B2→A2A1	「6」→3, 1	B1	「1」
十七	A1	2	B2→A4	「4」→7	B1	「1」
十八	A2	3	B2→「A2-B2」 →A3	「6」→「3-4」 →6	B1	「1」
二十	A1	2	「B1-A2」	「2-4」	B1	「2」
二十一	A4	7	「B2-A4」	「4-7」	B1	「1」
二十四	A2	3	B2→A1A1	「6」→2, 1	B1	「1」
二十九	A2	3	「B2-A2」	「4-3」	B1	「1」
三十九	A4A1	7, 1	B2→A1	「7」→2	B1	「1」
四十	A2	3	B2	「4」	B1	「1」
四十四	A5A3	9, 5	B2→「A2-B2」 →A4A4	「7」→「3-6」 →8, 7	B1	「1」
五十三	A2A1	3, 2	「B1-A2」	「2-4」	B1	「1」
六十二	A2	3	「B2-A2」 →「B1-A5」	「4-3」 →「2-10」	B1	「1」

表 7-15 談話中で依頼を断られる展開：承諾を保留する挿入発話連鎖（延辺朝鮮語）

会話番号	依頼		挿入されるストラテジー		拒絶	
三	A4	8	「B2-A2」(2) →「B1-A4」 →B4→A1	「5-3」(2) →「2-8」 →「12」→2	B1	「1」
八	A6A1A4	12, 2, 8	「B1-A2」	「3-3」	B1	「1」
十	A5A2	9, 4	B2→A4	「7」→7	B1	「1」
十七	A6A1	12, 1	B2→A6A1A4→「B1-A4」	「4」→12, 2, 7→「3-7」	B1	「1」
三十九	A2	3	「B2-A2」(3)	「4-3」(3)	B1	「1」
四十一	A6A1	11, 2	「B1-A2A4」	「2-4, 8」	B3B1	「11, 1」
四十五	A4A6	7, 12	「B1-A2」	「2-4」	B1	「1」
四十六	A4A4A1	7, 7, 1	B2→A6A6A1→B2→A3	「7」→12, 11, 1→「7」→6	B1	「1」
五十六	A6A4	12, 7	「B2-A2」	「4-3」	B1	「1」
六十二	A1	2	「B1-A2」 →「B1-A4」	「2-3」 →「2-7」	B1B3	「1, 11」
六十三	A1	2	「B1-A6」 →「B1-A6A2」	「2-12」 →「2-12, 3」	B1	「1」

3、「新情報を要求する発話」が1会話に使われている。これらの{B1:積極型}は質問型の表現があり、翻訳の進捗状況、課題の提出期限、共同行為要求などの内容がある。そして質問型ではない場合は、依頼者の負担感を軽減してくれたことに対して同意の意思を示すストラテジーである。日本語の例は例7-28に示しておく。

例7-28:

会話三: 「21BJ6:今、何頁まで終わっているの。」 「23BJ6:5頁? {笑い}これいつまでって言ったけ。」 「25BJ6:もうちょっといけるかな。」

会話七: 「28BJ8:ああ、手伝うぐらいなら、全然」

会話二十: 「11BJ16 もうちょっと、一緒に、できたら、一緒に頑張ろう?」

会話五十三: 「20BJ48:ああ、2,3日ならー、」

延辺朝鮮語の場合はB1で次のような内容が話されている。「承諾に有利な発話」が4、「新情報を要求する発話」が1会話に使われている。延辺朝鮮語も日本語と同じく、{B1:積極型}は質問型と質問型でない表現があった。依頼者が奢ってくれる期日を聞く、補償内容を聞く、課題を減らしてくれる約束を確認、借りる金額の軽減の件に対する確認が話されている。質問型ではない内容は、依頼者の返金保障に対して同意の意思を少し示す、持参金の金額を話す、といったものであった。延辺朝鮮語の例は例7-29を参照されたい。

例7-29:

会話八: 「9BK11: 아, 언제?」 *あ、いつ?*

会話四十一: 「8BK35: 뭐 사주개? 먼저 말해봐라。」
何買ってくれる?先に言ってみて。

会話四十五: 「18BK41: 그림、」 *じゃ、*

会話六十二: 「16BK58: 응, 그림 안되는것만 하자응?」
うん、できないとこだけするよ?

会話六十三: 「18BK60: 백원 되니?」 *100元でいい?*

「20BK60: 내 지금 딱 백원 가지구 있다. 현금을루。」
私今ちょうど100元持っている。現金で。

両言語は被依頼者の積極的な態度を取った後、これらの質問に応答したり、会話者間で合意をしたりしてやり取りをして最終的に依頼は成功して会話は終了する。以上、承諾を保留する挿入発話連鎖で被依頼者が積極的な態度を取った場合を分析した。それでは、被依頼者が曖昧な態度を取った場合はどのような展開になってどのようなストラテジーが使われている

るのだろうか。続けて論を進めることにする。

承諾を保留する挿入発話連鎖で被依頼者が{B2:中立型}のストラテジー、つまり、曖昧な態度を取った場合に、両言語ではB2に使用されたストラテジーに差異が見られた。日本語はB2で「相手の発話を復唱」か「相槌」という非実質的な内容のストラテジーが使われており、延辺朝鮮語では「思案・曖昧」、「踏み込んだ質問を発する」ストラテジーを使っている。両言語の例を例7-30～例7-33に示す。

例7-30 日本語会話四十四：〔依頼者＝J39（22歳、女性）被依頼者＝J40（22歳、女性）〕

（中略）

23AJ39: そうだよなー。でも、J40 しかないよ、他の人にーは、

24BJ40: うーん。

25AJ39: やめてっていう感じでー、やっぱり、

26BJ40: うん。

27AJ39: 断られて、やっぱりほんとうにーごめん、何でも助けるのでー、

28BJ40: じゃあ、うん、分かった。今日暇だしー、仕様がないなあー。{笑い}

例7-31 日本語会話二：〔依頼者＝J4（21歳、女性）被依頼者＝J3（21歳、女性）〕

（中略）

20AJ4: 何か、

21BJ3: うん。

22AJ4: ちゃんと、

23BJ3: うん。うん。

24AJ4: 専門用語とかは、

25BJ3: うん、うん。

26AJ4: 解説が載っているから、

27BJ3: うん、うん。

28AJ4: それを見ながらでいいんだけど、

29BJ3: ああ、そうか、10頁//も？

30AJ4: うーん。

31BJ3: ちょっと旨くできんかもしれんけど、それでもいいんだったら手伝うぐらいはできるけん、

32AJ4: ほんと-//うに。

33BJ3: うん。

34AJ4: 手伝ってもらえるだけで、十分助かりますよ。

35BJ3: じゃあ、手伝うよ。

日本語会話四十四では依頼者がイニシアティブを取って、一方的に発話し、被依頼者はそれに対して「うん」と相槌を打つ。日本語会話二でも依頼者がイニシアティブを取って一方的に話し、被依頼者は「うん」「ああ、そうか、」と相槌を打ったり、「10 頁//も？」と前の話を復唱したりする。

例 7-32 延辺朝鮮語会話三十: [依頼者=K21 (20 歳、女性) 被依頼者=K22 (20 歳、女性)]
(中略)

8AK12: 그러야? 한 며칠 후에 문 되겠나? そうか? 大体何日後ならいい?

9BK11: 그래무 다시 보자. 내 아무튼. じゃ、また後でね。私とにかく

10AK12: 그럼 한 열페이지 딱 아니구 몇장만 이래두 더 해줄수 없니?

じゃ、10 頁じゃなくても何枚かぐらいでもいいからもっとやってもらえない?

11K11: 몇장? 몇장은 내 될수 있는 델루 해주마.

何枚かでも? 何枚かぐらいならできるところまでやってあげる。

例 7-33 延辺朝鮮語会話三: [依頼者=K3 (21 歳、女性) 被依頼者=K4 (21 歳、女性)]
(中略)

5AK3: 니 300 원 빌려주면 내 해달란거 다 해줄게.

300 元貸してくれたらやってほしいこと何でもやってあげる。

6BK4: 뭐 해주개? 何やってくれるの?

7AK3: 응、해달란거. うん、なんでも。

8BK4: 응해달란거 다 해주개? うん、何でもやってくれる?

9AK3: 응. うん。

10BK4: 전화 사달라. 携帯買ってくれ。

11AK3: 아니、뎌노 사줄게. いや、パソコン買ってあげる。

12BK4: 응、감사하다. うん、ありがとう。

13BK4: 그래무. じゃあ。

14AK3: 응. うん。

延辺朝鮮語会話三十では依頼者の 8AK12 「그러야? 한 며칠 후에 문 되겠나? そうか? 大体何日後ならいい?」という被依頼者のスケジュールを聞く発話に対して、被依頼者は 9BK11 「그래무 다시 보자. 내 아무튼. じゃ、また後でね。私とにかく」とお茶を濁す曖昧な答えをしている。延辺朝鮮語会話三では、依頼者の「補償」の意思を聞いて、被依頼者は補償

内容について踏み込んだ質問 6BK4 「뭐 해주개? 何やってくれるの?」 8BK4 「응
해달란거 다 해주개? うん、何でもやってくれる?」を發する。

以上から承諾を保留する挿入發話連鎖において日本人の被依頼者は非実質的な内容のスト
ラテジーで依頼者の發話を促したりして応答ペアを形成していくが、延辺朝鮮族の被依頼者
は突っ込んだ質問をしたりして会話者が共同に応答ペアを形成していくと言える。

7.5.7 実質的な展開に寄与したストラテジー

「実質的な展開に寄与したストラテジー」とは、【再依頼部】の「談話中で依頼を断られる
展開」の過程において、膠着した局面を打破し、依頼談話が実質的に依頼者の望むような方
向へと展開する契機となったストラテジーを指す。依頼者と被依頼者のどちらでも發話する
可能性がある。表 7-16 は【再依頼部】で依頼があまり進まず膠着していた会話のうち、進
展を含んだものを提示したものである。

データを見ると、談話の進展に寄与したストラテジーは依頼者と被依頼者のどちらからで
も發話している。両言語とも依頼者もあるし、被依頼者もある。両言語とも {A4:負担感関連
型} が種類と出現数が最も多い。被依頼者の發話で使用されたストラテジーの中でも「依頼者
が負担を減らしてくれたら受け入れしたい」と {B1:積極型} 「承諾に有利な情報を
含む發話」が現れている。この類も合わせると負担感関連の内容は日本語では 23 会話中 12
会話、延辺朝鮮語は 19 会話中 13 会話にあった。{A4:負担感関連型} を観察してみる。「限定・
譲歩」には「延辺朝鮮語会話五十六:아, 그림 절반이라도 빌려달라. あ、じゃ半

表 7-16 談話中で依頼を断られる展開：実質的な展開に寄与したストラテジー

会話 番号	ストラテ ジーの型	日本語の会話例
二	B1	ちょっと旨くできんかもしれんけど、それでもいいんだったら手伝うぐ らいはできるけん、
三	A4	うん、1000 円分//。
七	A4	うん、わたしを手伝って、
十三	A4	だめかなあ。一万円渡しても無理?
十五	A2A1	それからゼロから始まって、自分でやろうかなっていうふうに、ちゃん と考えると早めにやろうかなあと考えているんで、何か 10 頁手伝ってほし いです。
十七	A4	うん、それを 2. 3 日すると返せると思うよね。
十八	A3	10 頁はできるよ。英語得意だから、
二十	B1	もうちょっと、一緒に、できたら、一緒に頑張ろう?
二十一	A4	ええ、ねえ、あのね、いくらでもいいんだけど、どれぐらい、何かね、

		1000円でもいいんだけど、
二十四	A1A1	それ、何かね、うん、無理かね！//1万円ぐらい借りたいんだけど、よ かったらお願いしたいんだけど、
二十五	B1	明日ちょっとやるから、
二十七	A4	でも、ちょっと、後でいつか返すから、
二十九	B1	うん。じゃ、最初に2頁ぐらい訳してもらったら、
三十九	A4A1	お金が入ったら返すで、貸してや。
四十	A1	やってや、やってや、やってや。
四十四	A5A2	そうだよなー。でも、J40しかないよ、他の人にーは、
四十六	A1A4	ここを何とか、{笑い} うーん、何か奢るよ。
五十一	B3	ええ、ぱつとKにお願いできないの？
五十三	A2A1	でー、ほんまー。もしあれだったら、もう、もしあれやったらもうー、 困るんだなあ。もし1万円でも大丈夫じゃないけど、
五十九	A2	絶対無理、すごく他の科目もしないといけなくて、忙しいんよ。
六十二	B1	ちゃんと返してね。
六十八	A4A1	ああ、ごめん、ごめん、10頁。
会話 番号	ストラテ ジーの型	延辺朝鮮語の会話例
三	A4	아니, 맨노 사줄게. いや, パソコン買ってあげる。
八	A6A1A4	아-? 해달라. 밥사줄게. あ-? やってくれ. ご飯買ってあげる。
十	A4	그럼 한 열페이지 딱 아니구 몇장만 이래두 더 해줄수 없니? じゃ、10頁じゃなくても何枚でもいいからもっとやってもらえない?
十七	A6A1A4	아-? 먼저 뭐라. 내 이번달에 돈 오면 줄게. あ-? 先に貸して. 今月お金来たら返す。
十九	A4	그럼 우리 같이 해보면 되잖아! じゃ、一緒にやればいいじゃない!
二十	A4	같이 하자-! 一緒にしよう-!
二十三	A6A1	아-? 10 페이지만. あ-? 10頁だけ。
三十九	A2	넌 뭐하니? 君は何をさるの?
四十一	B1	뭐 사주개? 먼저 말해봐라. 何買ってくれる? 先に言ってみて。
四十二	A4	그럼, 할수 있는덴루 해라. じゃ、できるところまでやって。
四十三	A6A4	아-? 후에 무조건 줄수있다. あ-? 後で必ず返せる。
四十五	A4A6	100 원이라도 아-? 내 한달 아니래두 한달전에 준다. 300 원만. 100元でもいいから、あ-? 1ヶ月じゃなくて、1ヶ月前に返せる。300元だけ。

四十六	A3	니 영어 잘하재야	英語うまいだろう!
四十九	A1	제발 제발.	どうかどうか。
五十	A6A1	아-야?제발 제발.	あ-あ?どうかどうか。
五十六	A6A4	아, 그럼 절반이라도 빌려달라.	あ、じゃ半分でも貸してくれ。
六十二	A4A1	{笑い}나두 최선의 다 할게. 그담에 정 안되는것만 딱 닌테다 가 부탁하면 안되니? 私もベスト尽くすから。それでも駄目なら君に頼んでいい?	
六十三	B1	백원 되니?	100 円でいい?
六十八	B3	응, 그래 어찌겠니?그래 안 꾸겠으면 말아라. うん、仕様がないだろう?借りたくないなら、やめなよ。	

分でも貸してくれ。」「日本語会話七：うん、わたしを手伝って、」「保障」には「延辺朝鮮語会話四十三：아-? 후에 무조건 줄수있다. あ-? 後で必ず返せる。でも、ちょっと、後でいつか返すから、」「日本語会話二十七：でも、ちょっと、後でいつか返すから、」「共同行為要求」には「延辺朝鮮語会話十九：그럼 우리 같이 해보면 되잖아! じゃ、一緒にやればいいじゃない!」「補償」「日本語会話四十六：ここを何とか、{笑い} うーん、何か奢るよ。」「謝罪」「日本語会話六十八：ああ、ごめん、ごめん、10 頁。」などのものがある。

次に、また日本語は{A1:主張型}が、延辺朝鮮語は{A6:圧力型}が実質的な展開に寄与したストラテジーとして多用されている。延辺朝鮮族学生は、相当親しい友人に対して期待が高い。乱暴な言葉遣い、強要、怒り、被依頼者への不満や批判、威圧的な働きかけなどを、非難されるべき行為とは思わず、お互いに助けるのは当然だと考えるようである。本当に怒っているわけではないが、相手に怒られた、これはまずい、友達関係が壊れるというプレッシャーを与えることで、相手に受け入れてもらうという目的を達成する役割を持っている。

また、{B1:積極型}のように、被依頼者が進んで態度を変えることで談話進展に寄与するケースが日本語に 5、延辺朝鮮語に 2 会話現れた。例 7-34 を参照されたい。

例 7-34 日本語会話二：〔依頼者=J4 (21 歳、女性) 被依頼者=J3 (21 歳、女性)〕

(中略)

20AJ4: 何か、

21BJ3: うん。

22AJ4: ちゃんと、

23BJ3: うん。うん。

24AJ4: 専門用語とかは、

25BJ3: うん、うん。

- 26AJ4: 解説が載っているから、
 27BJ3: うん、うん。
 28AJ4: それを見ながらでいいんだけど、
 29BJ3: ああ、そうか、10 頁//も？
 30AJ4: うーん。
 31BJ3: ちょっと旨くできんかもしれんけど、それでもいいんだったら手伝うぐらいはできる
けん、
 32AJ4: ほんと-//うに。
 33BJ3: うん。
 34AJ4: 手伝ってもらえるだけで、十分助かりますよ。
 35BJ3: じゃあ、手伝うよ。

上の例で、【再依頼部】で1回断られた後、依頼者が被依頼者に一旦「受け止め」の発話をしてから、会話者間で情報のやりとりが長々とされたり、情報要求の質問をしてそれに応答したりした後、31BJ3で被依頼者が進んで「ちょっと旨くできんかもしれんけど、それでもいいんだったら手伝うぐらいはできるけん、」と積極的な態度を示す発話をする。被依頼者は依頼者に自分が感じる負担感を軽減してくれたら、つまり全部翻訳するのを手伝うぐらいに軽減してくれたら、承諾できると言っている。こうして会話参加者は合意をし、最後に依頼が成功する。

例 7-34 では 2 回に渡る拒絶の後に被依頼者が 10BK35 「뭐 사주개? 먼저 말해봐라。」何買ってくれる?先に言ってみて。」と {B1「2」: 積極型「新情報を要求する発話」} というストラテジーを用いて、補償に関する情報を要求することで承諾の方向へと転じる。

例 7-34 延辺朝鮮語会話四十一: [依頼者=K36 (22 歳, 女性) 被依頼者=K35 (22 歳, 女性)]
 (中略)

- | | | |
|--------|------------------------|--------------------------------------|
| 9AK36 | 오-? 어떻게 시간 좀 내달라. | 오오-? <i>どうか時間をちょっと取ってくれ。</i> |
| 10BK35 | <u>뭐 사주개? 먼저 말해봐라。</u> | 何買ってくれる?先に言ってみて。 |
| 11AK36 | 니 뭐 사달래? 니 사달란거 다 사줄게. | <i>何買ってほしい?あなたが買ってほしいのを全部買ってあげる。</i> |
| 12BK35 | 아-? 참 내 원- | あ-?まったくもうー |
| 13AK36 | 응, 씨씨. | うん, ありがとう。 |
| 14BK35 | 부응씨. | どういたしまして。 |

最後に、実質的な会話の進展に寄与したストラテジーが {B3: 消極型} である場合をみる。こ

のケースは延辺朝鮮語に 1 例のみ現れた。例 7-35 に会話例を挙げる。

例 7-35 延辺朝鮮語会話六十八：〔依頼者＝K62（20 歳、男性）被依頼者＝K61（21 歳男性）〕
（中略）

11AK62: 내 집에서 돈이 오면 데까닥 그 자리에서 주마。

家から仕送りが来たらずぐ直に返すから。

12BK61: 오、그러야。근데 나두 지금 돈이 얼마 없다。백원은 있다。

お、そうか。しかし俺にも今金がありませんだよ。100 元はある。

13AK62: 백원?

100 元?

14BK61: 응、그래 되겠는지 모르겠다。300 원은 없다

うん、それでいいかどうか分からないけど。300 元はないよ。

15AK62: 300 원 달라는데 100 원 주니?

300 元くれって言ってるのに 100 元くれるの?

16BK61: 응、그래 어찌겠니?그래 안 꾸겠으면 말아라。

うん、仕様がなだらう?借りたくないなら、やめなよ。

17AK62: 아아-? {笑い}그럼 백원 달라。 ああ-? {笑い}じゃ 100 元ちょうだい。

18BK61: 쓸모있겠는지 몰라。

役に立つか分からないけど。

19AK62: 쎬쎬。니밖에 없다。

ありがとう。俺には君しかない。

上の例で、【再依頼部】で依頼者は被依頼者に 3 回拒絶されてから、それに対して 15AK62 「300 원 달라는데 100 원 주니? 300 元くれって言ってるのに 100 元くれるの?」と相手に対して不満と批判の気持ちをぶつける。続いて、被依頼者も 16BK61 「응、그래 어찌겠니?그래 안 꾸겠으면 말아라。うん、仕様がなだらう?借りたくないなら、やめなよ。」と {B3:消極型}の「非難」のストラテジーで仕返す。依頼者は 300 元が 100 元になったが、それでもよいと妥協して最終的に依頼は成功する。

7.5.8 日本語と延辺朝鮮語の比較

この節では「談話中で依頼を断られない展開」について両言語で比較してまとめる。7.5 で応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」、拒絶直後のストラテジー、応答ペアとしての「依頼」と承諾」、実質的な展開に寄与したストラテジーを考察した結果、以下のようなことが明らかになった。

(1) 応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」

隣接応答ペアとしての「依頼-拒絶」のパターン：

依頼者の依頼で日本語は5種類のストラテジーを使用して9種類のストラテジーの組合せが現れた。延辺朝鮮語は5種類のストラテジーを使用して12種類のストラテジーの組合せが現れている。両言語ではA1とA2のストラテジーに使用が集中している点で似ているが、延辺朝鮮語はA1、A2の1会話平均使用数が日本語を上回っている。そして、延辺朝鮮語はA4の使用数が日本語の2倍もある。A3は日本語のみに、A6は延辺朝鮮語のみに見られた。被依頼者の「拒絶」に発話されたストラテジーは両言語とも「直接的な断り」が多い点では似ているが、日本語のほうが延辺朝鮮語より間接的な断り方が多い。延辺朝鮮語は断る時、明確に表現することが多く、相手の依頼に対して不満、批判、罵り、非難、皮肉をすることで依頼者が自ら依頼をやめるように仕向ける表現が多い。

拒絶を保留する挿入発話連鎖：

日本語では「依頼」から「拒絶」に到るまでの形成過程で相槌、相手に対する理解、気づきの発話で一旦依頼を受け入れそうな印象を与えるようなストラテジーを使ってから拒絶する傾向があった。単刀直入に拒絶せず、拒絶の前に様々なクッション、徐々に相手に拒絶することを予測させている。それに対して、延辺朝鮮語のほとんどの場合、「拒絶」の予告を含まず、直接に「拒絶」が発せられることが日本語の2倍ぐらいで、拒絶前のクッションが置かれたとしても依頼と依頼内容に対する不満が入っている。また、日本語には被依頼者が【再依頼部】を切り出す会話例が1つあったが、ここでも被依頼者は「依頼」と「拒絶」の間に相槌を挿入させていた。

(2) 拒絶直後のストラテジー

両言語とも5種類のストラテジーを使用し、A2、A4、A1のストラテジーに使用が集中している点で似ている。しかし、ストラテジーの組合せは日本語が7種類、延辺朝鮮語は15種類もあって、全体的に延辺朝鮮語のほうがストラテジーを多種多様に組合せていて、複数ストラテジーも多い。日本語は拒絶に対して一旦受け止めるストラテジーが延辺朝鮮語より2倍も使用されているのに比べて、延辺朝鮮語は{圧力型}を{負担感関連型}と{主張型}と組合せて使用する傾向があった。

(3) 応答ペアとしての「依頼」と承諾

隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」のパターン：

依頼者の「依頼」で両言語は4種類のストラテジーを使用して、日本語は5種類のストラテジーが、延辺朝鮮語は4種類のストラテジーの組合せが現れている。両言語とも特に特定のストラテジーに使用が集中することはなかった。「承諾」のストラテジーに使用においては、日本語は「負担感の軽減」、「受け止め」、「直接依頼」が使用され、延辺朝鮮語は「負担軽減に関するもの」、「懇願」か「加圧」が使用されている。

承諾を保留する挿入発話連鎖：

両言語は被依頼者の積極的な態度を取った後、会話者間のやりとりを通して合意をして最終的に依頼は成功する。しかし、被依頼者が曖昧な態度を取るのに使用した戦略に両言語では差異が見られた。「相手の発話を復唱」か「相槌」という非実質的な内容の戦略を発しており、延辺朝鮮語では実質的な内容の戦略を使っている。

(4) 実質的な展開に寄与した戦略

実質的な展開に寄与した戦略は依頼者と被依頼者のどちらからでも発話することができる。日本語と延辺朝鮮語で「負担感を軽減」する戦略と「負担感の埋め合わせ」は膠着した依頼談話の進展を打破するのに有効な戦略として使われている。この類の戦略は依頼者が被依頼者の感じる負担感を軽減しようと発するだけでなく、逆に被依頼者側からも負担感を軽減してほしい、負担感を埋め合わせてほしいと要求する場合もある。実質的な展開に寄与した戦略は両言語で異なるものもあった。日本語では「依頼」も実質的な展開に寄与する戦略と使用されていた。一方、延辺朝鮮語では相手に圧力をかける戦略も膠着局面を打破するのに有効な戦略となっている。

7.6 七章のまとめ

本章では、戦略レベルから【再依頼部】を「談話中で依頼を断られない展開」と「談話中で依頼を断られる展開」に分けて談話構造について分析した。その結果をまとめると、以下のようになる。

(1) 戦略の総数

日本語と延辺朝鮮語の【再依頼部】は全体的に【本用件部】に比べて戦略が多量に使われ、戦略の組合せが多様で、会話参加者間のやり取りが激しいため、談話構造が複雑になっている。延辺朝鮮語は【本用件部】で戦略の使用数が総数並びに個々使用数が少なかったが、【再依頼部】では日本語と比べて差がほぼ無くなって、1会話で使用された戦略の平均数が日本語よりやや多くなっている。【再依頼部】になると延辺朝鮮語も日本語と同様、積極的に戦略を使用しようとする傾向が伺える。両言語で使用された各戦略の中で、最も変化が大きい戦略は{A4:負担感関連型}である。【本用件部】でA4は「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」の3つの展開とも使用数が僅かだったが、【再依頼部】では両言語とも1つの会話に1以上現れるようになっている。【再依頼部】で被依頼者が感じる負担感を減らすことは有効な戦略であることが分かった。

(2) 【再依頼部】の始まりに使用されたストラテジー

【本用件部】の拒絶直後に使用された「受け止め」のストラテジーの割合は日本語が3割以上、延辺朝鮮語が1割以下となっている。日本語は延辺朝鮮語より被依頼者の発話内容に関心と配慮を示しており、延辺朝鮮語は依頼者の「拒絶」の発話をあまり気にしないで次の再依頼に入ることが分かった。【再依頼部】の他の始まり方をみると、両言語とも{主張型}{論理型}{負担関連型}を単独または組合せる点で似ているが、延辺朝鮮語は{圧力型}を多く使用して自分が困っている程度を効果的に伝える。

(3) 「談話中で依頼を断られない展開」：「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程

隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」：

両言語では、相手の負担を少しでも減らして依頼成功の目的を達成しようとする面では同じである。しかし、依頼の仕方が異なっている。日本語は{主張型}と{負担感関連型}のストラテジーに使用が集中しているのに対して、延辺朝鮮語は集中することなくストラテジーの組合せの種類が多い。日本人被依頼者は「依頼」に対して配慮を示しながら承諾の意思を表明する特徴がある。

応答を保留する挿入発話連鎖：

両言語は【再依頼部】で「積極的な態度か配慮の態度」を取る場合と「曖昧な態度」を取る場合とで展開に差異が見られた。「積極的な態度か配慮の態度が現れた後の依頼」で、日本語は依頼を確実なものにするために使えるストラテジーを何でも使おうとして主に単独ストラテジーを多用する傾向がある。延辺朝鮮語では被依頼者が「積極的な態度」を取ったことを依頼がほぼ達成できたと思ってそれ以上依頼を積極的に続けていない。「曖昧な態度が現れた」場合、依頼者は会話ごとに「情報提供」を多用して、{負担感関連型}のストラテジーも半数以上の会話で使用される点で両言語は共通している。日本人の被依頼者は「相槌・継続・共感」と「相手の発話を確認・復唱」を、延辺朝鮮族の被依頼者は「詳しい情報を要求/提供」と「思案・曖昧」を使用して曖昧な態度を示していることが多かった。被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合、依頼は成功しやすくなる。被依頼者ストラテジーは質問型で表現されるのが多く、依頼者はそれに対して「情報提供」をしたり、{負担感関連型}のストラテジーを使用したりして依頼を成功させる。

(4) 「談話中で依頼を断られる展開」：「依頼」と「拒絶」、「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程

a 応答ペアとしての「依頼」と「拒絶」

隣接応答ペアとしての「依頼-拒絶」のパターン：

依頼者の依頼で両言語ではA1とA2のストラテジーに使用が集中している点で似ているが、1 会話平均使用数からみると延辺朝鮮語のほうがより多い。また、延辺朝鮮語はA4の使用数日本語の2倍もある。それに対して、被依頼者は両言語とも「直接的な断り」が多いが、日本語のほうがより間接的である。延辺朝鮮語は断る時の加圧作用で依頼者が自ら依頼をやめるように仕向けるものが多い。

拒絶を保留する挿入発話連鎖：

日本語は拒絶の前に様々なクッションを置いて、徐々に相手に拒絶することを予測させている。それに対して、延辺朝鮮語は、「拒絶」の予告を含まず直接に「拒絶」する場合が日本語の2倍あり、拒絶前のクッションが置かれたとしても依頼と依頼内容に対する不満が露わに出ている。

拒絶直後のストラテジー：

全体的に延辺朝鮮語のほうがストラテジーを多種多様に組合せている。日本語は拒絶に対して一旦受け止めるストラテジーが延辺朝鮮語の2倍も使用されているのに比べて、延辺朝鮮語は{圧力型}を{負担感関連型}と{主張型}と組合せて使用する傾向があった。

b 応答ペアとしての「依頼」と承諾

隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」：

両言語とも特に特定のストラテジーに使用が集中することはなかった。日本語は「負担感の軽減」、「受け止め」、「直接依頼」が使用され、延辺朝鮮語は「負担軽減に関するもの」、「懇願」か「加圧」が使用されている。

承諾を保留する挿入発話連鎖：

両言語は被依頼者の積極的な態度を取った後、会話者間のやりとりを通して合意をして最終的に依頼は成功する。しかし、被依頼者が曖昧な態度を取るのに使用したストラテジーに両言語では差異が見られた。日本語は「相手の発話を復唱」か「相槌」という非実質的な内容、延辺朝鮮語では実質的な内容のストラテジーを使っている。

(4) 実質的な展開に寄与したストラテジー

両言語で{負担感関連型}は膠着した依頼談話を実質的な進展へと変えるのに有効なストラテジーとなっている。依頼者はもちろん被依頼者も負担感を軽減して依頼を何とか成功させようとする傾向がある。実質的な展開に寄与したストラテジーは両言語で相違点があった。日本語では「依頼」、延辺朝鮮語では「加圧」が有効的なストラテジーとなっている。

第八章 結論と今後の課題

8.1 結論

本研究の目的は日本語と延辺朝鮮語における「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の談話展開を、談話の全体的仕組みとなる話段の展開と談話の局部的仕組みとなるストラテジーの観点から分析し、依頼談話の構造を明らかにすることである。この目的のために、依頼談話の【本用件部】と【再依頼部】を取り上げ、それぞれの【部】に現れる依頼者ストラテジーと被依頼者ストラテジーを会話者間の相互作用の観点から、総合的に捉えて依頼談話の構造を考察した。

第五章においては、【部】と話段からみた依頼談話の構造を分析することで規則性や依頼談話の全体的構造の傾向をみて、全会話における話段のパターンを抽出した。

第六章においては、【本用件部】を扱って「依頼・承諾」の展開、「依頼・曖昧」の展開、「依頼・拒絶」の展開を考察した。

第七章においては、【再依頼部】を扱って、【再依頼部】の始まり、「談話中で依頼を断られない展開」における「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程、「談話中で依頼を断られる展開」における「依頼」と「拒絶」、「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程とそれぞれの形成過程を実現するストラテジー、「実質的な進展に寄与したストラテジー」について特徴をみた。

第八章では、8.1.1で話段レベルからみた依頼談話の全体的構造を包括的に捉える。8.1.2ではストラテジーレベルからみた【本用件部】の依頼談話構造を、8.1.3ではストラテジーレベルからみた【再依頼部】の依頼談話構造をまとめる。8.1.4では結論を踏まえたうえで、日本人と親しくなった人が日本人に依頼をする時の要領について著者の所見を述べる。最後に8.2では今後の課題について言及する。

8.1.1 〈話段〉レベルからみた依頼談話の全体的構造

まず、両言語の共通点をまとめる。両言語で談話展開の流れは「依頼・承諾」「依頼・曖昧・承諾」「依頼・拒絶・承諾」の3種類があった。その3つの展開は【本用件部】に当たるものと【再依頼部】に当たるものがある。「依頼・承諾」「依頼・曖昧」「依頼・拒絶」は【本用件部】にあたり、「曖昧・再依頼・承諾」「拒絶・再依頼・承諾」は【再依頼部】に当たる。両言語依頼談話の展開で【本用件部】と【再依頼部】は本題の部分であり、その中では〈依頼の話段〉〈依頼応答の話段〉が依頼談話の最も基本的な構造を成していることが分かった。また、〈交渉の話段〉は「曖昧・再依頼・承諾」の展開が含まれた【再依頼部】で重要な〈話段〉となっている。そして、【再依頼部】の〈話段〉の種類は【本用件部】よりずっと多く、組合

せも複雑になっている。両言語の会話で9割以上となっているパターンは2つある。1つは、**パターンⅠ：(依頼+依応) n**で、もう1つは**パターンⅡ：(依頼+依応) n+ (交渉)**である。

次に、両言語の話段レベルからみた依頼談話構造における相違点をまとめる。日本語は親しい友達関係でも難しい内容を依頼された場合は初依頼ですぐ承諾をすることが少なく、曖昧か拒絶の態度を取るのが一般的である。延辺朝鮮語は日本語と違って難しい依頼をされても承諾するケースが多く、承諾した場合と曖昧か拒絶した場合の会話数の差が少ない。話段の総数と組合せは、日本語のほうが話段の総数と種類が多く、組合せも複雑であった。日本語は〈交渉の話段〉以外の全ての話段の使用頻度が延辺朝鮮語より多い。(依頼+依応答)の組合せに関しては日本語のほうが数的に延辺朝鮮語より多い。【再依頼部】で日本語では多種多様な話段が出現した。

8.1.2 【本用件部】

(1) ストラテジーの出現頻度

日本語の【本用件部】は話者交替が激しく、1ターン内での内容は多くはないが、ストラテジーの総数とほぼ全てのストラテジーの1会話平均が延辺朝鮮語より数が多い。特に、初依頼で承諾が得られなかった場合は1会話当たり平均が延辺朝鮮語の2倍以上にも上っていた。日本語は【本用件部】で被依頼者の態度の影響を受けやすいが、延辺朝鮮語はそれほどではないことを物語っている。各ストラテジーの使用数をみると、日本語は特に「情報提供-相槌」の応答ペアが延辺朝鮮語よりずっと多い。両言語にはそれぞれ片方の言語のみに見られた特徴的なストラテジーがある。日本語には{対人的配慮型}が、延辺朝鮮語には{圧力型}が特徴的である。親友でも難しい依頼をする時、日本語は相手に配慮するが、延辺朝鮮語は相手に圧力をかけることで承諾を強要することがある。

(2) 【本用件部】の始まり

日本語は【本用件部】の始まりで使用するストラテジーが短簡であるのに対して、延辺朝鮮語は長くてストラテジーの組合せが複雑である。両言語は最初に使うストラテジーによって次の展開が予測できる傾向がみられた。日本語は始まりで「依頼」と「情報提供」が初依頼で承諾を得やすい。延辺朝鮮語は「負担感の軽減」のストラテジーが有効的で、使えるストラテジーを多種多様に使うと、依頼が成功しやすくなる。

(3) 談話展開のパターン

「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」を応答ペアと見做し、構造パターンをみたが、両言語とも特定のものに集中する傾向が見られた。日本語は依頼をすることになった経緯や、依頼者が置かれている状況を徐々に被依頼者に浸透させ、ゆっくり被依頼者とやり取りをし

ながら依頼を切り出す特徴がある。そのため、日本語では「情報のやり取り+隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」/「拒絶」」が主要な談話展開のパターンとなっている。それに対して、延辺朝鮮語の主要な談話展開のパターンは「隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」/「拒絶」」となっている。ほかにも、「承諾/曖昧/拒絶」を保留する挿入発話連鎖、「依頼のストラテジーが現れない」展開が両言語に見られた。

(4) 「情報のやり取り」と「依頼」の仕方

まず、「情報のやり取り」についてまとめる。日本語は話者交替が激しく、【本用件部】で「情報提供+相槌」が数多く使用されていた。延辺朝鮮語は話者交替が少なく、依頼者は1ターンで沢山の情報量を提供していて、複数ストラテジーが多用される傾向があった。次に、依頼の仕方に関しては、日本語は「依頼」のみ話されることが多く、複数ストラテジーの使用は多くはないが、「情報提供」か「配慮発話」を「依頼」と組合せて相手に配慮をしながらソフトに依頼を切り出すのが一般的となっている。それと反対に延辺朝鮮語は使えるストラテジーを何でも使おうとして1発話に複数ストラテジーを使用することが多く、{圧力型}を複数ストラテジーに組合せたりして強く訴える特徴があった。

(5) 【本用件部】の終わり

「依頼・承諾」の場合は、日本語は延辺朝鮮語のほうより「積極的受諾型」が多い。複数ストラテジーで日本語は「対人的配慮の発話」を「承諾」と組合せているが、延辺朝鮮語は「非難」を「承諾」と組合せたり、「相手の発話を復唱」と「承諾に有利な情報を含む発話」を組合せたりしている。「依頼・曖昧」の場合は、両言語は終わりで単独ストラテジーを使用して曖昧な態度を示すことが多い。日本語は「相手の発話を確認・復唱」「詳しい情報を要求する」のが最も多く、延辺朝鮮語は「相手の発話を確認・復唱」「思案・曖昧」が多い。「依頼・拒絶」の場合は、両言語は単独ストラテジーの「直接的な断り」で終わるのが最も多い点で似ている。間接的な断り方は日本語のほうが多く、延辺朝鮮語は「依頼・拒絶」の終わりで断り方が直接的で、強硬な態度で相手を諦めさせるストラテジーも使っていた。

8.1.3 【再依頼部】

(1) ストラテジーの全体的傾向

日本語は【本用件部】で延辺朝鮮語よりストラテジーの総数と1会話平均数が多かったが、【再依頼部】では1会話あたりの平均使用数で、日本語より延辺朝鮮語のほうが多いストラテジーもあった。【再依頼部】になると延辺朝鮮語も日本語と同様、積極的にストラテジーを使用しようとする傾向が伺える。最も変化が大きいストラテジーは【本用件部】で使用が僅かだった{負担感関連型}である。【再依頼部】では両言語とも1つの会話に1以上現れるよ

うになっている。【再依頼部】で有効な戦略となったことを説明している。

(2) 【再依頼部】の始まりに使用された戦略

【本用件部】の拒絶直後に使用された「受け止め」の戦略の割合は日本語が延辺朝鮮語の10倍弱もなっている。【再依頼部】の他の始まり方は、【本用件部】の始まりでよく使っていた{主張型}{論理型}以外に{負担関連型}が付け加わった。延辺朝鮮語は【再依頼部】でも{圧力型}を多用していることが分かった。

(3) 「談話中で依頼を断られない展開」：「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程

a 隣接ペアとしての「依頼」と「承諾」

両言語は{負担感関連型}{主張型}{論理型}を使用している点で似ている。延辺朝鮮語はそれ以外に{対人的配慮型}と{圧力型}も使用している。「依頼」の仕方において、日本語は{主張型}と{負担感関連型}の戦略に使用が集中している特徴があった。延辺朝鮮語は戦略の組合せを多様に駆使して再依頼を行っている。「承諾の仕方」において両言語ははっきりと承諾の意思を表明する点で似ているが、日本語のほうがより相手に対して配慮していることが分かった。

b 応答を保留する挿入発話連鎖

日本語では「積極的な態度か配慮の態度」と取っても完全に依頼が成功していないと思うため、主に単独戦略を何でも使おうとする傾向があった。延辺朝鮮語では被依頼者が「積極的な態度」を依頼がほぼ達成できたと思ってそれ以上依頼を続けていない。

c 被依頼者が【再依頼部】を切り出す場合

この展開で被依頼者が主導的に積極的な態度を取っているため、依頼者は特に戦略を工夫しなくても依頼は成功へと展開していくことが明らかになった。

(4) 「談話中で依頼を断られる展開」：「依頼」と「拒絶」の応答ペアの形成過程

a 隣接応答ペアとしての「依頼-拒絶」

両言語ではA1とA2の戦略に使用が集中している点で似ているが、延辺朝鮮語はA1、A2の1会話平均使用数が日本語を上回っている。被依頼者の「拒絶」に発話された戦略は両言語とも「直接的な断り」が多い点では似ているが、日本語のほうが延辺朝鮮語より間接的な断りが多い。

b 拒絶を保留する挿入発話連鎖：

日本語では「依頼」から「拒絶」に到るまでの形成過程で単刀直入に拒絶せず、拒絶の前に様々なクッション、徐々に相手に拒絶することを予測させている。それに対して、延辺朝鮮語は「拒絶」の予告を含まず、直接に「拒絶」が発せられることが日本語より多い。

c 拒絶直後のストラテジー

日本語は拒絶に対して一旦受け止めるストラテジーが延辺朝鮮語の9倍以上も使用されているのに比べて、延辺朝鮮語は{圧力型}を{負担感関連型}と{主張型}と組合せて使用する傾向があった。

d 実質的な展開に寄与したストラテジー

実質的な展開に寄与したストラテジーは依頼者と被依頼者のどちらからでも発話することができる。日本語と延辺朝鮮語で{負担感関連型}に関する内容が実質的な進展に寄与するのに、効果的であった。また、日本語では「依頼」、延辺朝鮮語では相手に圧力をかけるストラテジーも依頼談話進展に寄与していることが明らかになった。

(5) 「談話中で依頼を断られる展開」: 「依頼」と「承諾」の応答ペアの形成過程

a 隣接応答ペアとしての「依頼」と「承諾」

この展開で両言語の会話者が使用するストラテジーがシンプルになっていた。両言語とも特に特定のストラテジーに使用が集中することはなかった。「承諾」のストラテジーに使用においては、日本語は「負担感の軽減」、「受け止め」、「直接依頼」、延辺朝鮮語は「負担軽減に関するもの」、「懇願」、「加圧」が使用されていた。

b 承諾を保留する挿入発話連鎖:

両言語は被依頼者の積極的な態度を取った後、会話者間のやりとりを通して合意をして最終的に依頼は成功する。しかし、被依頼者が曖昧な態度を取るのに使用したストラテジーに両言語では差異が見られた。日本語では「相手の発話を復唱」か「相槌」という非実質的な内容のストラテジーを発しており、延辺朝鮮語では実質的な内容のストラテジーを使っていた。

ここでは、これまでの論を踏まえたうえで、日本人の親友にどのように依頼をしたらいいかという依頼の要領に関して、筆者なりの留意点を述べる。

a 日本語特有の「依頼-承諾」の応答ペアの形成過程を洞察し、「情報提供」は詳しく、依頼はゆっくり持ち出し、ソフトに表現

日本語は最初に使うストラテジーによって次の展開が予測できる。特に、日本語は「依頼」と「情報提供」を使うと依頼成功に繋がりやすくなる。そのため、一気に1ターンで沢山話して性急に依頼目的を達成しようとせず、依頼をすることになった理由や情報を極力詳細に伝える必要がある。その後、ソフトに依頼を切り出すのが望ましい。「情報提供」の後、「称賛」「負担感の埋め合わせ」「配慮発話/受け止め」を置いたり、「情報提供」のみで依頼の意思を伝えたりして間接的に依頼をしたり、ソフトに依頼を切り出すことが望ましい。

b 権限の原則への違反行為を避ける

依頼談話において、依頼者は状況に決定権を持っていない。ところが、延辺朝鮮語では{圧力型}が有効に依頼遂行を促している。日本語ではこの類のストラテジーは禁ずるべき違反行為であって人間関係を壊してしまう。よって、日本人に依頼する時は、相手に気配りながらソフトな接し方をするとよい。

c 日本語特有の「依頼-拒絶」の応答ペアの形成過程を洞察して、対策を講じる

日本語には日本語特有の「依頼」と「拒絶」の応答ペアの形成過程及び拒絶に対する受け止め方がある。「拒絶」の前に準備段階を置いて、徐々に相手に拒絶することを予測させるプロセスは日本語学習者にとって理解しにくいものである。且つ、拒絶された場合は一旦受け止めてから再依頼をする。これらを洞察して円滑な対応ができると、無駄な言語行動が避けられるし、実質的な進展に寄与するストラテジーを有効に活用したりするといった対策を講じることによって、勝算のある依頼談話の構築が可能になる。

d 被依頼者の反応に関して敏感に対応し、共同作業で構築する

日本語は【本用件部】と【再依頼部】の何れの【部】でも、たくさんのストラテジーを使用しているが、延辺朝鮮語は【本用件部】で使用するストラテジーが少なく、【再依頼部】で日本語とだいたい同数のストラテジーを使用している。日本語は情報を提供する時に、依頼者が一方的に情報を提供するが、被依頼者とのターン交替が頻繁なため、1ターンで伝える内容は1件か2件しかないのが一般的である。すなわち、日本人と話す時は、会話参加者が互いに敏感に反応しながら、共同に談話を構築していき、被依頼者にターンを取るチャンスを十分に与えると依頼は成功しやすくなる。

8.2 今後の課題

本研究では、依頼談話を〈話段〉レベルの全体的構造と、「ストラテジー」レベルの依頼談話構造を会話者間の相互作用の視点から分析することによって、日本語と延辺朝鮮語の依頼談話の構造において、類似点と相違点の一端を明らかにした。

その結果、〈話段〉の分析を通して、両言語の依頼談話構造には幾つかのパターンがあることが分かった。そして、ストラテジーレベルで【本用件部】と【再依頼部】における「依頼」と「承諾」、「依頼」と「拒絶」の応答ペアの形成過程をみることで、両言語にはそれぞれ得意な会話者間で望ましいと思われる談話展開のやり方があることが明らかになった。

しかし、次のような課題も残っている。

(1) 両言語の依頼談話におけるストラテジー使用をより明らかにするためには、最後まで拒絶する場合のケースもあわせて検討する必要があると思われる。これについては、今後の課題としたい。

(2) 本研究では行った調査の中、「親の同関係」しか分析できなかったが、「親の同関係」では談

話の構造と展開が一定していて、「上関係」と「下関係」ほど談話展開の変化の幅が広がらない可能性があると思うため、今後は「上関係」「下関係」も考察したい。そして、非言語的行動と最終的に依頼目的が達成できなかったものも含め、依頼談話をより詳しく研究したい。

(3) 再依頼についての研究は、文の複雑さや、展開のバリエーションの多様さ、無傾向性などの要素を考慮しなければならないので、依頼者と被依頼者の相互作用の中で言語行動の特徴を解明するために有効な捉え方が本研究以外にも存在するかもしれない。今後の課題にしたい。

【参考文献】

〔外国語文献〕

- Austin, J.L. (1962) *How to do things with words*. Oxford, Clarendon Press, London. (坂本百大訳(1978) 『言語と行為』大修館書店)
- Brown, P & Levinson, S. C. 1987 *Politeness some universals in language usage* Cambridge University Press
- Brown, G. & Yule, G. (1983) *Discourse Analysis*. Cambridge University Press.
- Clark, H.H., & French, J.W. (1981) *Telephone goodbyes*: Cambridge University Press
- Cody, M. J., Canary, D. J., & Smith, S. W. (1994) . *Compliance-gaining goals: An inductive analysis of actors' goal types, strategies, and successes*. In J. A. Daly & D. J. Wireman (Eds.), *Strategic interpersonal communication*. NJ: Lawrence Erlbaum Associates. PP.33-90
- Gillian Brown, George Yule (1983) *Discourse Analysis* by Publisher: Cambridge University Press
- Goffman, E. (1967) *Interaction ritual: Essays on face-to-face behavior*. New York: Doubleday
- Grice H. P. (1975). *Logic and Conversation In Cole and Morgan*(eds) PP. 41-58
- Kasper and Dahl (1991) Research method in Interlanguage pragmatics. *Studies in Second Language Acquisition* 13, PP. 215-247
- Levinson, S. C. (1983) *Pragmatics*. Cambridge University Press.(安井稔・奥田夏子訳(1990) 『英語語用論』研究社)
- Sacks, H., E. Schegloff and Jefferson. (1974) *A Simplest Systematics for the Organization of Turn-taking for Conversation*. *Language* 50: PP. 696-735
- Sacks, Schegloff, and Jefferson (1978) *A simplest systematics for the organization of turn taking for conversation*. In Schenkein PP. 1-55.
- Schegloff, E.A. (1968) *Sequencing in conversational openings*. *American anthropologist* 70 PP.1075-1095
- Schegloff, Emanuel A. (1972). Notes on a Conversational Practice: Formulating Place. In David Sudnow (ed.), *Studies in Social Interaction*. New York, PP. 75-119.
- Schegloff, E. A. and Sacks, H. (1973) *Opening up closing*. *Semiotica*, 8, PP. 289-327
- Schegloff (1979) *Indentification and Recognition in Telephone Conversation Open-ings*. In Psathas, G.(sds.) *Everyday Language: Studies in Ethnomethodology*. New York: Irvington. PP.23-78
- Schegloff, E. (1986) *The Routine as Achievement*. *Human Studies* 9: 111-51

- Schegloff, E. (1988) *Presequences and Indirection: Applying Speech Act Theory to Ordinary Conversation. Journal of pragmatics* 12: PP.55-62
- Searle, J. R. (1969) *An essay in the philosophy of language*. Cambridge University Press, London. (坂本百大・土屋俊訳(1986)『言語行為』頸草書房)
- Searle (1975) Indirect speech acts. In P. Cole & J. L. Morgan. (Eds.), *Syntax and semantics volume 3, Speech acts*. New York, NY: Academic Press. PP.59-82
- Spencer-Oatey, H. (2000) *Culturally Speaking: Managing Rapport through Talk across Cultures*. The Continuum Publishing Company. (浅羽亮一 監修 田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・熊野真理・福島佐江子訳 (2004) 『異文化理解の語用論 - 理論と実践 - 』 研究社)
- Tannen, D. (1984) . *Conversational style: Analyzing Talk among friends*. Norwood, NJ: Ablex
- Watzlawick, P., Beavin, J. H., & Jackson, D. (1967). *The pragmatics of human communication*. New York: Norton.

【日本語文献】

- アクドーアン・プナル (2008) 「日本人学生とトルコ人学生の依頼行動の分析—相手配慮の視点から—」 『世界の日本語教育日本語教育論集』 18 PP. 57-72
- 池田裕・三好理英子・浅井尚子・章奕 (2000) 「中国人日本語学習者の言語行動—日本語と中国語における依頼—」 『多摩留学生センター教育研究論集』 2 PP. 27-37
- 猪崎保子 (2000) 「接触場面における『依頼』のストラテジー—日本人とフランス人日本語学習者の場合—」 『世界の日本語教育—日本語教育論集』 10、PP. 129-145
- 市川孝(1978) 『国語教育のための文章論概説』 教育出版
- 井出祥子 (1982) 「待遇表現と男女差の比較」 『日英語比較講座文化と社会 第5巻』 大修館 PP. 111-148
- 今井芳昭 (2005) 「依頼・要請時に用いられる影響手段の種類と規定因」 『心理学評論』 48-1 PP. 114-133
- 今井芳昭 (2006) 『依頼と説得の心理学—人は他者にどう影響を与えるか (セレクション社会心理学)』 サイエンス社
- ヴィヴィアン・バー (1997) 『社会的構築主義への招待—言語分析とは何か』 田中一彦訳 川島書店
- 上野田鶴子 (1983) 「命令と依頼」 水谷修編『話しことばの表現 講座日本語の表現 3』 筑摩書房 PP. 45-53
- 岡本真一郎 (1986) 「依頼の言語的スタイル」 『実験社会心理学研究』 第 26 巻 第 1 号、PP. 47

- 岡本真一郎(1988)「依頼表現の使い分けの規定因」『愛知学院大学文学部紀要』第18号 PP. 7-14
- 巖庭美(1997)「日本と韓国の大学生の依頼の場面でのHedge表現使用における男女差の比較—主に丁寧さ(politeness)の観点から—」『ことば』18、PP. 27-40
- 巖庭美(1999)「日本語と韓国語の依頼の構造とストラテジー—moveの観点から—」『言語情報科学研究』4、PP. 47-68
- 巖庭美(2004)「日本語と朝鮮語における依頼の仕方の対照研究—発話機能の観点から—」『言語と文化』7、PP. 1-11
- 柏崎秀子(1993)「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」『日本語教育』79 PP. 53-63
- 柏崎秀子(1995)「談話レベルで捉える丁寧さ—談話展開が丁寧度評定に与える影響—」『亜細亜大学日本文化研究所紀要』1 亜細亜大学 PP. 61-75
- 許清平(2002a)「日中母語話者における『依頼』発話行為に関する研究—意味公式の使用について—」『語文と教育』16 PP. 47-38
- 許清平(2002b)「日本語母語話者の『依頼』表現に関する研究：場面認識の異同を中心に」『鳴門教育大学実技教育研究』12 鳴門教育大学 PP. 81-90
- 熊井浩子(1992)「留学生にみられる談話行動上の問題点とその背景」『日本語学』11-13、PP. 72-80 明治書院
- 熊谷智子(1995)「依頼の仕方—国研岡崎調査のデータから—」『日本語学』14-10 明治書院 PP. 22-32
- 熊取谷哲夫(1995)「発話行為理論と依頼表現—発話行為から談話行動へ—」『日本語学』vol. 14-10 明治書院 PP. 12-21
- 顧明耀・趙剛・于琰(1998)「会話分析による日中対照研究—依頼のストラテジーの考察—」『広島女子大学国際文化学部紀要』6 PP. 7-25
- 国立国語研究所(1971)『待遇表現の実態—松江24 時間調査資料から—』秀英出版
- 国立国語研究所(1972)『談話型による第2次岡崎敬語調査3場面分析の試み』
- 国立国語研究所(1981)「日常会話の話題の推移—松江テキストを資料として」『方言学論叢1—方言研究の推進』三省堂
- 国立国語研究所(1983)「談話の単位」『日本語教育指導参考書11 談話の研究と教育 I』大蔵省印刷局
- 国立国語研究所(1987)『談話行動の諸相—座談資料の分析—』三省堂
- 国立国語研究所(1994)『日本語教育映像教材 中級編 関連教材 「伝えあうことば」4 機能一覧表』第2部 談話型一覧表、大蔵省印刷局 PP. 208-224
- 阪田雪子(1987)「五 依頼表現の種々相」『国文法講座6 時代と文法』山口明穂編、明示書

- 院 PP. 319-325
- 佐久間まゆみ(1987)「文段認定の一基準 (I) — 提題表現の統合 —」『文藝言語研究言語編』11、PP. 89-135
- 佐久間まゆみ(1989)『文章構造と要約文の諸相』日本語研究叢書 (4)くろしお出版
- 佐久間まゆみ(2000)「文章・談話における『段』の構造と機能」『早稲田大学日本語教育センター紀要』13 早稲田大学日本語教育センター PP. 67-84
- 佐藤里美(1992)「依頼文—してくれ、してください—」『ことばの科学5』むぎ書房 PP. 109-174
- ザトラウスキー・ポリリー(1991)「会話分析における「単位」について—〈話段〉の提案」『日本語学』vol. 10-10、明治書院 PP. 79-96
- ザトラウスキー・ポリリー(1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版
- 鮫島重喜(1998)「コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定型表現・文末表現の習得過程—中国語話者の『依頼』『断り』『謝罪』の場合—」『日本語教育』98 PP. 73-84
- ジェフリー・N・リーチ (1987)『語用論』池上嘉彦 河上誓訳 紀伊國屋書店
- 施信余(2006a)「『依頼・断り』のコミュニケーションについて—日本人同士と台湾人同士による電話会話の分析から—」待遇コミュニケーション研究会編『待遇コミュニケーション研究』4、PP. 17-32
- 施信余(2006b)「日本語における『依頼・断り』のコミュニケーションについて—日本人女子大学生同士の電話会話を分析対象に—」早稲田大学大学院日本語教育研究科編『早稲田大学日本語教育研究』8、PP. 51-62
- 施信余(2007)『「待遇コミュニケーション」における「依頼」に対する「断り」の研究：日台の言語行動の比較を中心に』早稲田大学日本語教育研究科博士論文
- 謝オン(2000)「談話レベルからみた『依頼発話』の切り出し方—日本人大学生同士と中国人大学生同士の依頼談話から—」『東京外国語大学日本研究教育年報』5号、PP. 77-101
- 徐孟鈴(2008)『日台接触場面の台湾人上級日本語学習者の依頼会話に関する研究：日本人・台湾人両母語場面と比較して』名古屋大学国際言語文化研究科博士論文
- 杉戸清樹(1983)「〈待遇表現〉気配りの言語行動」水谷修編『講座日本語の表現 3 話しことばの表現』筑摩書房 PP. 129-132
- 杉戸清樹(1987)「発話のうけつぎ」『談話行動の諸相—座談資料の分析』『国立国語研究所報告』92、PP. 67-107 三省堂
- 高木美嘉(2003)「依頼に対する「受諾」と「断り」の方法」『早稲田大学日本語教育研究』第2号、早稲田大学大学院日本語教育研究科、PP. 137-149
- 田中茂範、深谷昌弘(1996)『コトバの<意味づけ論>』紀伊国屋書店
- 張雪梅(2008)『日本語と朝鮮語における依頼談話の対照研究』広島大学国際協力研究科修士

論文（未公刊）

- 張雪梅(2009)「日本語と延辺朝鮮語における依頼談話の対照研究—準備段階の実際を中心に—」 主编李东哲『日本語言文化研究 中朝韩日文化比较研究丛书』延辺大学出版社
PP. 180-189
- 張雪梅(2013)「日本語と延辺朝鮮語における依頼-拒絶-再依頼の展開について-談話構造とストラテジーの考察を中心に-」『国際協力研究誌』19-3号 広島大学大学院 PP. 69-84
- 樋田和美(2003)「日本人学生と韓国人留学生における依頼の談話ストラテジー使い分けの分析—語用論的ポライトネスの側面から—」『小出記念日本語教育研究会論文集』11、小出記念日本語教育研究会、PP. 41-57
- ナカミズ・エレン(1992)「日本語学習者における依頼表現—ストラテジーの使い分けを中心として—」大阪大学文学部編『待兼山論叢』26 PP. 49-64
- 中道真木男・土井真美(1995)「日本語教育における依頼の扱い」『日本語学』vol. 14 10月号 PP. 84-93
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房 PP. 229-232
- 能田陽子(1994)『テレビの相談番組における談話構造についての一考察』日本女子大学文学部国文学科卒業論文
- 能田陽子(1996)「テレビの相談番組の談話構造」『国文目白』35 PP. 212-220
- 浜田麻里(1995)「依頼表現の対照研究—中国語における命令依頼の一—」『日本語学』10月号 明治書院 PP. 65-79
- 林宅男(2008)『談話分析のアプローチ』研究社
- 水野かほる(1996a)「『依頼』の言語行動における中間言語語用論—中国人日本語学習者の場合—」『言語文化論集』17(2) PP. 91-106
- 水野かほる(1996b)「『依頼』の言語行動における中間言語語用論(2)—directnessとperspectiveの観点から—」『言語文化論集』18(1) PP. 57-72
- 南不二男(1972)「日常会話の構造—とくにその単位について」『言語』1-2 大修館書店 PP. 294-306
- 南不二男(1981)「日常会話の話題の推移—松江テキストを資料として」『方言学論叢1—方言研究の推進』、三省堂、PP. 87-112
- 南不二男(1983)「談話の単位」『日本語教育指導参考書 談話の研究と教育I』国立国語研究所 PP. 91-112
- 南不二男(1987)『国立国語研究所報告92 談話行動の諸相—座談資料の分析』三省堂
- メイナード・泉子・K(1993)『会話分析』くろしお出版
- 森田良行・松木正恵(1997)「八 要求・依頼を示す」『日本語表現文型—用例中心・複合辞の意味と用法』アルク出版 PP. 274-283

山口和代(1997)「コミュニケーション・スタイルと社会文化的要因—中国人および台湾人留学生を対象として—」『日本語教育』93号 PP. 39-59

山梨正明(1986)『発話行為』大修館書店

柳慧政(2004)「日韓の依頼談話の対照研究—談話構造の面から—」『社会言語科学第14回大会発表論文集』PP. 196-199

柳慧政(2006)『依頼談話の日韓対照研究—談話の構造・ストラテジーの観点から』学習院大学人文科学研究科博士論文

【参考した辞書】

David Crystal(1987) *The Cambridge Encyclopedia of Language*. Cambridge University Press. (『言語学百科事典』1992 デイヴィッド・クリスタル著 風間喜代三 長谷川欣佑 監訳 大修館書店)

謝辞

本研究を作成し博士論文をまとめるにあたり、指導教員の深見兼孝准教授に修士課程入学当初から7年間の長い時間にわたり御指導、御鞭撻を賜りました。研究の面と生活の面で暖かく見守ってくださってありがとうございました。テーマの決定、資料の調査方法、研究の進め方、まとめ方など研究の基礎から丁寧にご親切に指導してくださいました。論文の執筆に入ってから、論文の構成から展開、論文の書き方、日本語の言葉遣いに至るまで最初から最後まで熱心に指導していただき、心から感謝しております。

また、本論文の審査の場において副指導教員の黒田則博教授、佐藤暢治教授、高永茂教授、今田良信教授、町博光教授から多くの貴重な助言と御意見を頂きました。ご恩は一生忘れられません。

そして、言語資料の録音に当たって延辺大学と延辺財政学院の先生の方々と学生の皆様、広島大学と広島国際学院大学の学生の皆様に協力を得ることができました。プライバシーを守るために、名前を公開できませんが、皆様の協力なくしては、論文の調査は成り立たなかったと思います。本当にありがとうございました。

最後に、長期にわたって陰で私を支えてくれた家族、特に主人の趙同家にも心から感謝したいと思います。

2013年8月20日

【付録】

依頼者のロールカード A (日本語版)

カード A

あなたの役割：大学生 A (依頼する人)

場面①教材費の締め切りが今日なのにあなたは、財布を家に置いて来ました。あなたは友人に 2000 円借りたいです。

場面②実家の都合で生活費の仕送りが 2 日か 3 日遅れそうです。あなたは友達に 1 万円借りたいです。

場面③来週、あなたは必修科目の授業で先生の指示した論文を読んで、まとめたレジュメをみんなの前で説明しなければなりません。しかし、その論文は英語で書かれたものです。英語の苦手なあなたにはなかなか難しいです。そこで、英語の得意な B さんに 2 頁ぐらい英訳してもらいたい。

場面④は場面③と同じ内容で今度は B さんに 10 頁ぐらい英訳してもらいたいです。

時間的制限：各場面 2 分ずつ

場所：B さんの家または寮

[1] B さんと普段通りに話し合ってください。

[2] B さんに依頼をしてください。相手があなたの依頼を承諾しなくても根気強く続けて頑張ってください。尚、ロールプレイは、あなたが相手と向かい合った状態から始めてください。

被依頼者のロールカード B (日本語版)

カード B

あなたの役割：大学生 B (依頼される人)

場面①教材費の締め切りが今日なのに A さんは、財布を家に置いて来ました。あなたは A さんに 2000 円借りたいという依頼を受けます。

場面②A さんは実家の都合で生活費の仕送りが 2 日か 3 日遅れるようです。あなたは A さんに 1 万円借りたいという依頼を受けます。

場面③来週 A さんは必修科目の授業で先生の指示した論文を読んでまとめたレジュメをみんなの前で説明しなければなりません。しかし、その論文は英語で書かれています。英語の苦手な A さんは英語の得意なあなたに 2 頁ぐらい和訳してほしいと頼みます。

場面④は③と同じ内容で今度は A さんに 10 頁ぐらい和訳してほしいと依頼を受けます。

時間的制限：各場面 2 分ずつ

場所：B さんの家または寮

あなたのすること：

[1] A さんの依頼を聞いて普段通りに話し合ってください。

[2] あなたは金銭的・時間的・能力的 (英語が得意) に手伝えることが可能です。場面①～場面④の中、少なくとも一度は相手の依頼を断ってください。もし、相手が根気強く依頼を続けたら、その時は、仕方なく承諾するか最後まで断るか自由に決めてください。尚、ロールプレイはあなたが A さんと向かい合った状態から始めてください。

依頼者のロールカード A (朝鮮語版)

카드 A

당신의 역할 : 대학생 A (의뢰하는 사람)

장면① 교재비 마지막날이 오늘인데 당신은 지갑을 집에 두고 왔습니다. B로부터 20 원을 빌리려고 합니다.

장면② 집의 사정으로 생활비가 2~3 일 늦어질것같습니다. B로부터 300 원을 빌려달라고 하렵니다.

장면③ 다음주 당신은 필수과목 수업에서 선생님께서 지시한 논문을 종합한 뒤프린트를 작성해서 모든 학생들앞에서 발표해야합니다.그러나 그 논문은 영어로 씌어져 있습니다. 영어가 서투른 당신에겐 상당히 어려운 임무입니다.그래서 영어가 능숙한 B한테 2 페이지쯤 번역해 달라고 부탁합니다.

장면④ 장면③과 같은 내용의 부탁을 이번엔 10 페이지로 해달라 하십시오.

시간적 제한 : 각 장면 2분

장소 : B의 집 혹은 숙소

당신이 할 일 :

[1] B와 평시 말하던 그대로 자연스럽게 이야기를 나누십시오.

[2] B에게 부탁하십시오. 만약 상대방에게 거절당했다 하더라도 계속하여 애써 말해보십시오.그럼 두사람의 대화는 상대방이 마주한 상태에서부터 시작하십시오.

被依頼者のロール카드 B (朝鮮語版)

카드 B

당신의 역할 : 대학생 B (의뢰받는 사람)

장면① 교재비 마지막날이 오늘인데 A가 지갑을 집에 두고 왔습니다. A가 20 원을 빌려달라고 합니다.

장면② A가 집 사정으로 생활비가 2~3 일 늦어진답니다. 당신은 A로부터 300 원을 빌려달라는 부탁을 받습니다.

장면③ 다음주 A는 필수과목 수업에서 선생님께서 지시한 논문을 읽고 종합한뒤 프린트를 작성해서 모든 학생들앞에서 발표해야합니다.그러나 그 논문은 영어로 씌어져 있습니다.영어가 서투른 A에겐 상당히 어려운 임무입니다.그래서 영어가 능숙한 당신한테 찾아와서 2 페이지쯤 번역해 달라 할겁니다.

장면④ 장면③과 같은 내용으로 이번엔 10 페이지쯤 번역해달라고 부탁을 받습니다.

시간적 제한 : 각 장면 2분

장소 : B의 집 혹은 숙소

당신이 할 일 :

[1] A와 평시 말하던 그대로 자연스럽게 이야기를 나누십시오.

[2] 장면①~장면④중에서 한번쯤은 A의 부탁을 거절하십시오. A가 계속하여 부탁한다면 그때는 방법이 없이 승낙하거나 끝까지 거절하거나 자유로 결정하십시오.그럼 두사람의 대화는 상대방과 마주한 상태에서부터 시작하십시오.

フェイスシート（日本語版）

ロールプレイのお願い

このロールプレイ（複数の学習者に会話のための「場面」とそれぞれの「役割」を与えて、それに従って自由に会話をさせる練習方法）は日本語と朝鮮語の言語行動を調査する目的で作成されました。他の目的で使用されることはありませんので、気軽に実験に参加してください。そして、実験を録音させていただきますので、ご自身について以下の点をお教えてください。

広島大学大学院博士課程後期 国際協力研究科 張雪梅 mail:xuemei5269@hotmail.com

1. 年齢：() 歳
 2. 性別：□男性 □女性
 3. 職業：□大学生 □大学院生
 4. 所属：() 学類/研究科
 5. 今まで一番長く住んだ場所：()
 6. ロールプレイする相手との関係：□親 □疎
 7. あなたは相手の：□先輩 □後輩
- ご協力ありがとうございました。

フェイスシート（延辺朝鮮語版）

롤플레이의 조사에 협력해주시면 감사하겠습니다.

이 롤플레이 (롤플레이란 외국어학습방법의 일종으로서 실제생활속 등장인물들의 역할을 번갈아 해봄으로써 익힌 외국어표현들을 활용해 볼수 있는 대화연습) 는 일본인과 연변조선족 대학생, 대학원학생들의 언어행동에 관한 연구를 하기 위하여 작성되었습니다. 연구이외의 목적으로 사용하지 않으므로 부담없이 실험에 응해주시면 감사하겠습니다.

広島大学大学院 国際協力研究科 博士課程後期 張雪梅 mail:xuemei5269@hotmail.com

1. 年令：만 () 세
 2. 性別：□남성 □여성
 3. 직업：□대학생 □대학원학생
 4. 소속：() 학부/연구과
 5. 지금 까지 가장 오래 산곳：()
 6. 입학년도：() 년
 7. 상대방은 당신의：□선배 □동배 □후배
- 아무쪼록 잘 부탁드립니다.

【注一覧】

注1：中国吉林省の延辺朝鮮族自治州を居住の中心地とする少数民族の朝鮮族が使う朝鮮語の一方言のことである。咸鏡道方言に基礎を置いており、更に中国語の語彙を大量に取り入れ、韓国語の影響を受けながら、音韻、語彙、文法上特有の言語体系を形成してきた。

注2：膠着した局面を打破して談話を依頼者の望む方向へと展開させたポイントとなったストラテジーを指す。

注3：この例は本研究のデータによるものである。

注4：この例は本研究のデータによるものである。

注5：この例は本研究のデータによるものである。

注6：これらの例は著者の作例である。

注7：談話完成テスト (Discourse Completion Test: DCT) とは、調査協力者に予め設定された状況を与え、実際にその状況に置かれた場合、調査協力者ならどのように答えるかを、空欄に書いてもらうものである。

注8：場面Aは友達に欠席した授業のノートを借りる。場面Bは自分の所属している学科の先生に本を借りる。場面Cは友達に説明会に代わりに行って資料を取ってきてもらう。場面Dは自分の所属している学科の先生に急いで推薦状を書いてもらう。

注9：3.5で述べたように最終的に依頼目的が達成されなかったものはデータから外した。

注10：「依頼」と「曖昧」、「依頼」と「拒絶」を応答ペアと見做し、この2種類の応答ペアの形成過程におけるストラテジーの使用と内容を見た結果、差異がなかったため、別々に分析せずひとくくりにして考察することにする。したがって、「曖昧」が消極的な否定の可能性があるので、今後の課題にする。